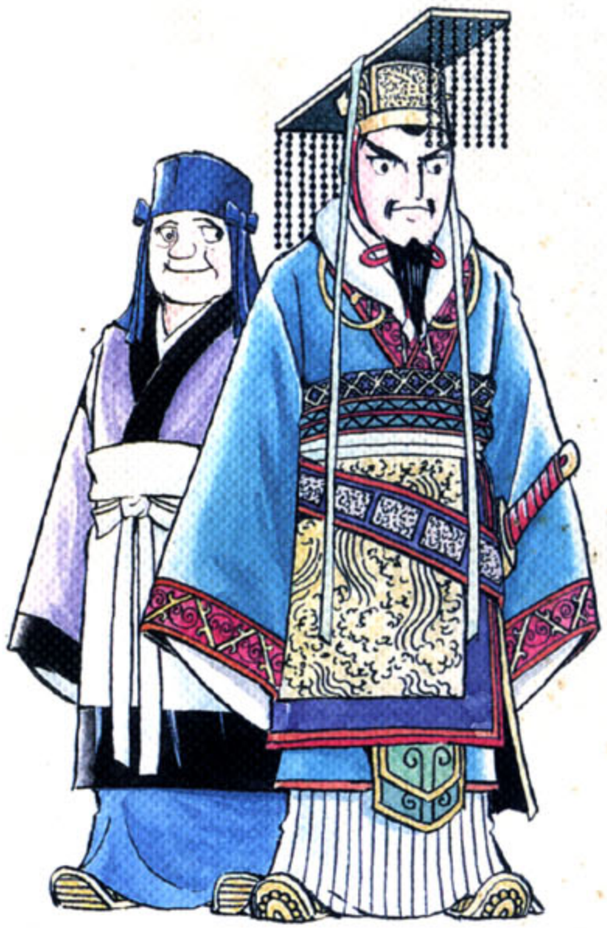
SHOGAKUKAN

始皇帝

史記

横山光輝

8



CHINESE HISTORY[SHIKI]

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS

BIG GOLD COMICS

BIG GOLD COMICS

史記 8

横山光輝 MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS CHINESE HISTORY[SHIKI]

小学館

9784091890481

ISBN4-09-189048-2

C0379 P670E

19103790067 03

定価670円
(本体650円)

BIG GOLD COMICS

CHINESE HISTORY[SHIKI]

ついに中国全土を統一し、ファースト・エンペラーとなった始皇帝!!
栄光の頂点に立ったこの男は何をしたのか……!?
絶対権力を握る皇帝支配による最強の中央集権制を築き上げ、
郡県制、流通、交通網を整備し、万里の長城を完成し、そして焚書坑儒…!!
自らの夢のすべてを獲得した彼は、
〝死〟をも超越したいと願い、あらゆる手をつくすのだが……!?
秦の始皇帝の限りない栄光と孤独に迫る鮮烈の第8巻です!!

横山光輝

MITSUTERU YOKOYAMA PROFILE

昭和29年に「音無しの剣」でデビュー。「鉄人28号」「おてんば天使」「伊賀の影丸」等で不動の地位を確立する。昭和42年より「水滸伝」を連載、さらに昭和46年からライフワークともいえる「三国志」の連載を開始する。「バビル2世」「時の行者」等、SFの傑作も多い。「史記」は、古代中国史全体を見極めようとする新しいライフワークだ。

ビッグゴールド・コミックス

史記①～⑧……横山光輝
平成野球草子①～⑤……水島新司
妖怪博士の朝食①～③ ……水木しげる
ゼンマイ仕掛けの犯罪白書①……青柳裕介
青柳裕介作品集①～②……青柳裕介
ケースハード①～④……松本零士
アトンの娘 全3巻……里中満智子
博愛の人①～⑤……ジョージ秋山
齋藤なずな作品集①～②‥齋藤なずな
紅(くれなる)にほふ①～②……竹宮惠子
トワイライト・ミュージアム……岡崎二郎
理想宮① ……畑中 純
HATAGO〈旅籠〉① ……石ノ森章太郎
石ノ森版立川文庫①猿飛佐助……石ノ森章太郎
心の迷宮①……近藤ようこ

SHOGAKUKAN

始皇帝

史記

横山光輝

8

BIG GOLD COMICS

BIG GOLD COMICS

史記

8

横山光輝 MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS/CHINESE HISTORY[SHIKI]

小学館

BIG GOLD COMICS

CHINESE HISTORY[SHIKI]

SHOGAKUKAN

始皇帝

史記

横山光輝

8

BIG GOLD COMICS

史記〈8〉始皇帝 目次

CHINESE HISTORY [SHIKI]

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS

第1話 保身の術……5

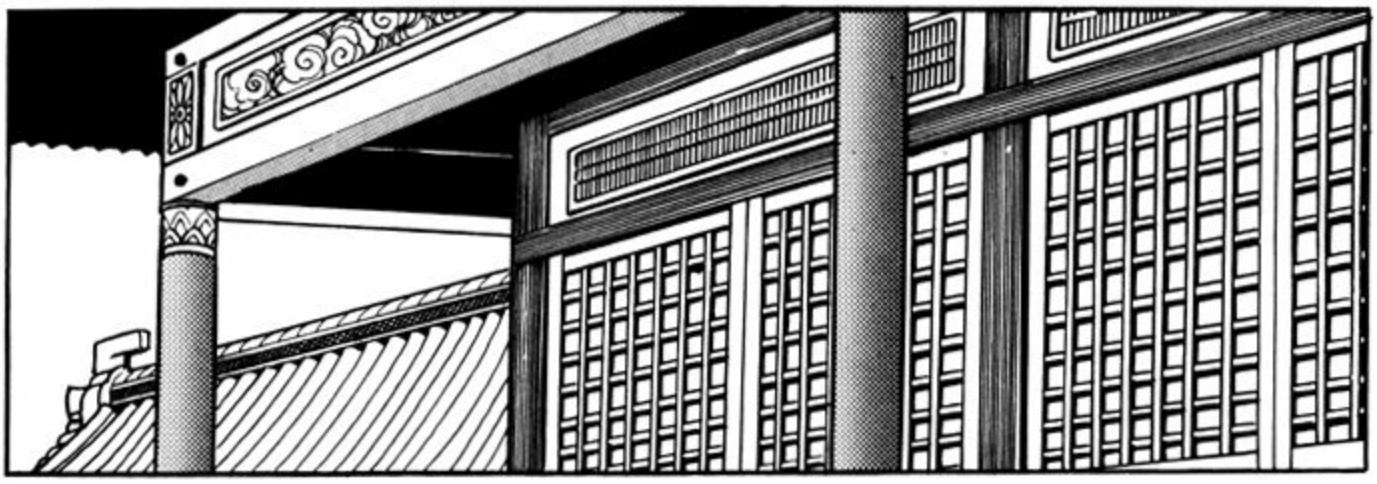
第2話 始皇帝［1］……55

第3話 始皇帝［2］……115

第4話 趙高の陰謀……179

第1話
保身の術

秦は韓、趙、魏と
亡ぼし、着々と
天下統一の地固めを
していった。



3
みなの者、残る国は燕、斉、楚だけである。

燕、斉は今や弱小国で問題はないが、楚は大国、これが天下掌握には問題だ。

そこで将軍達にたずねるが、楚を討つにはどれほどの兵力が必要と思う？

王翦将軍、そなたはどれほど必要と思う？

はい、楚は大国にございますれば、六十万は必要かと思いまする。

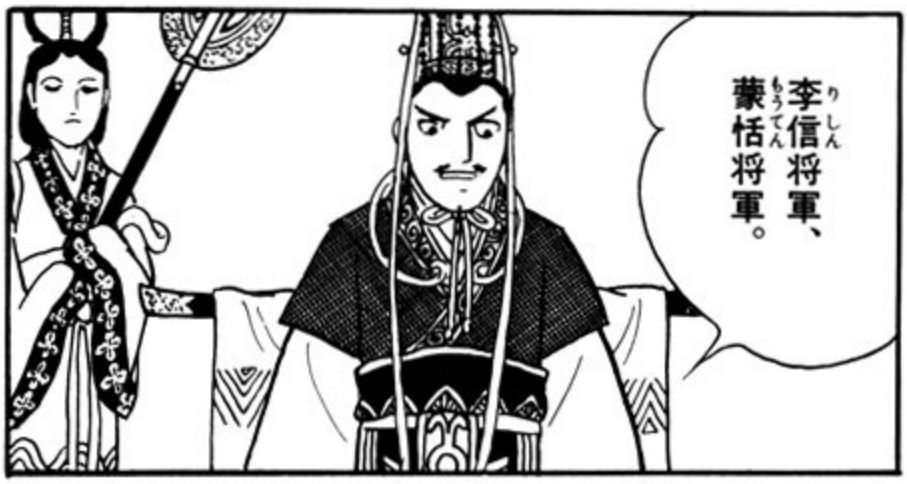
六十万か……秦の全軍に近いのう。

李信将軍、そちはどのように考える。

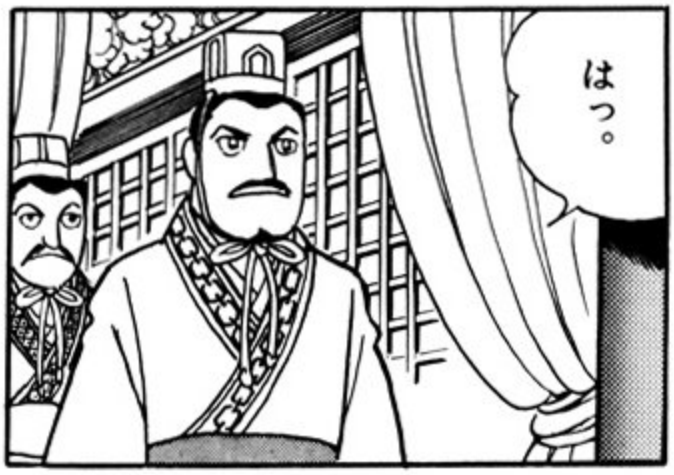
はい、昔ならば六十万は必要でございましたでしょう。しかし秦王さまの政治改革で今の秦軍は精鋭ぞろいです。それがしは二十万あれば大丈夫と思いまする。

そうよのう、無駄めし食いははぶいて精鋭だけにしろと命じたのはわたしであった。

王翦は名将だが年老いて気力が欠けてきたのであろう。


李信将軍、蒙恬将軍。

5


はっ。

はっ。

そちたちに二十万の兵をあずける。楚を攻めよ。

ははーっ。

6

よし、今日の朝議はこれまでじゃ。

……

王翦邸。

7

父上、急なお呼び出し何事でございます。

おお、ちょっと話しておきたいことがあっての。

王賁よ、わしは引退しようと思う。

えっ。

突然、何故でございます？

今日の朝議の決定を知っているであろう。

楚討伐の決定のことでございますか。

そうじゃ、秦王はわしの意見よりも若い将軍の意見を取り上げられた。

8

今、秦はお前も含めて若い将軍がどんどん育っている。秦王はもうわたしのような老将は必要ないと思っておられるのであろう。

父上、一つ意見が通らなかったからといって引退まで考えられることはありますまい。

そなたまだ秦王の性格をつかんでおらぬな。

秦王は人間不信のお方で人を信用なさらぬ。必要だと思う時だけ腰を低くされるが、無用と思うと容赦ない仕打ちをなされる。

わしは樊於期将軍の末路を趙で聞いた時、鳥肌が立ったものじゃ。
……

樊於期将軍は急激な政治改革を少しゆるめるようにと意見しただけじゃ。その結果がどうじゃ。

一族は皆殺しにされ、

樊於期将軍には
金千斤と一万戸の
領地を懸賞として
かけられた。
自分に逆らう者には
容赦がない。

10

そして燕の刺客
荊軻が秦王暗殺の
ために利用して
その首をとどけて
来たのは三年前……

秦王に無用と
思われたり
疑われたりしたら
どんな末路を
たどるかわからぬ。
それで引退しようと
思うたのじゃ。

11

あのお方に
お仕えするのは
むずかしいぞ。
そなたもよく心得て
お仕えするがよい。

はい。

なに病がひどくなり引退したいと申すか。

はい、これでは職務も果せませぬ。故郷に帰り療養したいと思います。

12

よし許す。

秦王政はその時一言ひきとめの言葉もなかった。

まもなく
李信、蒙恬の
ひきいる二十万の
秦軍は楚へ向かった。

13

秦軍は二手に
分かれて楚に
攻め込んだ。

李信の軍は
平与を攻め……

14

蒙恬は寝丘を
攻めた。

ともに大勝利をおさめ、

15

李信はさらに鄢、郢も攻め落とした。

そこで李信は兵を西に返した。蒙恬の軍と城父で合流するためである。

16

だがその時新手の楚軍がひそかに李信軍を追っていたのである。

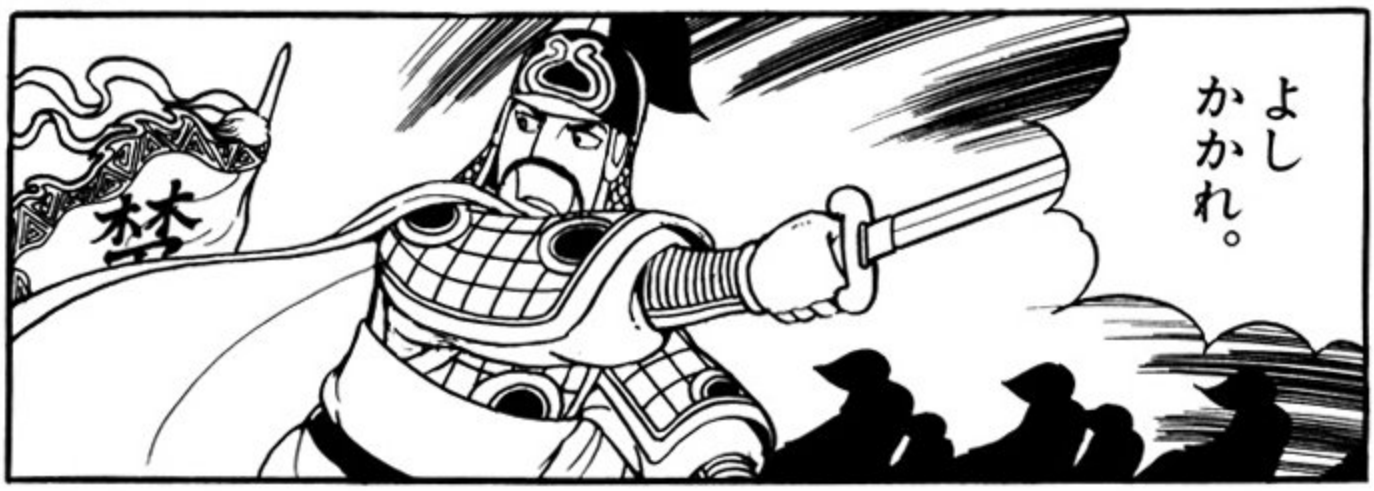
17

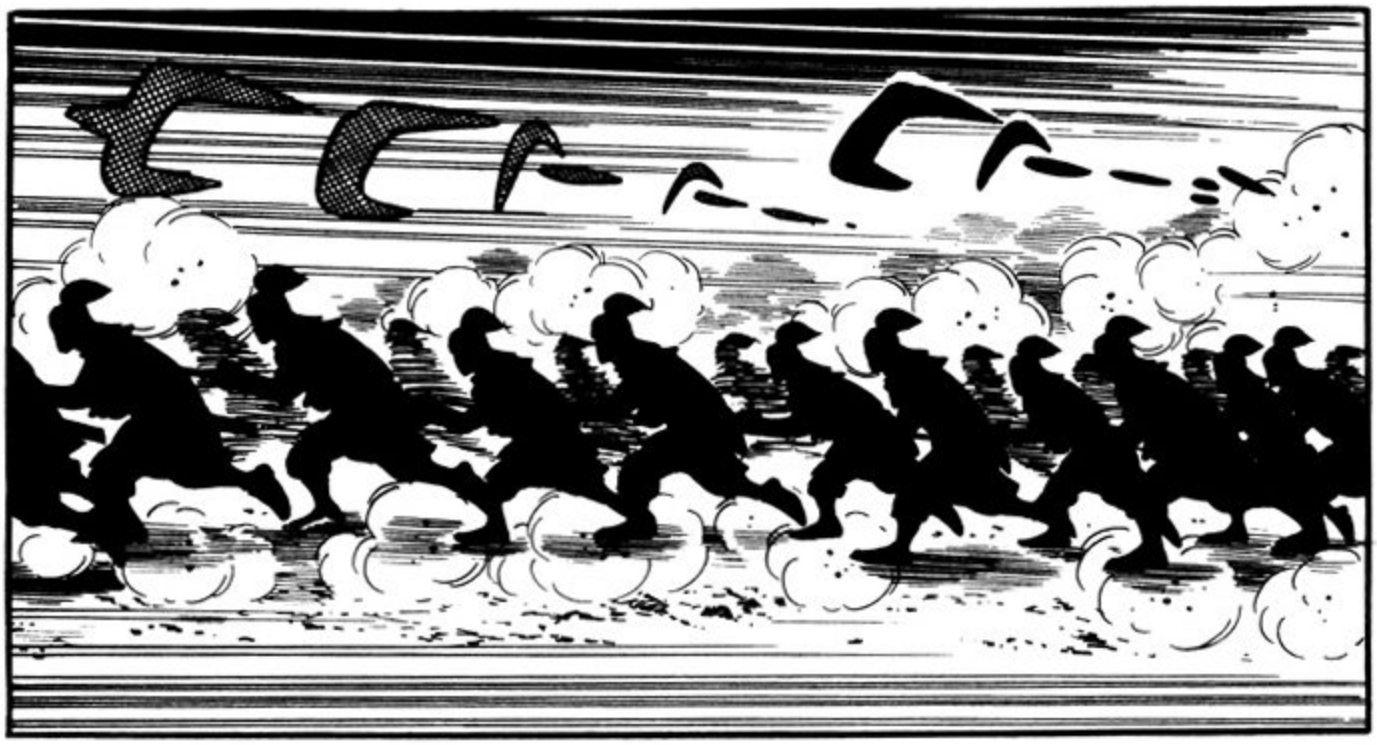
みよ、秦軍の宿営地だ、ついに追いついたぞ。
敵はまだわれらに気づいておりませぬ。

よし、静かに宿営地まで近づくのじゃ。

18

ヒタヒタ





19

20

油断していた秦(しん)軍は大混乱となった。

ワアッ

ワアッ

秦軍は、防衛線として造ってある二つの土城まで逃げこんだ。

21

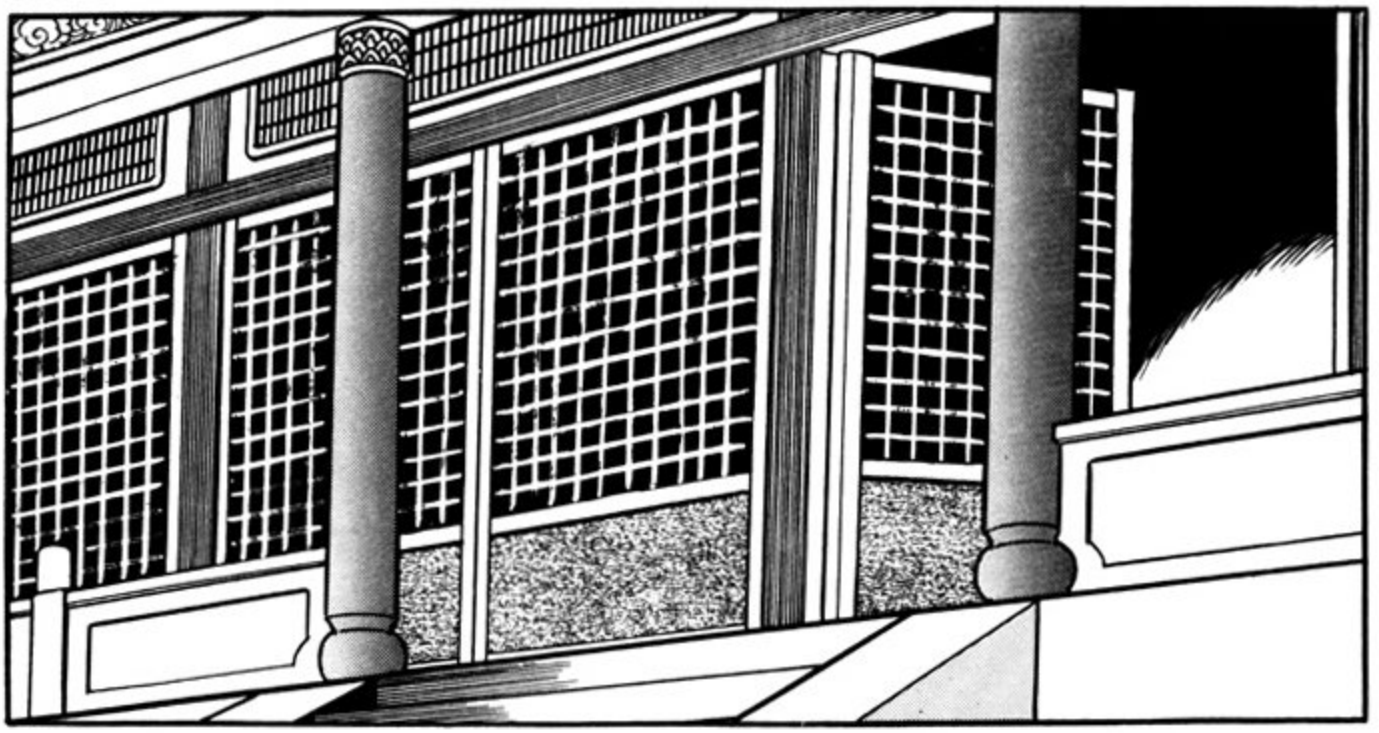
だが楚軍は二つの土城にもなだれこみ落としてしまった。

この戦いで秦は七人の部隊長が戦死し…

みるも無惨な敗走となった。

22

楚軍は追撃の手をゆるめず秦にまで突入する勢いをみせた。



23

なにっ、李信の軍が大惨敗をいたしたと。

はい、楚軍は勝ちに乗じ秦にせまる勢いでございます。

24

秦王はおどろいて王翦の郷里へ出むいた。

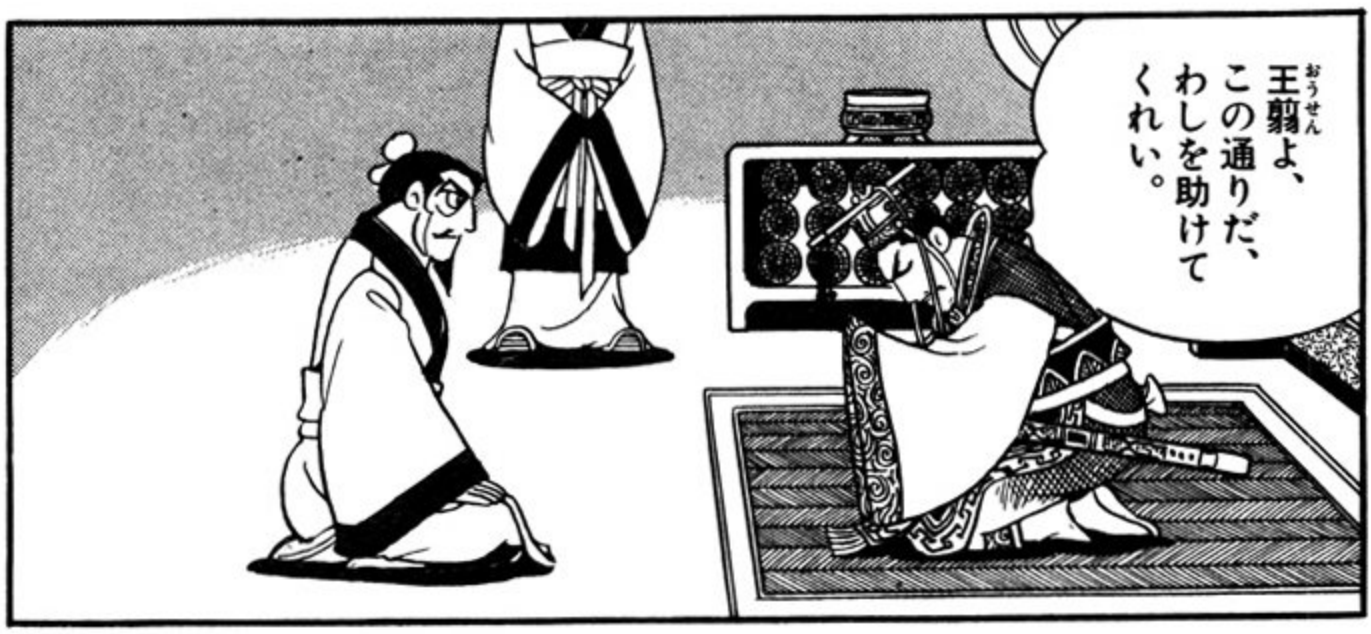
25

えっ……
それがしに
楚討伐の
指揮をとれ
と！

そうだ、わしが
そなたの意見を
入れなかったから
このような事が起こった。
楚軍は勢いに
乗り咸陽を
めざしているという。
安心して頼めるは
そなただけじゃ。

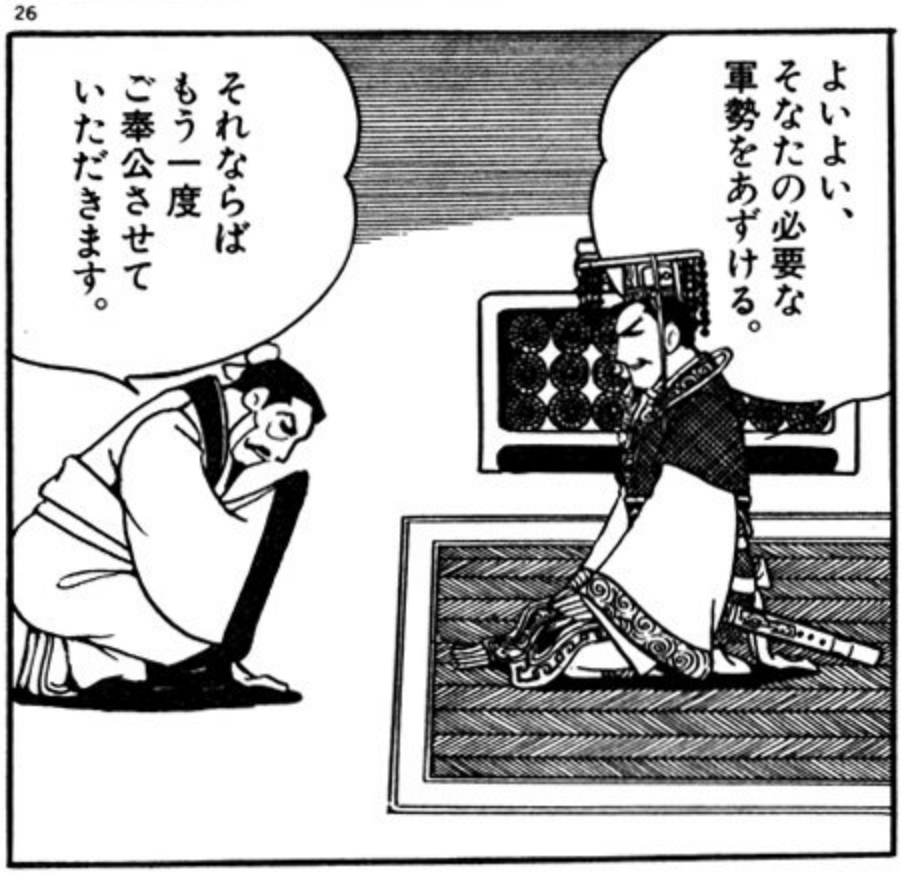
お待ち下さりませ、わたしは病で隠居した身、どなたか別の将をお選び下さりませ。

いや、こういう時は血気にはやる将よりも戦いなれた老練な将が必要じゃ。


王翦よ、この通りだ、わしを助けてくれい。

26

わたしには六十万の兵がなければ自信がございませぬ。


よいよい、そなたの必要な軍勢をあずける。
それならばもう一度ご奉公させていただきます。

こうして王翦は
秦軍六十万の
将として返り咲いた。
それは秦全軍の
将といってもよかった。

27

秦王政は
灞水まで王翦の
出陣を見送った。

秦王さま、一つお願いがございまする。

なんだ。

それがし帰って参りましたならば、立派な屋敷と田地をたまわりとうでございます。子孫に残しておきたいと思っておりまする。

おう、恩賞のことか、心配いたすな、そなたに貧乏はさせぬ。

それを聞いて仕事もやりがいがございます。

28

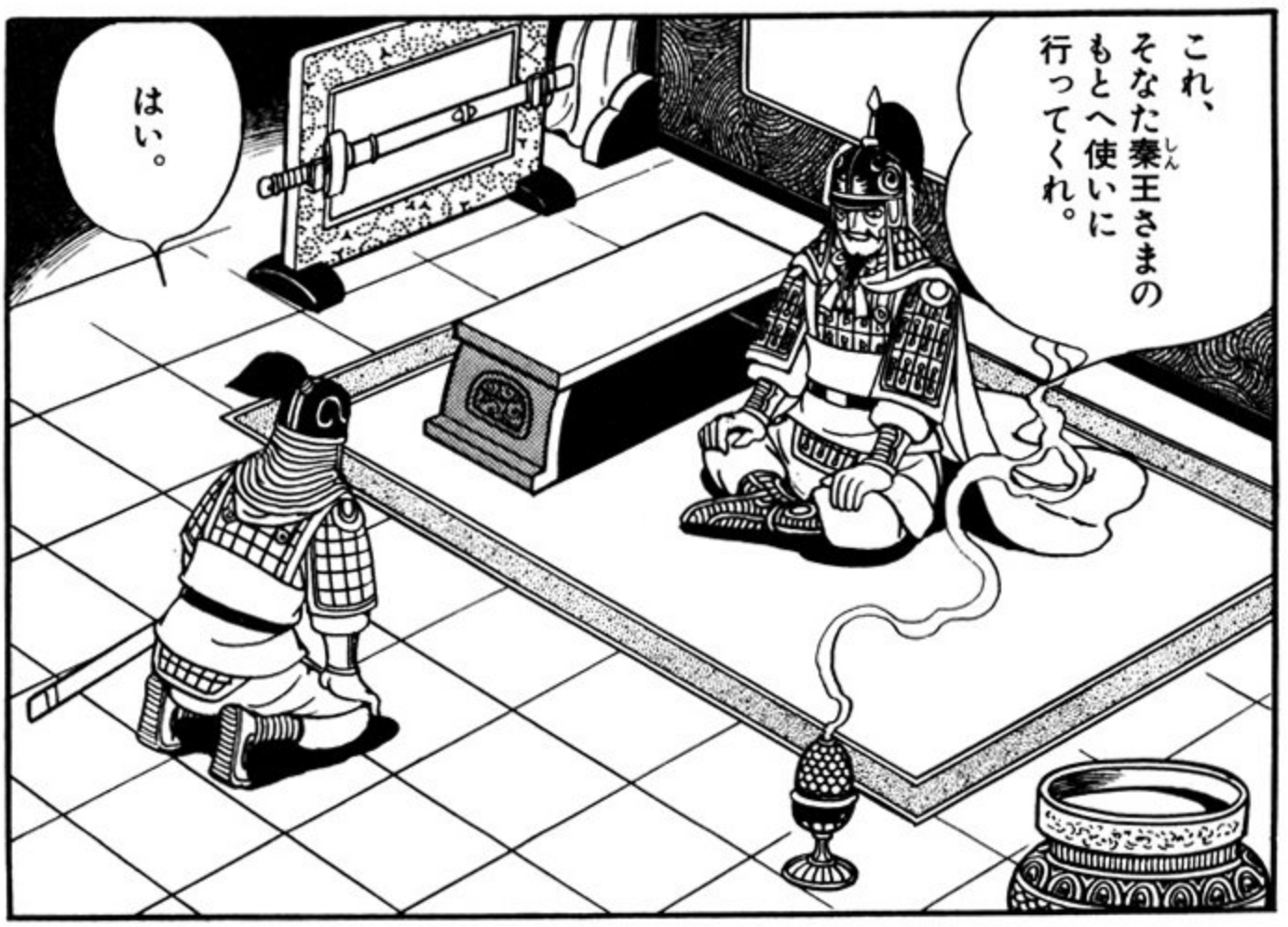
こうして王翦は出陣した。

秦王

秦

函谷関、そこは秦の玄関口である。

29

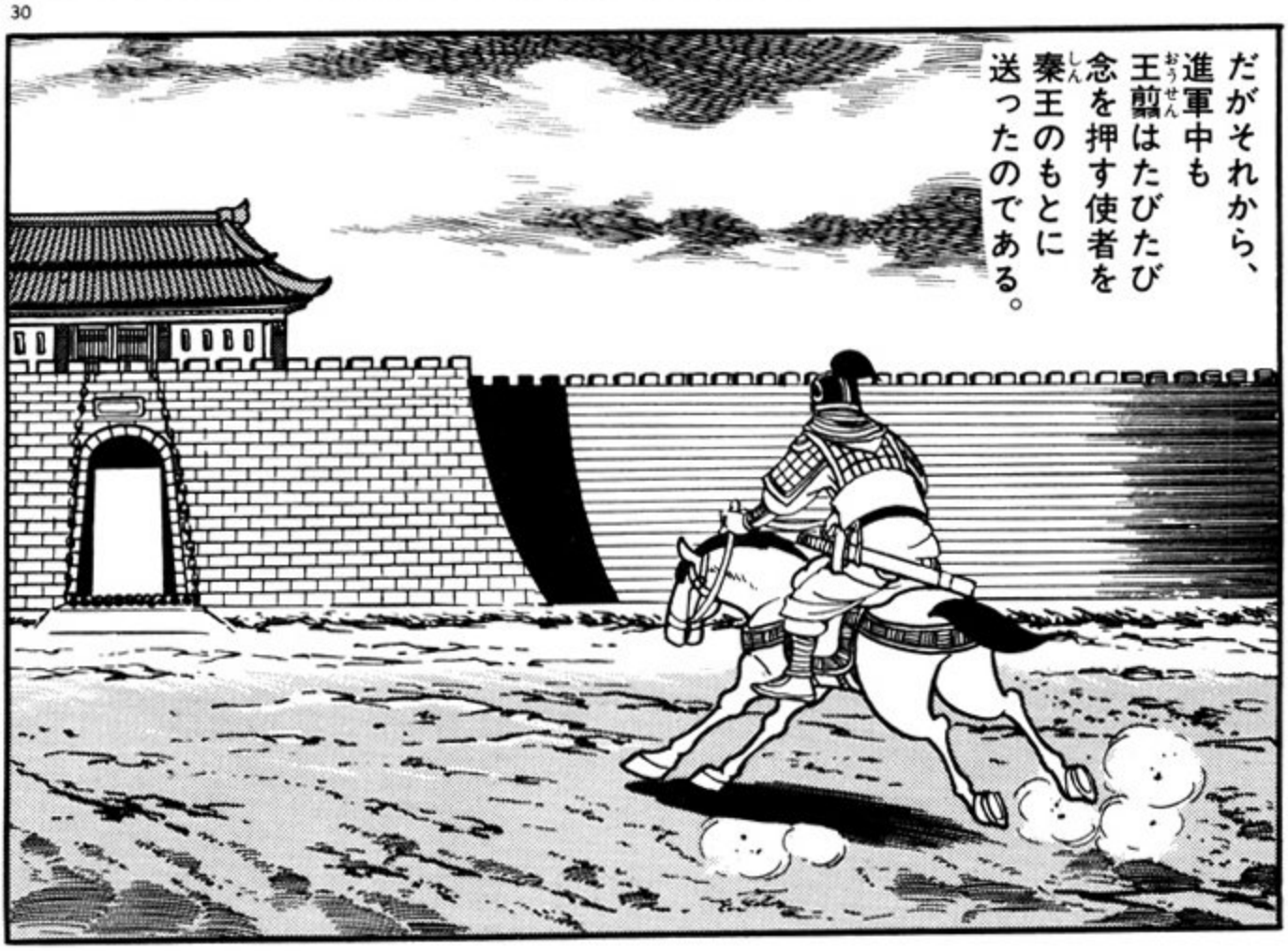


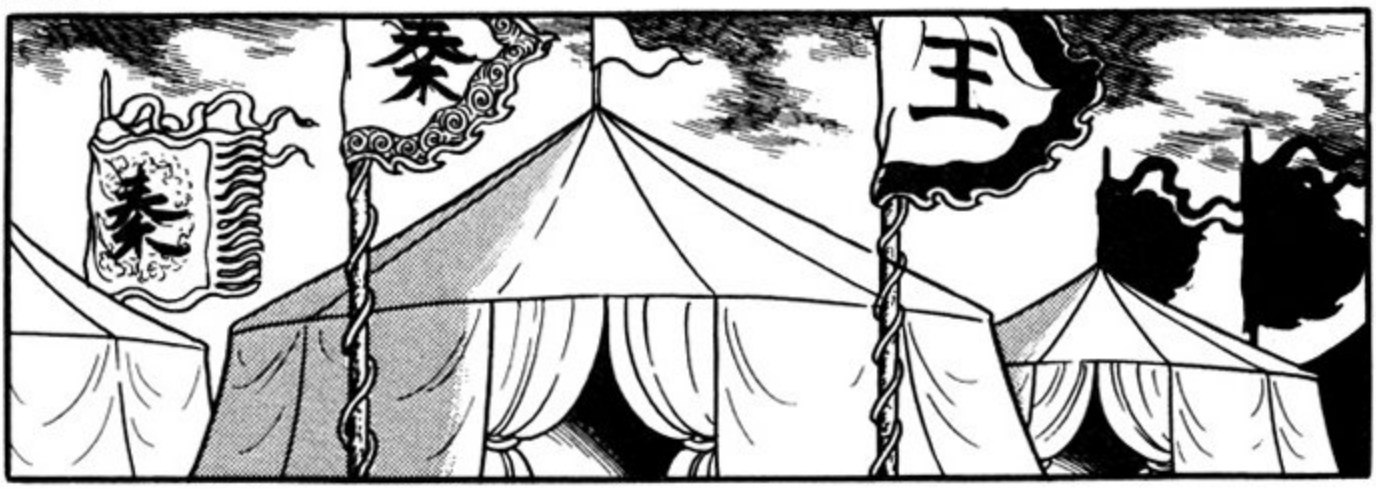
出陣の時のお約束間違いございませぬかと、わしが念を押していたと伝えてくれ。

はっ。

使者は都へ飛んだ。

30


だがそれから、進軍中も王翦はたびたび念を押す使者を秦王のもとに送ったのである。


秦
秦
王

将軍さま、恩賞のおねだり、少々度が過ぎていると思いまするが……
あれはわしの身を守るためなのじゃ。

31

と、申されますと……

わしは今秦の精鋭六十万をあずかってる。わしに謀叛心があれば秦王も討てる立場にある。

人間不信の塊のような秦王さまじゃ、今頃は内心不安でしかたがあるまい。だからこうして恩賞目当てに働いていると信用させねばならないのだ。

あのようなお方に仕える時には変な疑いをかけられぬよう気をくばっておかねばならぬ。

そういうことでございましたか。

32

こうして王翦は楚に入った。

一方、楚も秦が将軍を
王翦に変え大軍で
反抗してくると聞き、
全国の兵を動員し
項燕(項羽の祖父)を
総大将として秦軍を
迎え撃とうとした。
楚
項

33

王翦はまず
堅固な土城を
築かせた。

34

みなの者に告げておく、楚軍が戦さをしかけてきても相手にするな。挑発にも乗るな。

35

楚軍は秦軍が土城に立てこもってしまったのでおびきだそうとさかんに挑発した。

だが秦軍は
相手にしなかった。

36

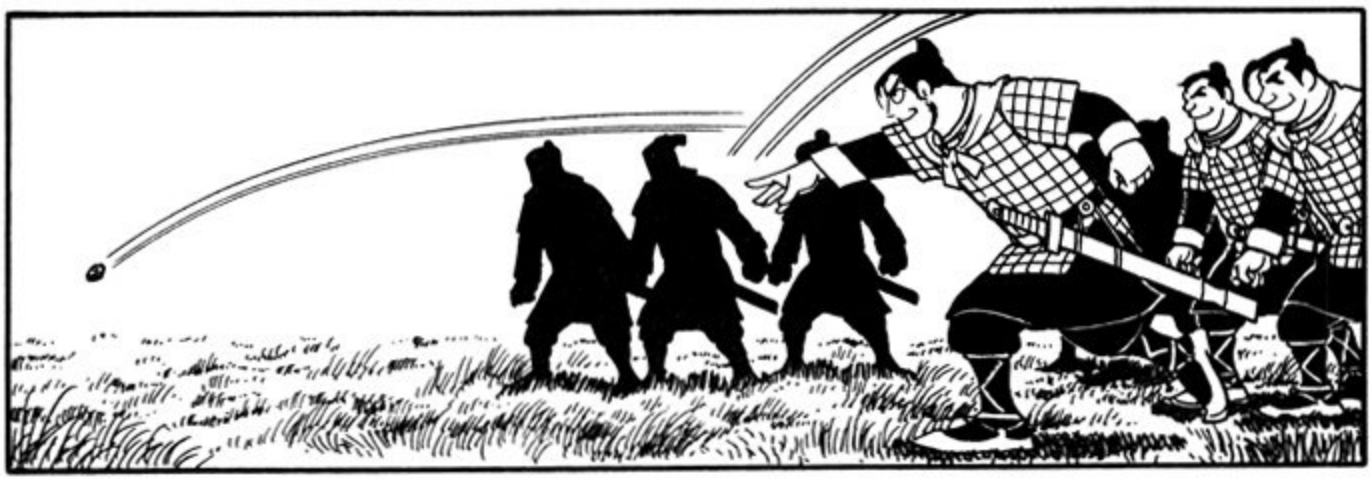
それどころか
王翦は兵士に
休養を与え
うまい食べ物を
充分に支給した。

両軍は戦いもなく
ただ睨みあってる
だけの状態となった。

37

どうじゃ、
兵士の様子は。

はい、
力を持て余して
いるようです。



38

一方、楚軍は何度挑戦しても秦軍が動こうとしないので陣払いをし……

39

東方へ引き揚げはじめた。

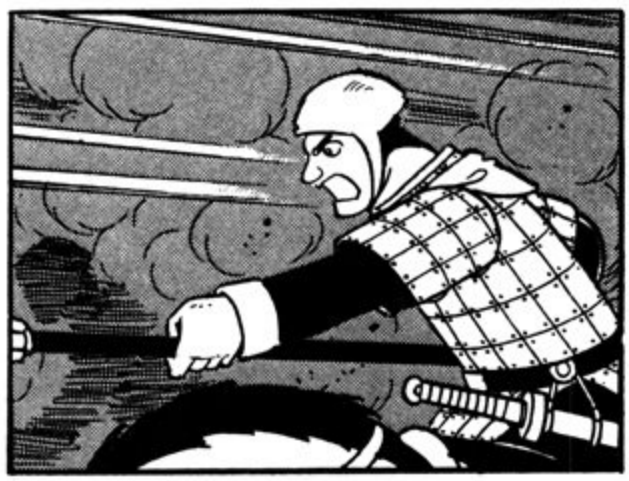
40

秦軍は堰を切った水のように飛びだした。騎馬隊…

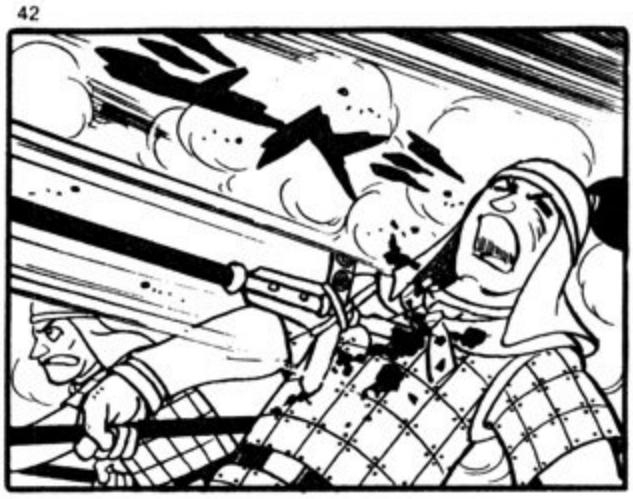
戦車隊…

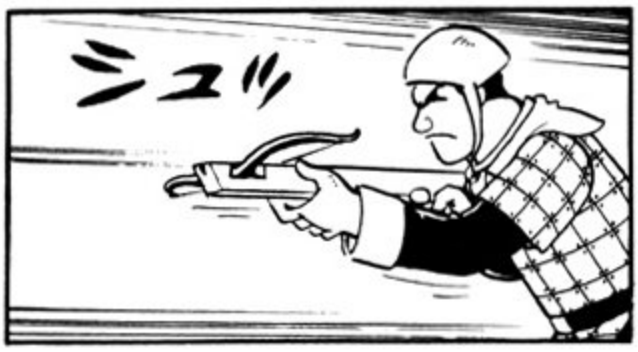
41

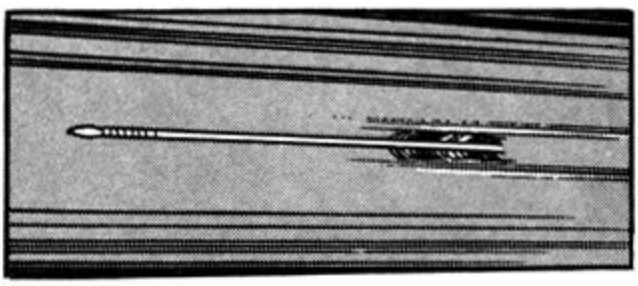
歩兵がいっせいに楚軍を後ろから襲ったのである。



42







43

まず楚の後軍が蹴散らされた。

防戦態勢のととのわぬ
楚軍は収拾の
つかない混乱を起した。

44

秦(しん)軍は左右
両軍も蹴散らし
中軍へとせまった。

そして蘄水の南で
総大将の項燕を
打ち取ったのである。

45

これで
楚軍は総くずれ
となった。

秦軍は勢いに乗り
楚の各地の城や、

46

都を平定して
いった。

一年あまりのち、
逃亡していた
楚王・負芻も
捕えられ……

47

処刑された。
楚の滅亡である。

さらに王翦は
楚の南にある
百越の王も降した。
その行く所
敵はいなかった。

48

こうして
前二二三年
中国南の土地は
王翦によって
平定された。

翌年 王翦の子王賁と李信で燕を亡ぼし、

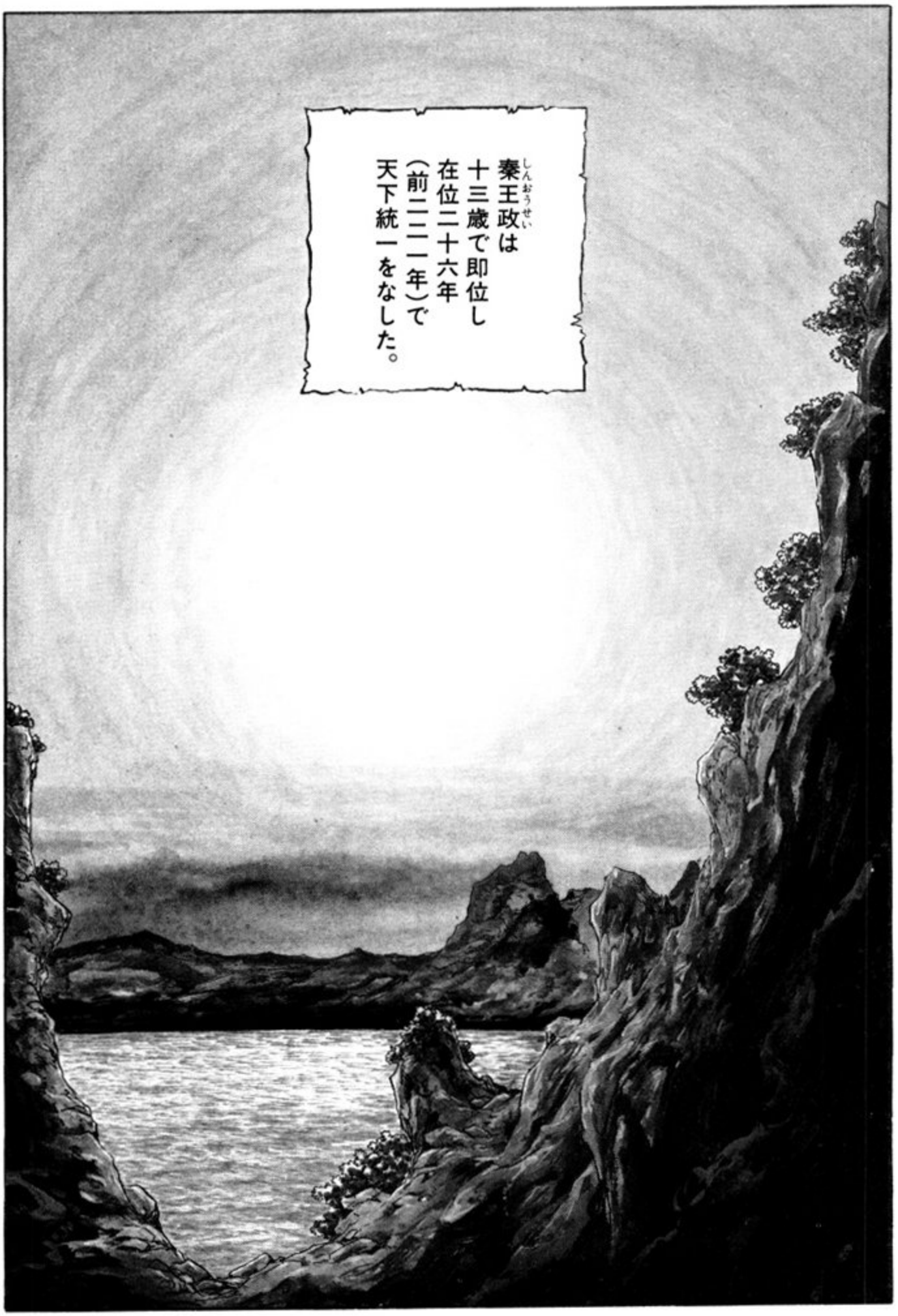
49

そこから斉に攻め入り、斉を平定した。

こうして秦は
天下統一をなしとげた。
王翦は秦王の
人間不信の性格を見抜き
用心深く生き、
その名声を
後世に残したのである。

50

第2話
始皇帝—1—


秦王政は
十三歳で即位し
在位二十六年
(前二二一年)で
天下統一をなした。

3

みなの者、
天下は統一された。
これからは
国家経営を
どうするかだ。
意見のある者は
のべよ。

申しあげます。

おう、丞相王綰か、意見があるならなんなりと申せ。

天下統一はなされましたが、燕、斉、楚は倒して間がなく、また秦より遠く離れておりまする。王を置かなければ完全に掌握できぬと思いまする。諸公子を王として置くが最善と思いまする。

その通りでございます。まだ残党も多くおりましょう。王を置いて完全掌握すべきです。

そうか、早急に王を置くことか……

大王さま。

おう廷尉李斯か、意見があるならば遠慮なく申せ。

わたしは王を置くことに反対でございます。

ほう、どうしてだ？

周の文王、武王は多くの公子や同族を王に封じましたが、何百年も続いているうちに血縁もうすれ、諸侯同士が互いに争うようになりました。周王朝はその争いを止めることもできず、その権威は地に落ちたのでございます。

いままた同じように諸侯を置くなど将来に戦禍のたねをまくようなもので、有害無益と思いまする。

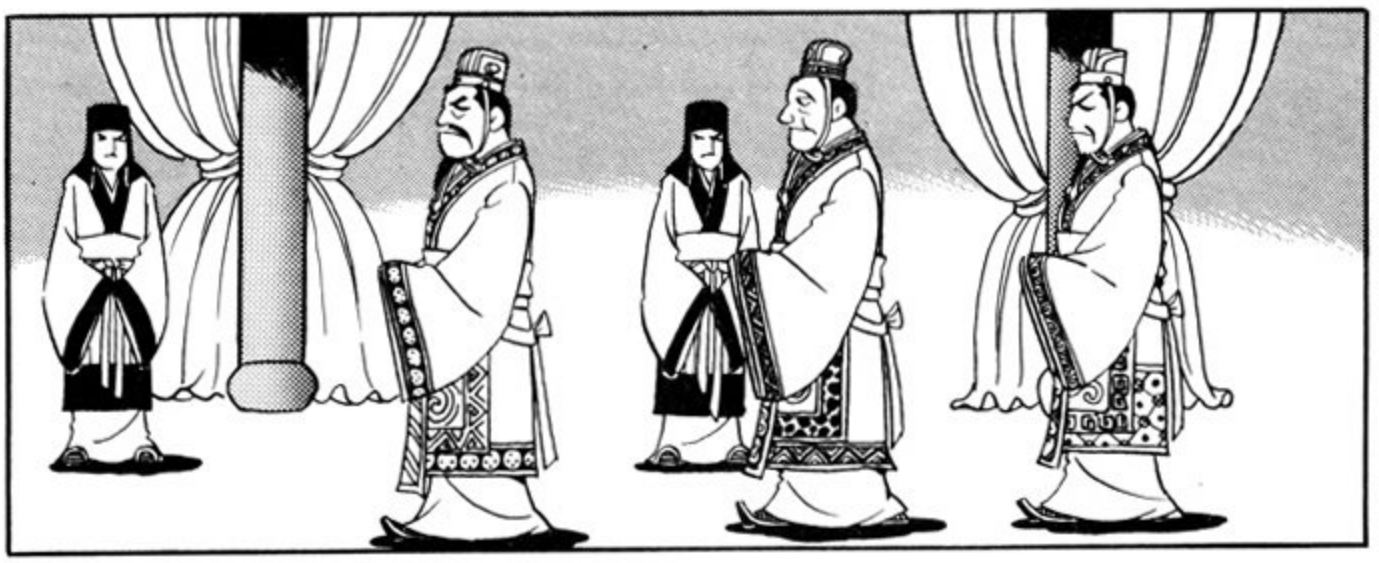
ではわが子や功臣にはどうやって報いる。

諸公子や功臣には国の税金の中から充分な手当をお与えになれば問題は起こらぬと思いまする。
ふむう。

6

ところで
今まで諸侯が
王を名乗ったが、
今はわし一人…
そこで王の呼称を
改めようと思う。
よき名を考えよ。

ははっ、
ただちに博士達と
相談いたします。



7

おう、三人うちそろうて何事かな。

はい、この間の王の改称について博士達の意見がまとまりましたのでご報告に参りました。

その昔、黄・顓・嚳・堯・舜の五帝がおられました。帝とはいえ、その領土は千里四方で周囲は諸侯や蛮族の国でございました。諸侯の中には臣下の礼を守らぬ者もございました。帝といえどもそれを従わせることは無理でございました。

ところが大王さまは天下を平定し、戦火をなくされました。これは五帝といえどもできなかった偉業でございます。

さらに太古には天皇・地皇・泰皇が君臨し、三人の中でも泰皇が最も貴かったと申します。今後は泰皇なる尊称に変え、天命を制、王令を詔と改称し、天子自らを称して朕となされてはいかがでございましょう。

ふむう、泰皇のう…

よし泰皇の「皇」をとり、五帝の「帝」とあわせて皇帝といたそう。

わしが最初の皇帝であるから「始皇帝」と称する。他のことはそちたちの申す案でよい。

9

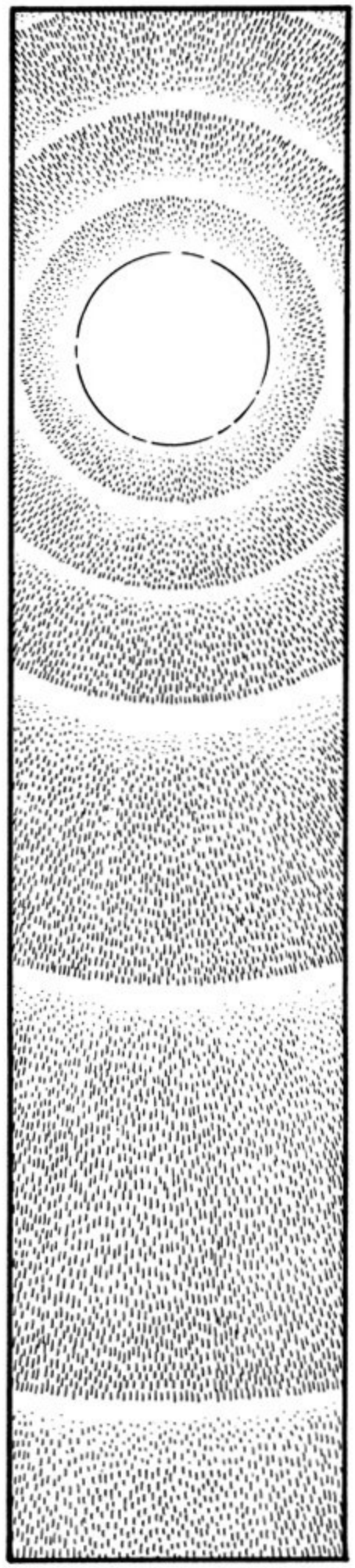
こうして秦王政は始皇帝を名乗り、皇帝が法であると告げた。三十八歳の時である。

李斯よ、そちはたしか韓非子と同門であったな。
はい。

もう十二、三年になるかのう。朕は韓非の書を読んだ時感動したものだった。

10

韓非が自殺しなければ今、国造りに役に立ったであろう。
はい。



便所の鼠と食糧庫の鼠の生き方をみて一念発起し秦に来た李斯は、ついに秦帝国の丞相にのぼりつめたのである。

始皇帝はまず
天下を三十六郡に分け、
郡ごとに、
守(行政長官)、
尉(司令長官)、
監(監察官)を
置いた。

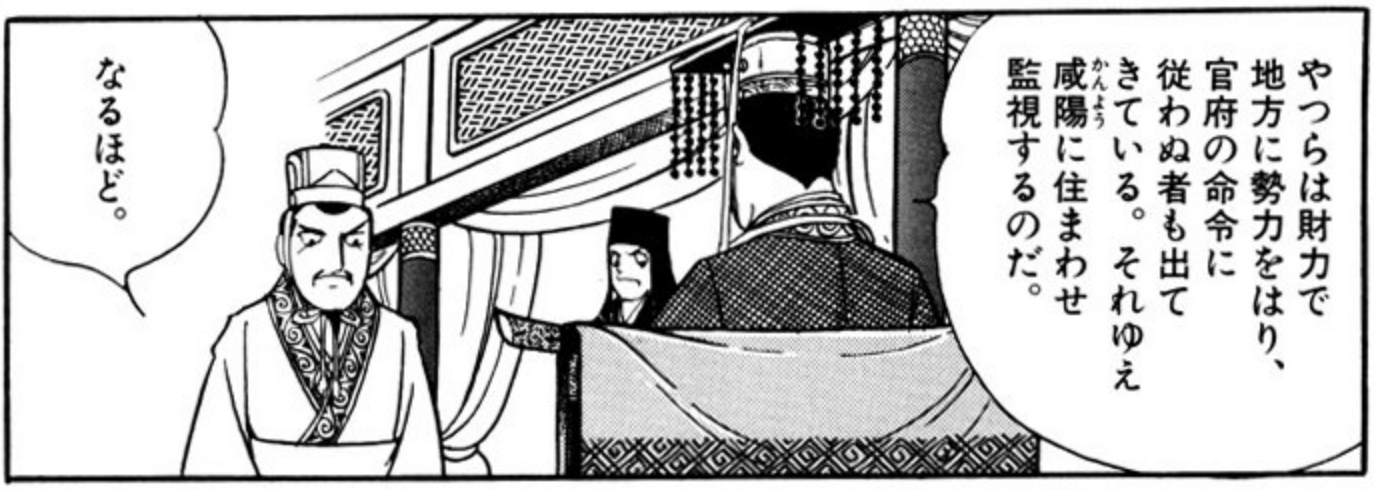
また度量衡や通貨、
文字を統一した。

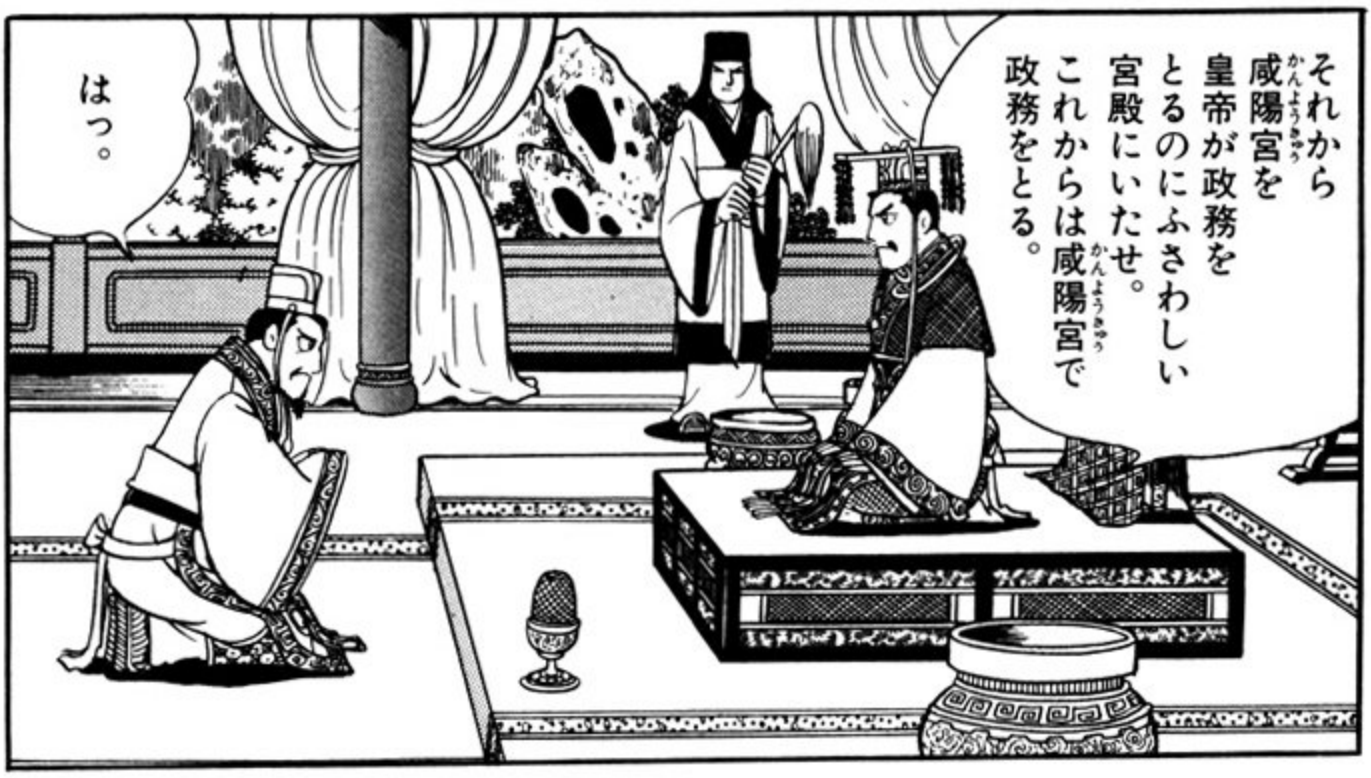
李斯よ、天下の富豪十二万戸を咸陽に移住させよ。

わかりました、そうなれば咸陽は天下一の産業都市となり発展いたします。

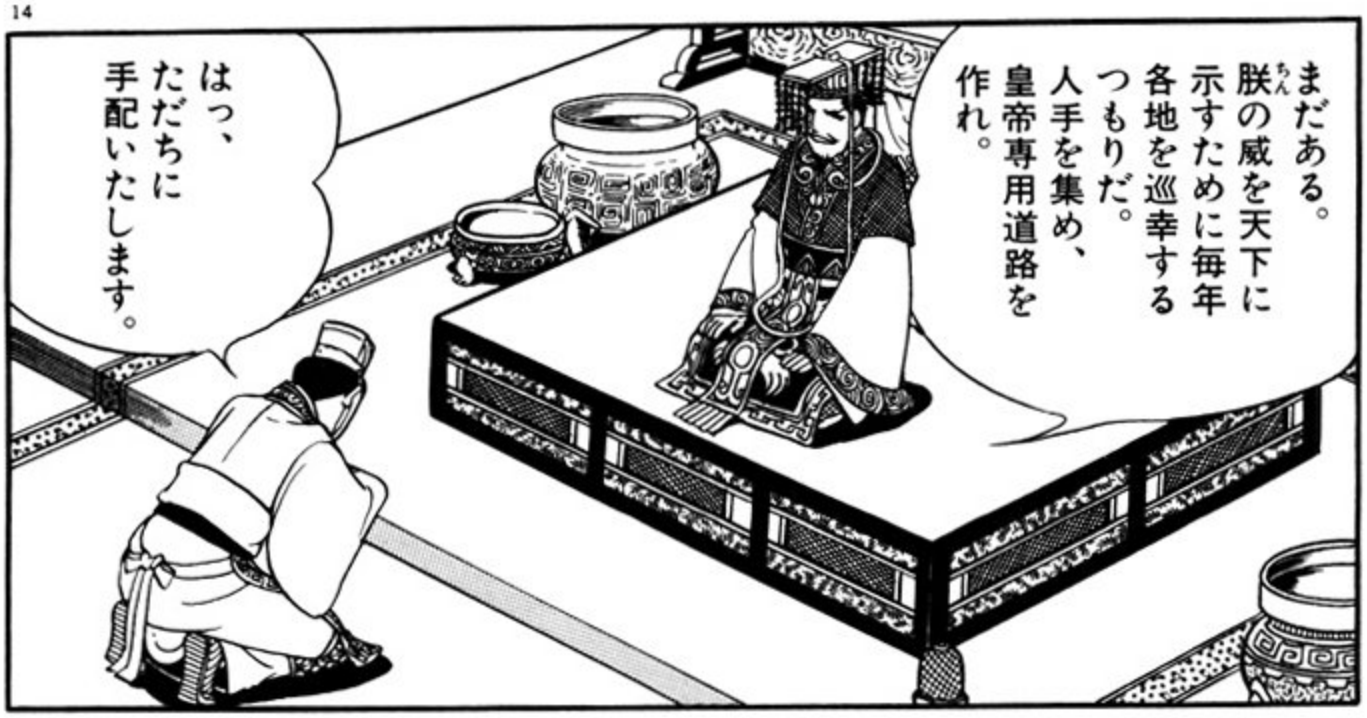
それもあるが別の狙いもある。

13


やつらは財力で地方に勢力をはり、官府の命令に従わぬ者も出てきている。それゆえ咸陽に住まわせ監視するのだ。
なるほど。


それから咸陽宮を皇帝が政務をとるのにふさわしい宮殿にいたせ。これからは咸陽宮で政務をとる。
はっ。

14


まだある。朕の威を天下に示すために毎年各地を巡幸するつもりだ。人手を集め、皇帝専用道路を作れ。
はっ、ただちに手配いたします。

こうして
咸陽宮は
第二宮殿
第三宮殿と
回廊でつながれて
……

15

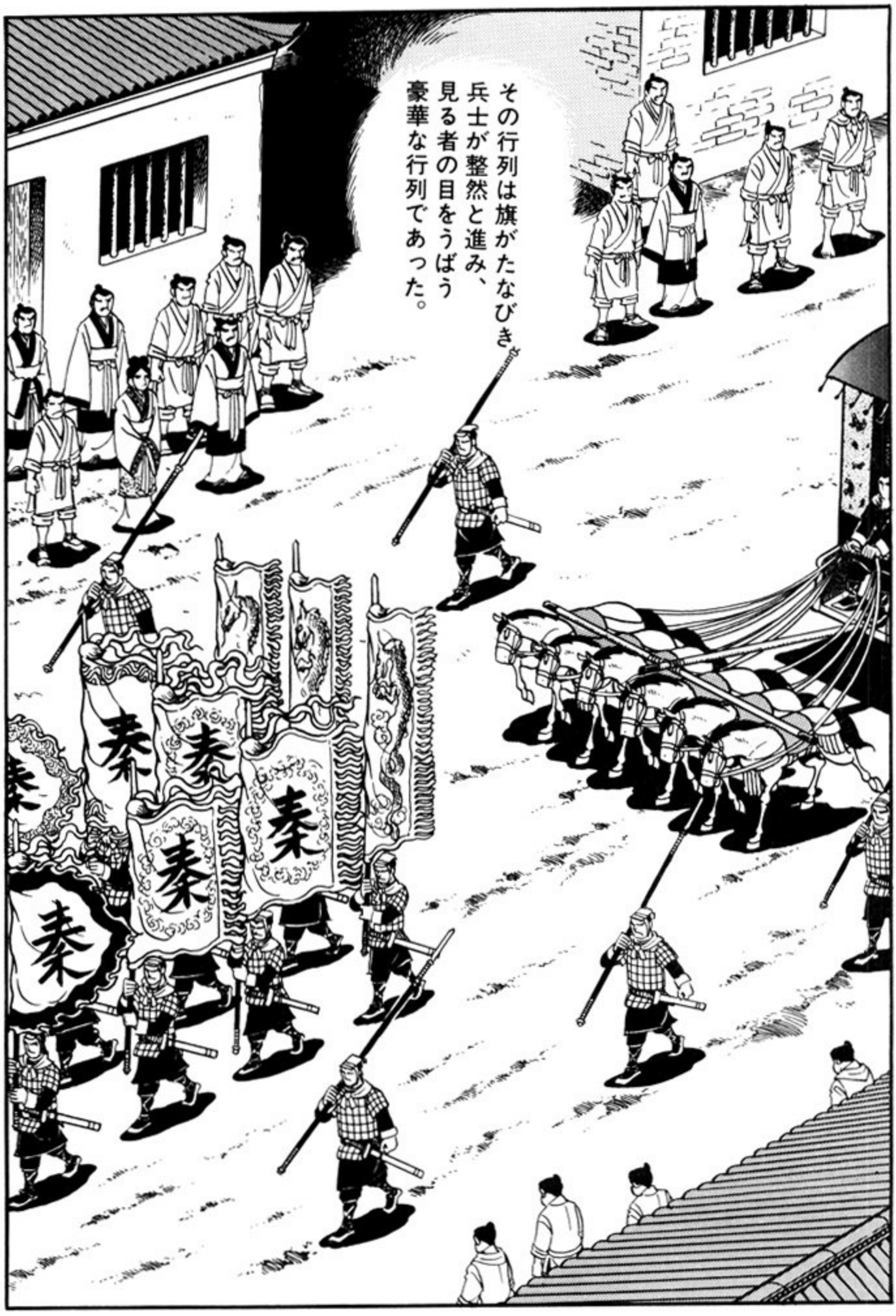
壮大な宮殿と
なっていった。

16

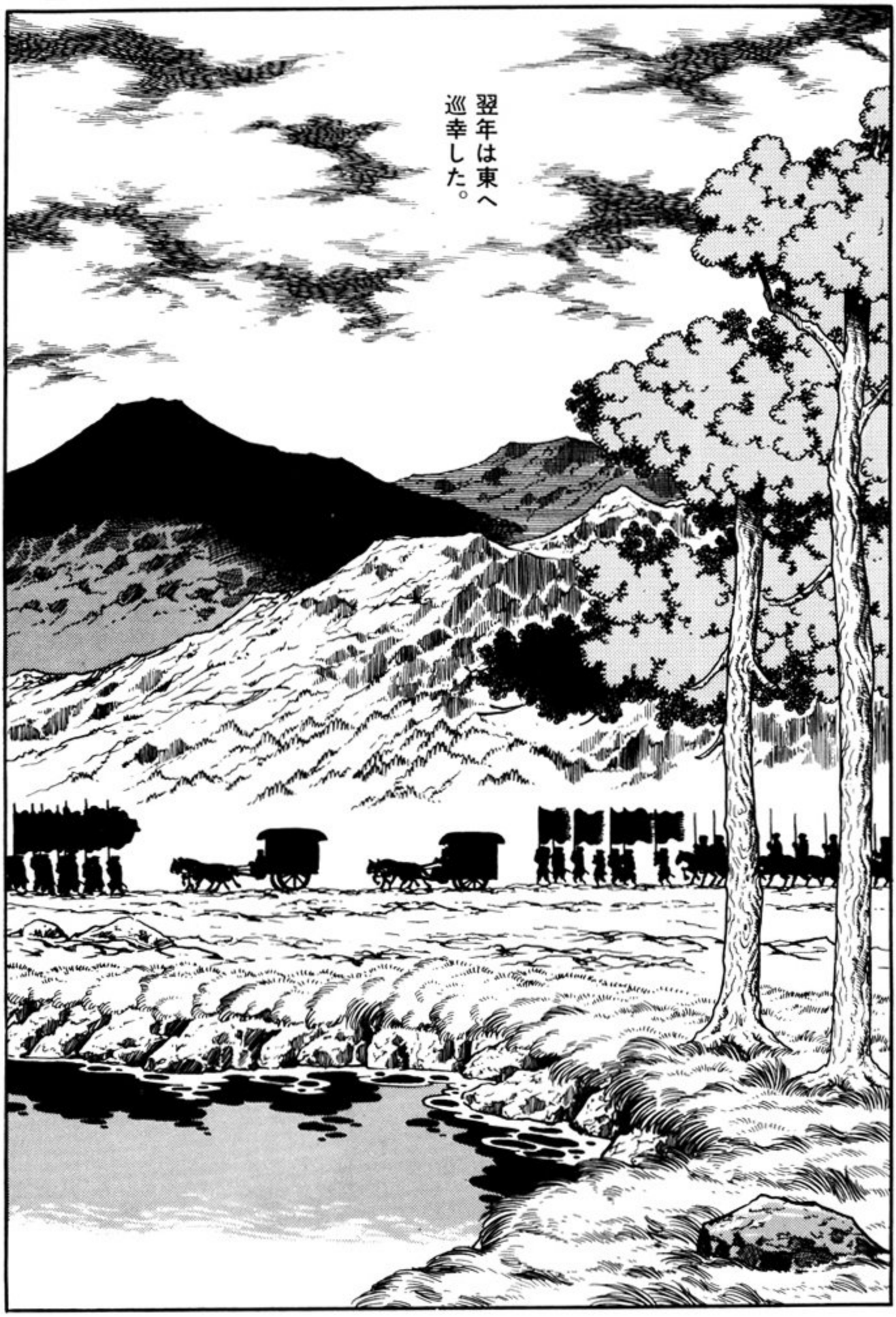
翌年、始皇帝は
西方巡幸に出た。
第一回巡幸である。

17

始皇帝の乗り物は
六頭の馬が引き
車内は暖かく
涼しさを求める時は
まわりのおおいを
とりのぞくことができたので
輼涼車と呼ばれた。
(横になって休める
ので臥車とも
いわれた)。



18



19

20

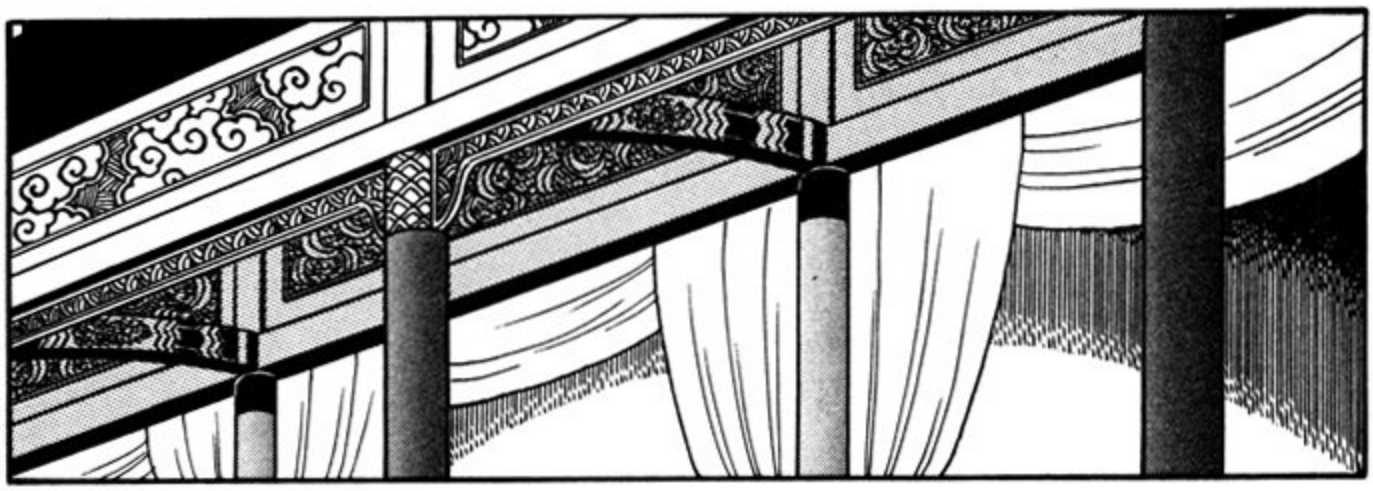
あれが泰山か。

はい。

21

あそこで封禅の儀式をしたものは、神と話ができ仙人になれると申すが本当か。
昔よりそのように伝えられておりまする。

よし、朕は封禅の儀式をおこなうぞ。



22

そちたちにたずねる。封禅の儀式とはどのようにしてやるものじゃ。

「封」とは泰山の山頂に壇を築いて天を祭ることをいいます。
「禪」とは麓の小山・梁父の土地を平らにして地を祭ることをいいます。

うむ、それで天・地の神を祭るためにどのような事をいたすのじゃ。

それはまず蒲の穂で車輪をつつみ、泰山の土石草木に傷をつけぬようにせねばなりませぬ。

23

いや、それは違う。皮をむきとったワラで車輪をつつむのだ。
それは地の神を祭る時の作法だ。

もともと「封禅」は春秋時代にできた思想で本当のところ誰も知らなかったのである。

いやいや それは違うぞ。

どこが違う、貴公のほうが間違っているのじゃ。

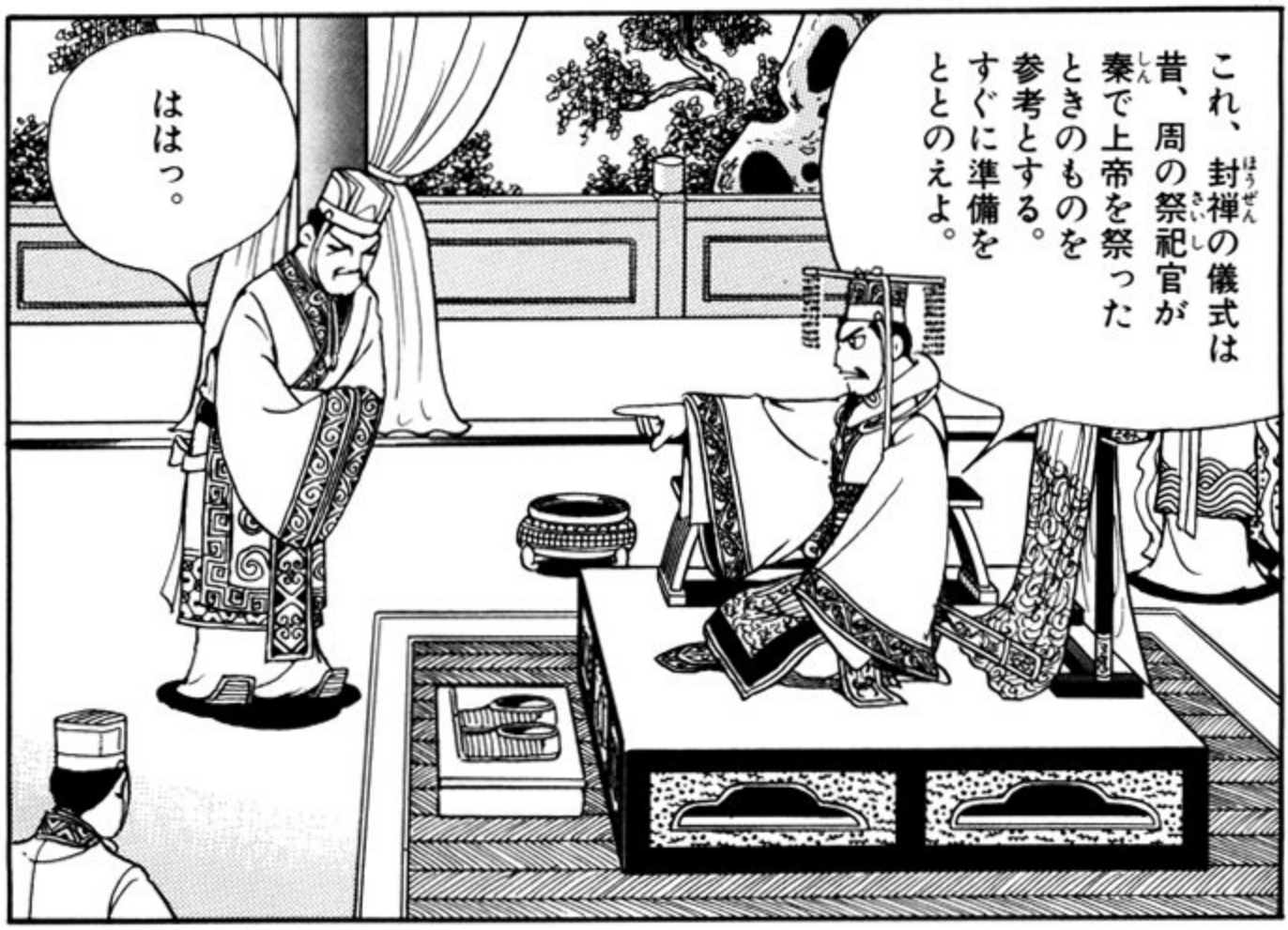
それはだな、ああしてあれとこれを祭り……

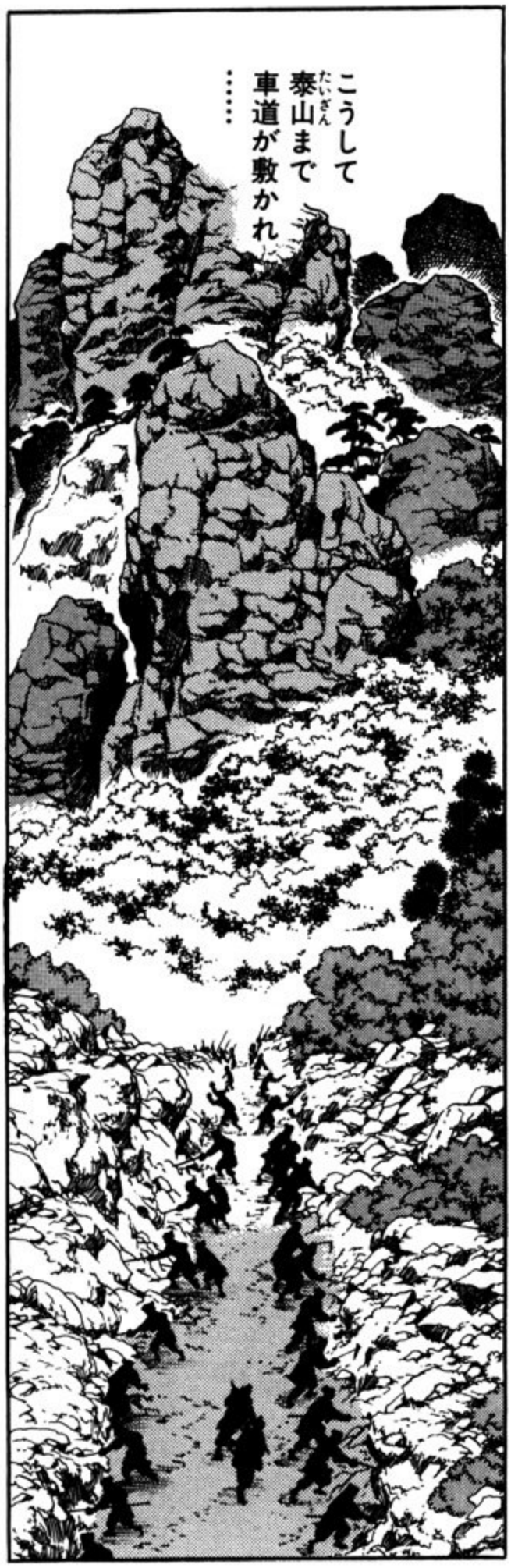
あれだとかこれだとかそれはそういうことなのか……

24

そちたち学者にはこういう時のために禄を払っているのだ。この役立たずどもめ！目ざわりだ。もう朕に仕える必要はない。立ち去れ。

25


これ、封禅の儀式は昔、周の祭祀官が秦で上帝を祭ったときのものを参考とする。すぐに準備をととのえよ。
ははっ。



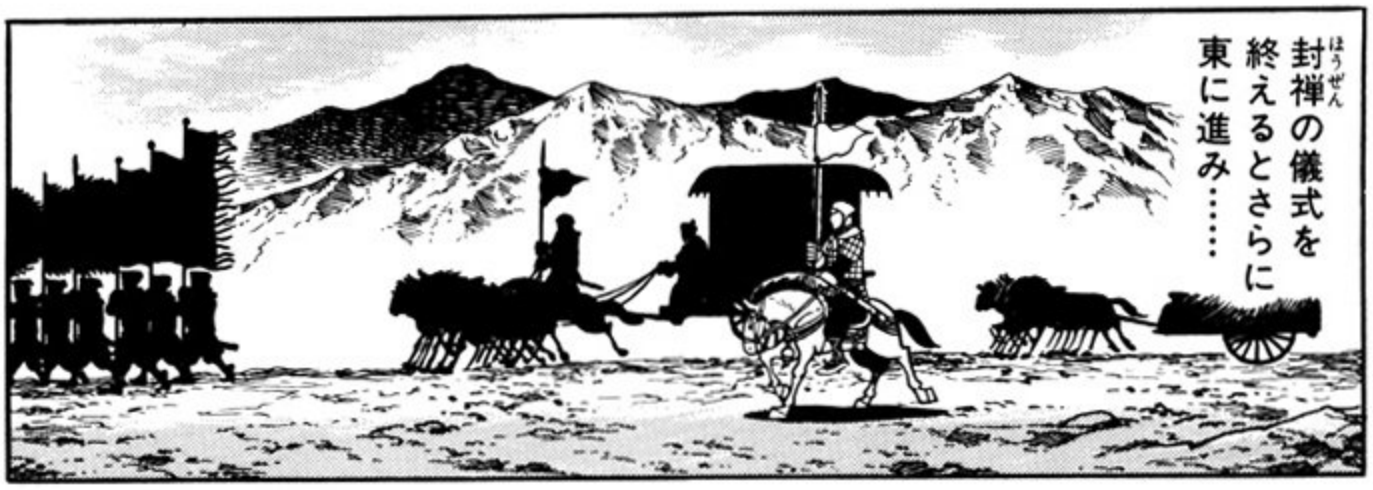
26

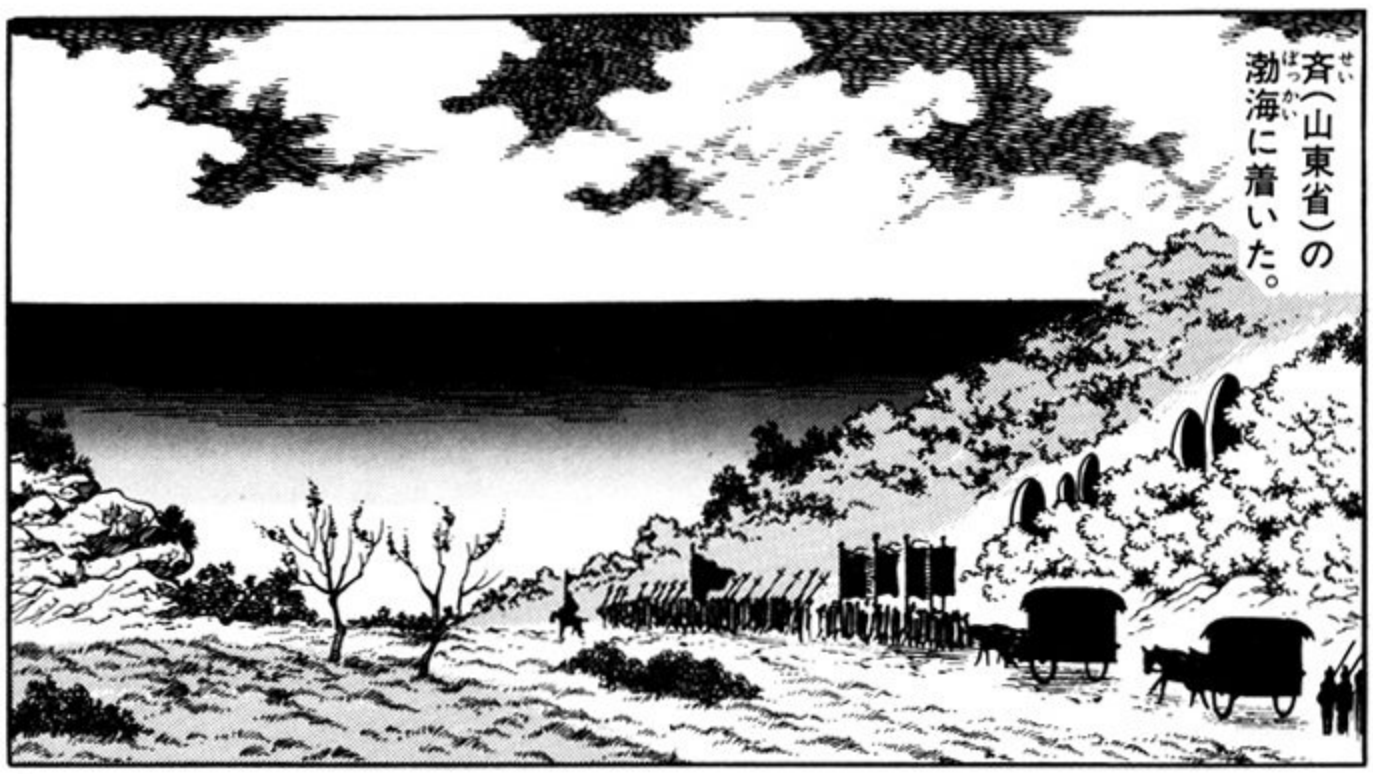
こうして始皇帝は頂上に上り、

封禅の儀式は、誰も近づけぬまま秘密裏に行なわれ、記録に残されなかった。

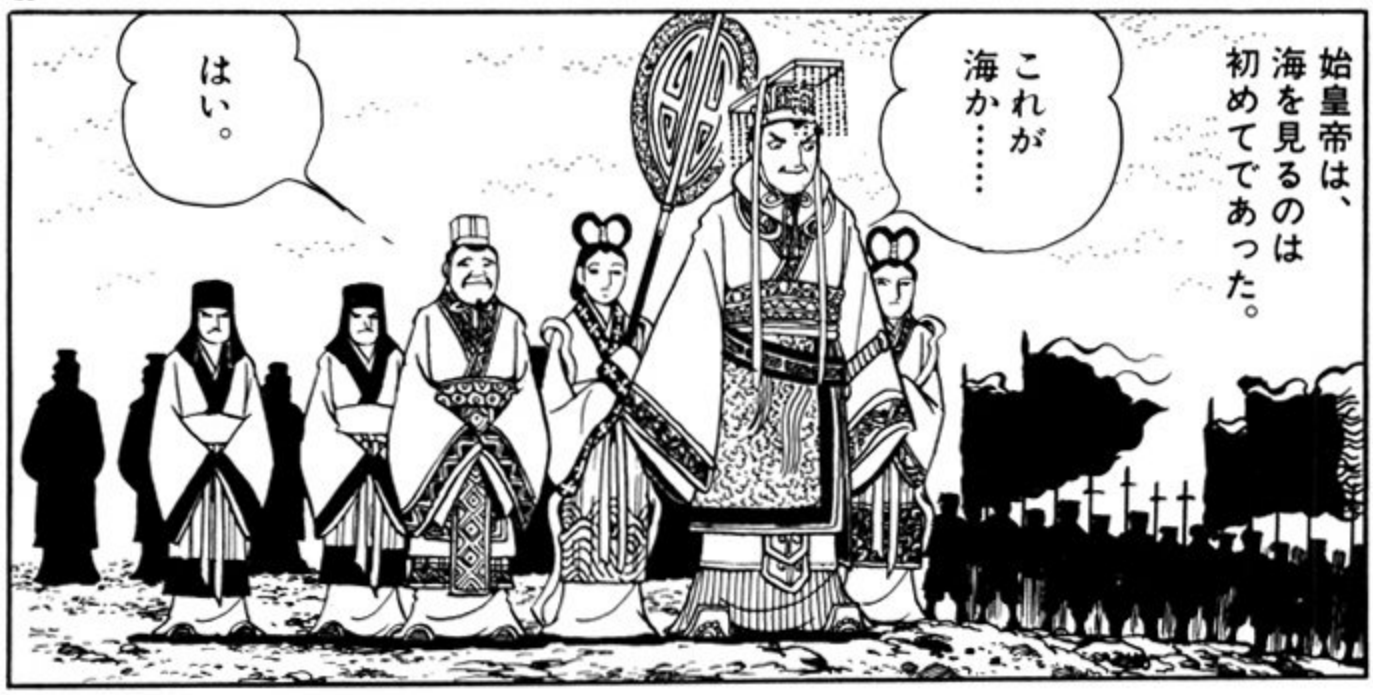
27

絶対君主となった始皇帝が次に求めたものは、人間以上の存在であった。それは、神や仙人のように不老不死になることであった。

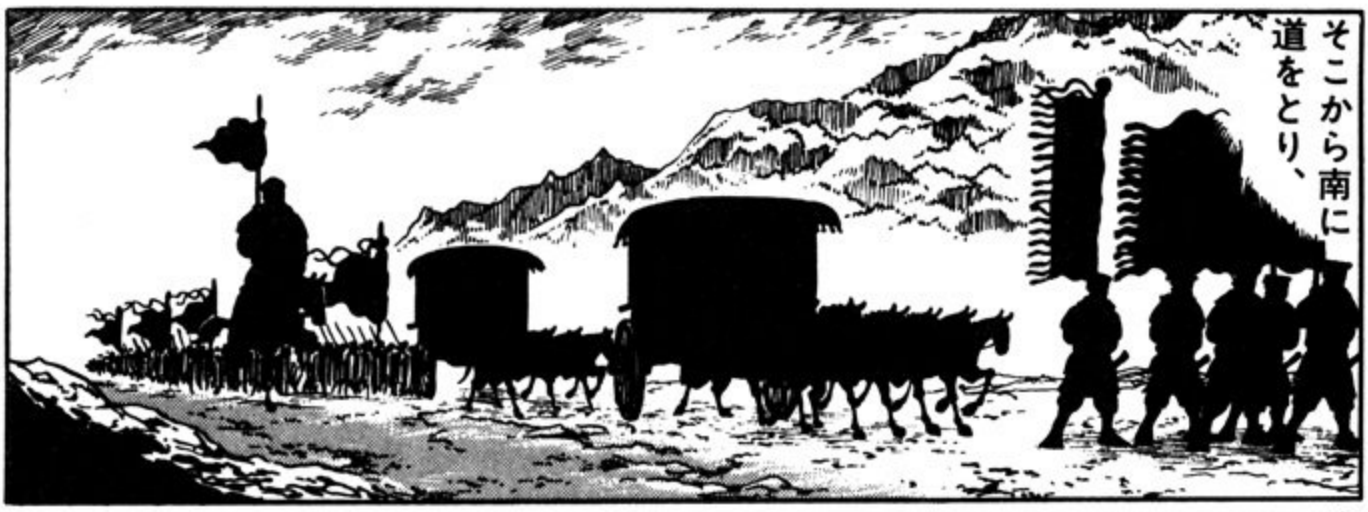

封禅の儀式を
終えるとさらに
東に進み……


斉(山東省)の
渤海に着いた。

28


始皇帝は、
海を見るのは
初めてであった。
これが
海か……
はい。

海の果てが見えぬが、どこまでつづいているのじゃ。
海の果てを見たものは、まだ誰もおりませぬ。


そこから南に道をとり、

29

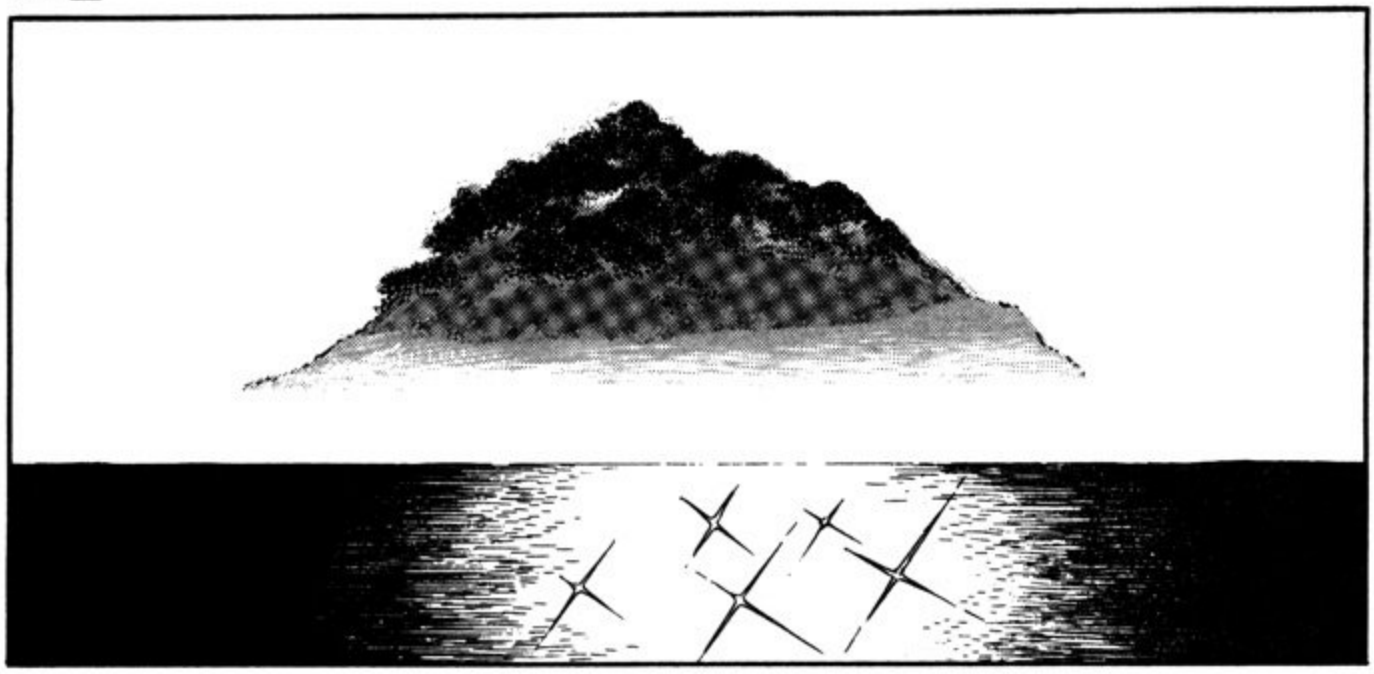
琅邪山へ登った。

始皇帝はこの風景がとても気に入った。

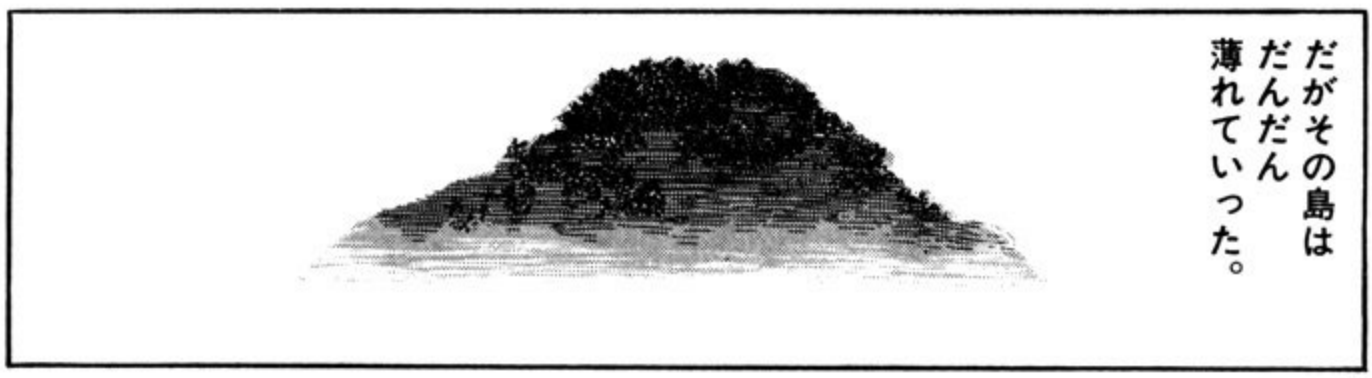
30

そこで三か月滞在したのである。その間に不思議なものを見た。

あ、あれを見よ。

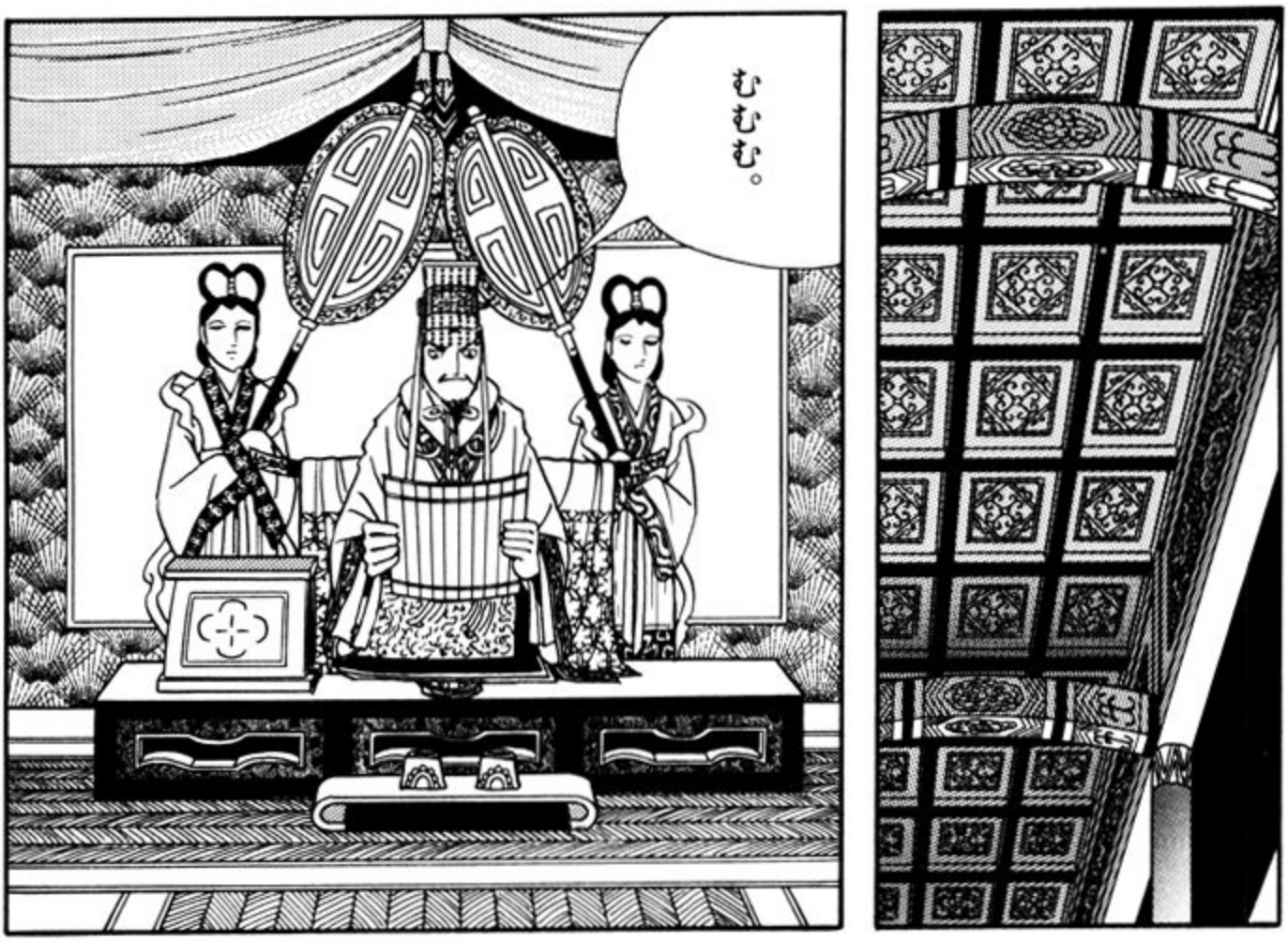


今まで
あのような
島は見えなかったぞ。
本当で
ございます。
どういう
ことで
ございましょう。


だがその島は
だんだん
薄れていった。

31

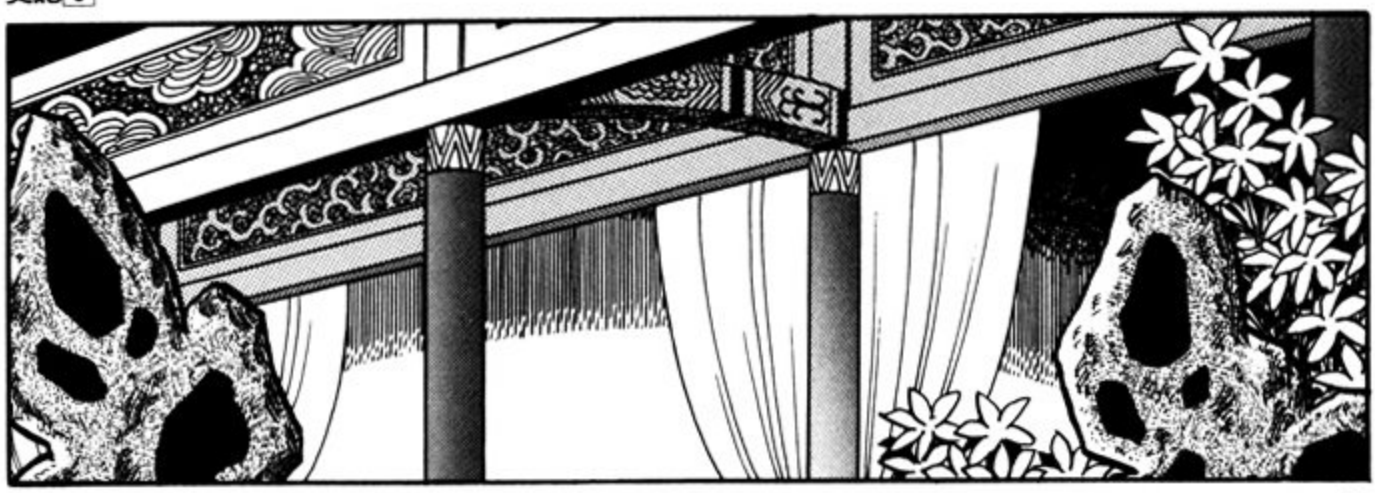
今でいう
蜃気楼だった
のであろう。


むむむ。

これっ、これを上奏してきた徐福(徐市)とは何者だ。
斉に住む方士(仙術を学んだ者)だそうにございます。

32

なにっ、方士だと。
ここに興味あることを書いている。すぐに召し出せ。
はっ。



33

そちが徐福(じょふく)か。

はい。

そなたは東海の果てに、蓬莱・方丈・瀛州という三つの神山があり、仙人が住んでいると書いてあったが真か。

はい、方士の修行をつんでおりました時に教わりました。

先日も神山の一つ蓬莱山がかすかに見えました。

おお、あれが蓬莱山か。

陛下は不老不死の薬をお求めと聞いております。出来ますればそれがしに蓬莱山まで行かせて下さいませ。仙人より不老不死の薬を買い求めてまいります。

おお、そちが東海の果てまで行ってくれると申すのか。

はい。

よし許す、必ずや不老不死の薬をもち帰れ。

疑い深い始皇帝がこの話をいとも簡単に信じたのは、蜃気楼を見たあとだったからであろう。

こうして徐福(じょふく)は、
蓬莱山を
探しに行くことに
なった。

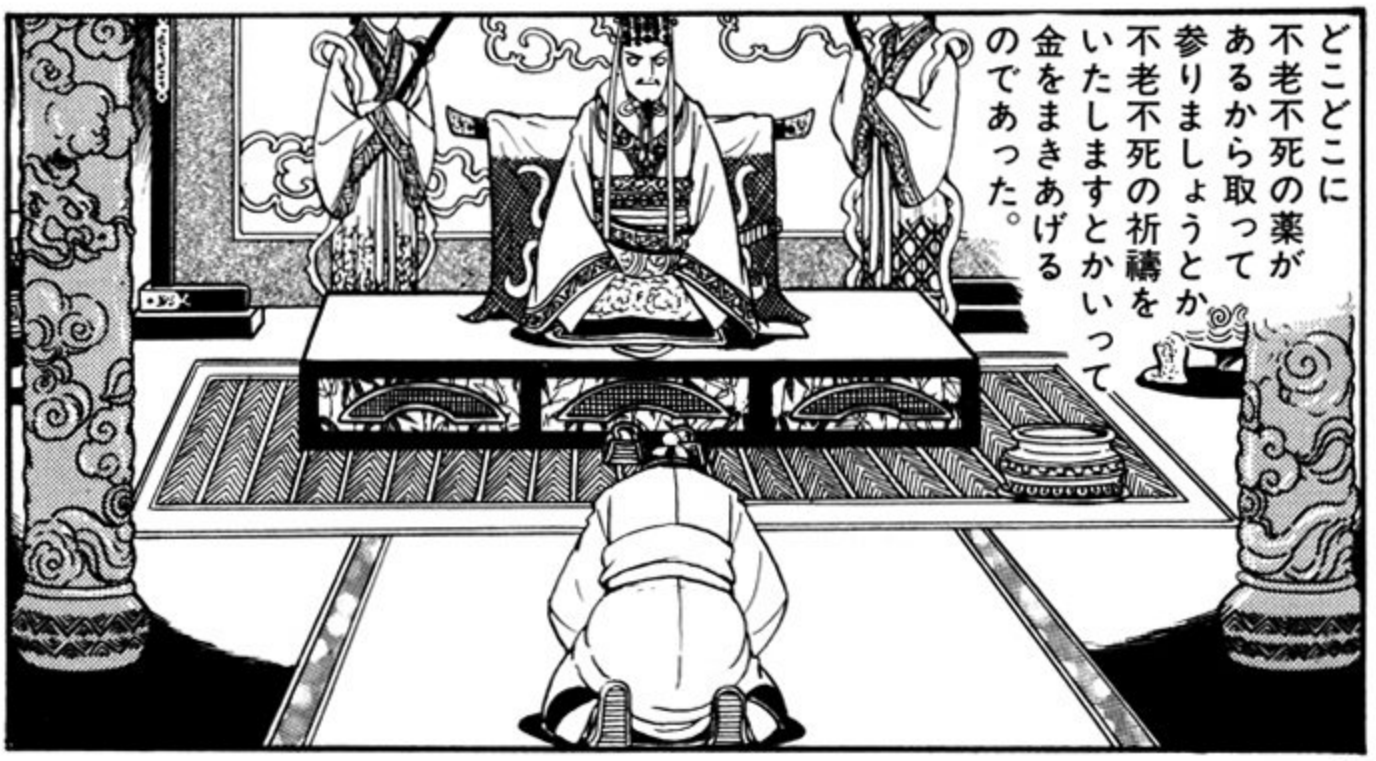
35

仙人への貢物(みつぎもの)として
巨万の財宝が
船に積み込まれた。

徐福は出航した。
しかしそれっきり
帰ってこなかった。
徐福と巨万の富は
消えてしまったのである。
こうしたことから
徐福が稀代の詐欺師で
あったとか、いろんな
徐福伝説が生まれた。
徐福は日本の熊野か富士山に
定住したといわれ、
和歌山県新宮や富士吉田市に
その墓が残されている。

36

始皇帝があまりにも
不老不死の薬を
願望するので、
各地からうさん臭い
方士まで集まってきた。


どこどこに
不老不死の薬が
あるから取って
参りましょうとか
不老不死の祈禱を
いたしますとかいって
金をまきあげる
のであった。

37

このため始皇帝は
効験なき者は
死罪という法律まで
作った。

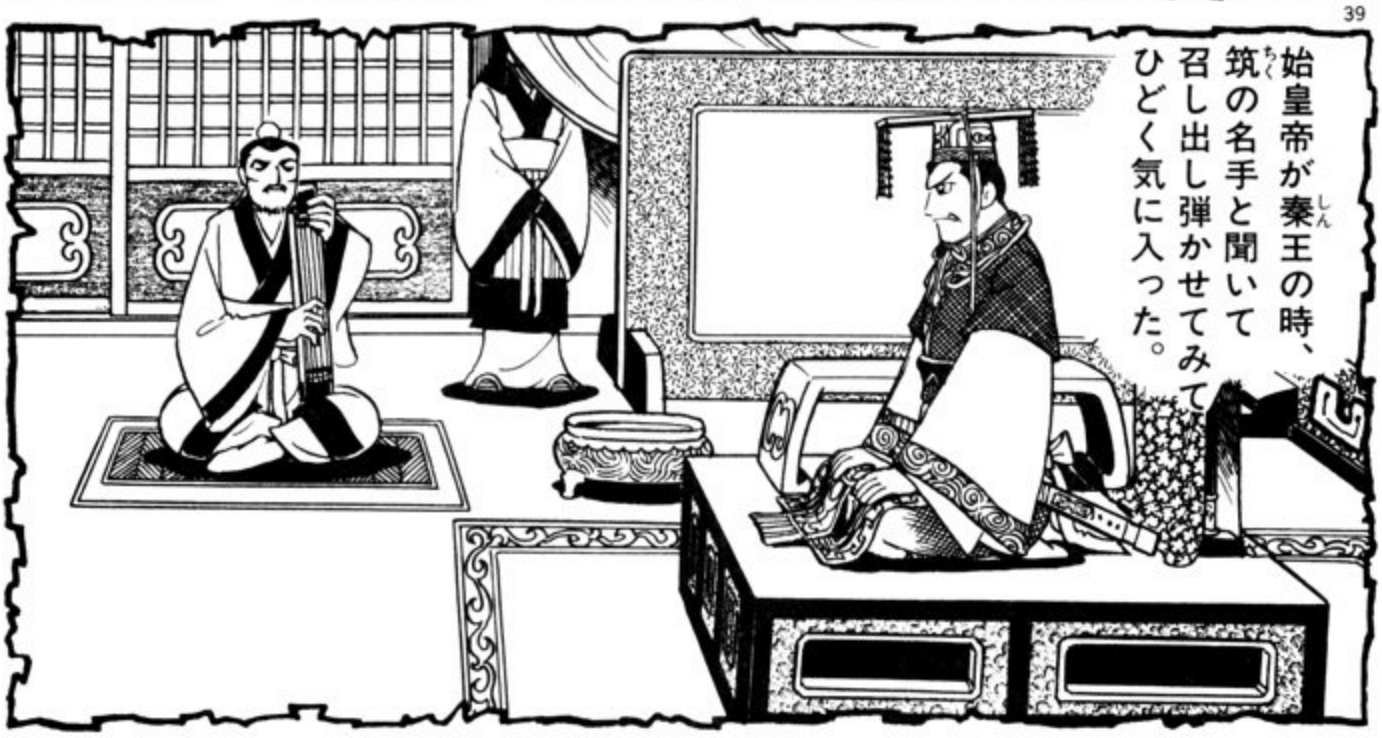
始皇帝は四十一歳の時、
三回目の巡幸に出た
（前二一八年）。

38

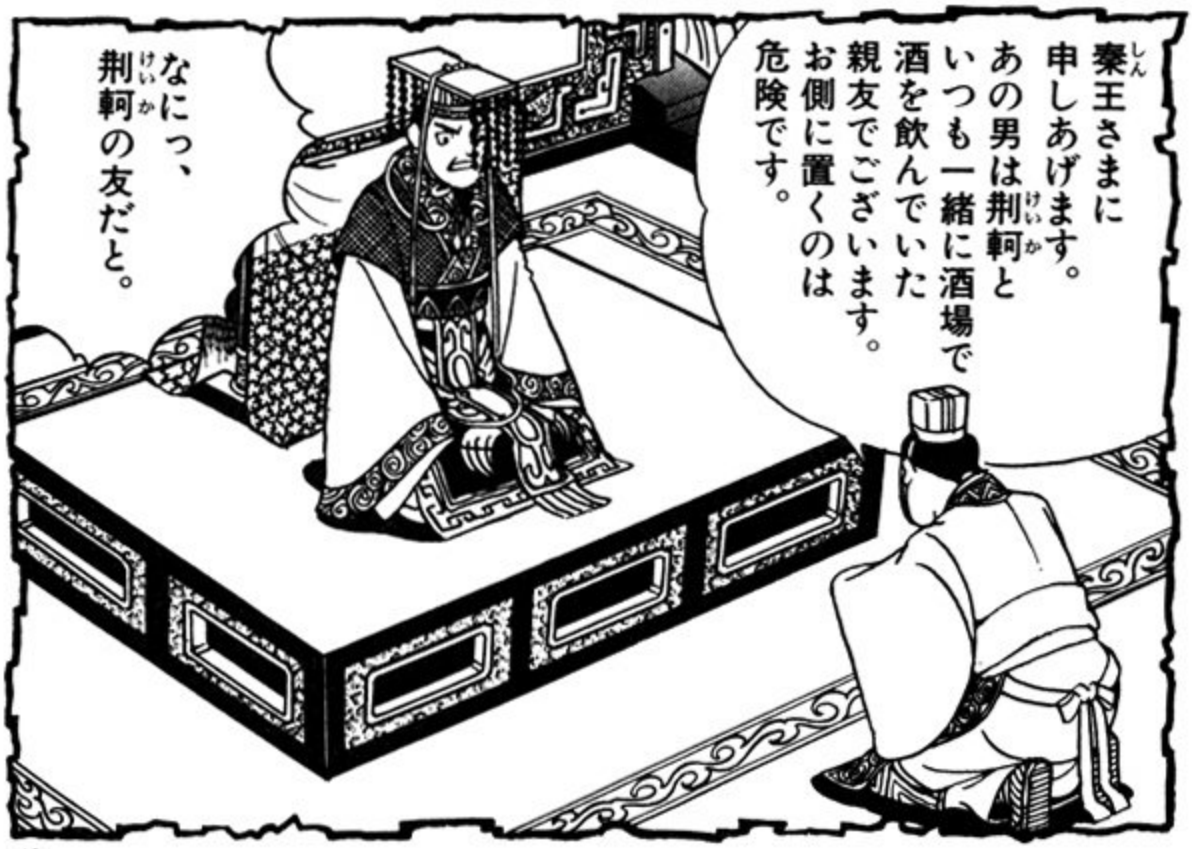
だがこの時
博浪沙（河南省）で
刺客が待ち受けて
いたのである。

始皇帝は生涯に
三度、刺客に狙われている。
一人は荊軻である。

もう一人は
荊軻の友で
筑の名手の
高漸離である。


始皇帝が秦王の時、
筑の名手と聞いて
召し出し弾かせてみて
ひどく気に入った。

だがこの高漸離を知っていた者がいたのである。



40

こうして
高漸離は
目を潰され…

秦王のそばで
筑を弾くことに
なった。

だが、この高漸離も
秦王の命を
狙っていた。
ある日、筑の中に
鉛の棒を入れ
……

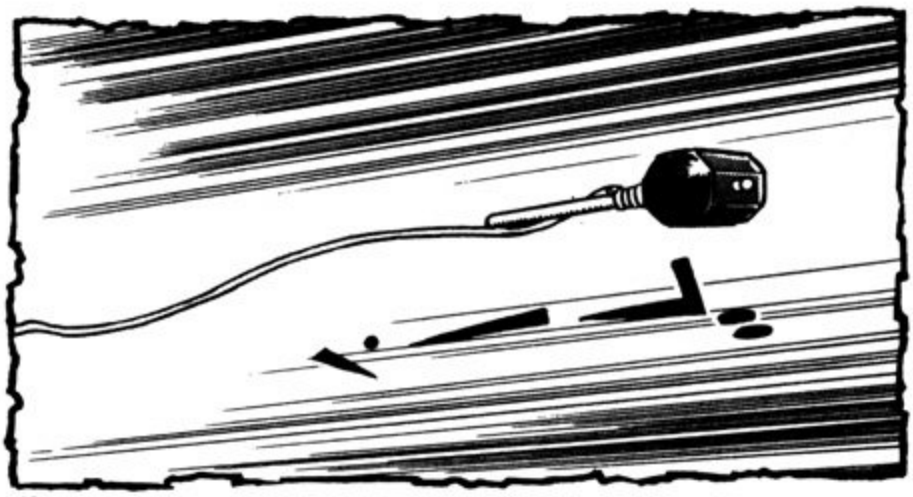
秦王めがけて
なげつけた。

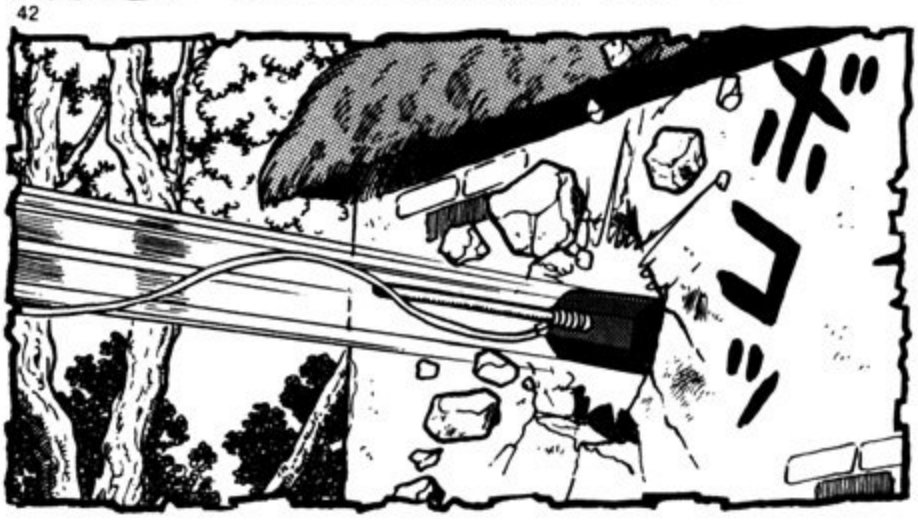
だが目が見えぬ悲しさ、
的をはずして
しまったのである。

41

こうして
高漸離も
処刑された。

そして三人目の刺客が
張良である。
張良の家は
韓で五代にわたって
宰相をつとめた名門である。
韓が亡んだ時
張良はまだ若かったので
助かったのである。



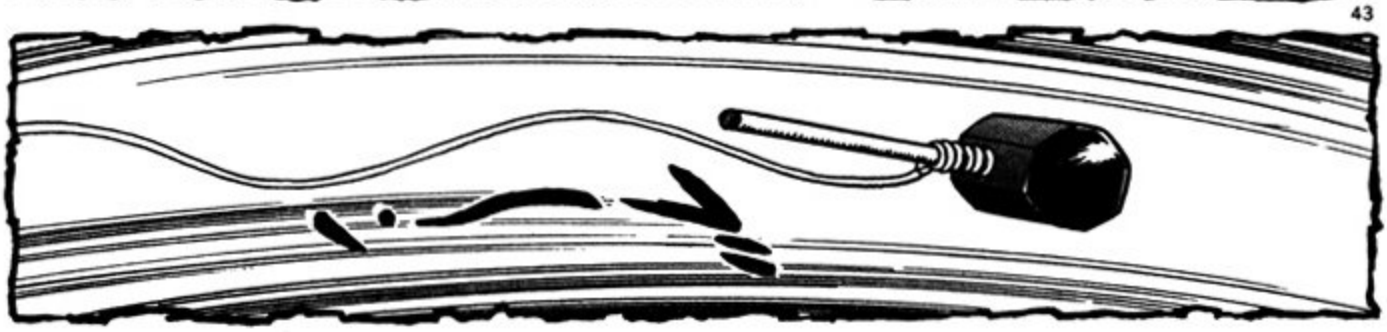


よいか、始皇帝はまた巡幸を始めたそうだ。いよいよ韓王家の仇討ちをする時機到来だ。
はい。

この日を待ちのぞんでいたのだ。頼むぞ。

わかりました。もう一度見て下さい。

うおりゃ
ビュン
ビュン



うむ、素晴しい飛距離だ。あとは的がこれより小さいということだ。
44
張良の家は韓の宰相を勤めていたので、韓が亡んだ時にも財産はあった。その財産はすべて始皇帝暗殺の刺客養成に使い果たし、弟の葬式も出せなかった。この巨漢もその一人であった。

博浪沙

45

とうとう怨みを晴らせる日がきたか。得意がってあちこちに秦の功績を記す石碑を建てるのも今日までだ。

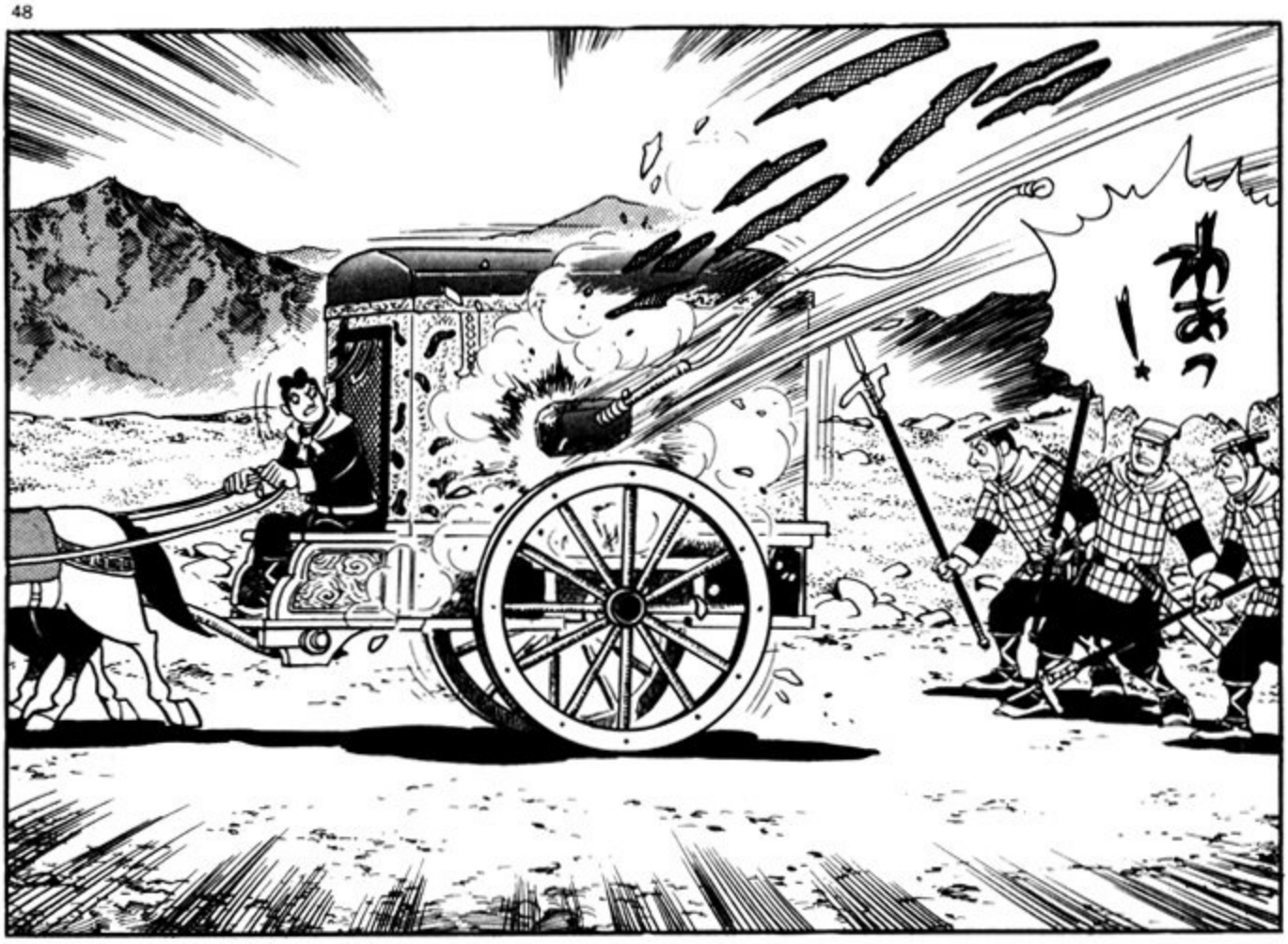
一撃必殺だぞ。
はい。

46

それから投げたら手はず通りの逃げ道を行くんだ。あの逃げ道なら騎馬隊も通れん。
わかっております。

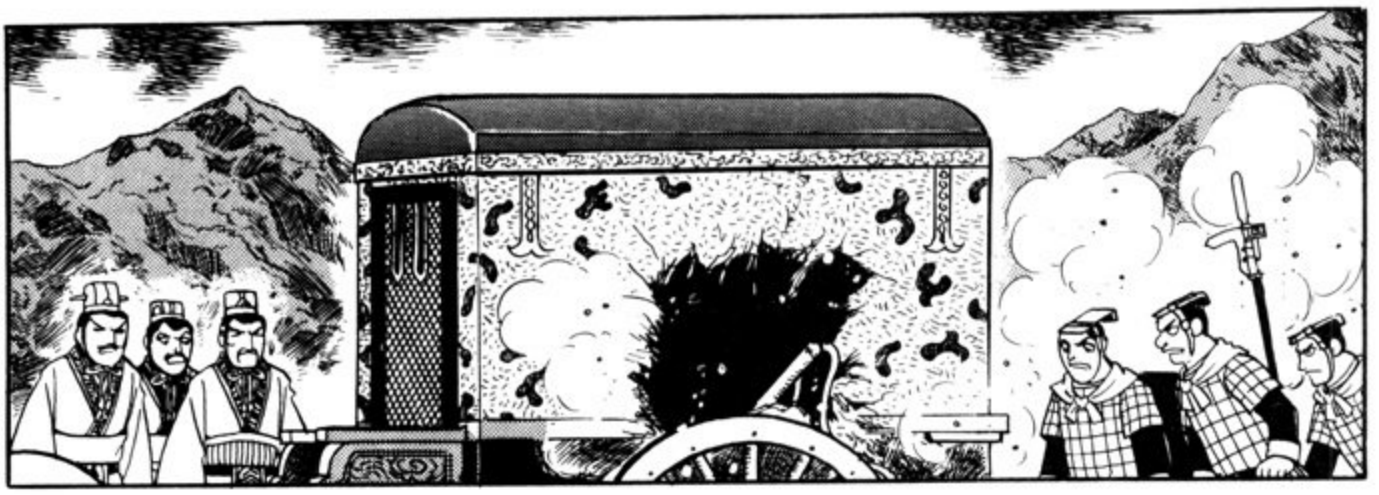
47

48



49

張良の始皇帝
暗殺も失敗した。
だが無事逃げのび、
後に劉邦の
名参謀となって
秦打倒に働くのである。



お、おのれ、朕を狙ったか。
はい、しかし天令によって天子となられました陛下です。天のご加護がございました。

こやつ達は許せん。草の根を分けても見つけだせ。

50

始皇帝の弾圧政策はこの時から始まった

始皇帝は六国を亡ぼし
天下統一をなしたあと、
その兵力の一部を
匈奴討伐に
むけていた。
これを命じられたのは
名将蒙恬である。

51

蒙恬は十万の
兵をひきいて
匈奴討伐を
やっていたのである。

騎馬民族匈奴は
始皇帝が天下を
統一する前から
諸国を襲い、
諸国の頭痛の種で、
国境を接する国は
城壁を築いて
防いでいたのである。

52

蒙恬は始皇帝の
期待に応え、
次々と匈奴を
打ち破り秦の領土を
大きく広げていった。

李斯よ、蒙恬将軍の働きによってわが領土は大きく広がった。これを守るために匈奴との国境に城壁を築け。

ははっ。

53

李斯は捕虜、罪人、農民をかりだして、万里の長城造りをはじめた。

山から谷へ
谷から山へと
城壁が建られ、
諸国が造った
城壁とつなぎ
あわされていった。

54

苛酷な労働で
多くの人々が
死んでいった。
しかし騎馬民族に
とって城壁は大きな
障害ともなった。

55

李斯よ。

はっ。

天下から集めた美女……そして諸国から持ち帰った財宝の置き場所が今の宮殿では間にあわなくなった。

はい。

56

もっと宮殿の数をふやせ。

ははーっ。

たしかに
天下から集め
られた美女や、

57

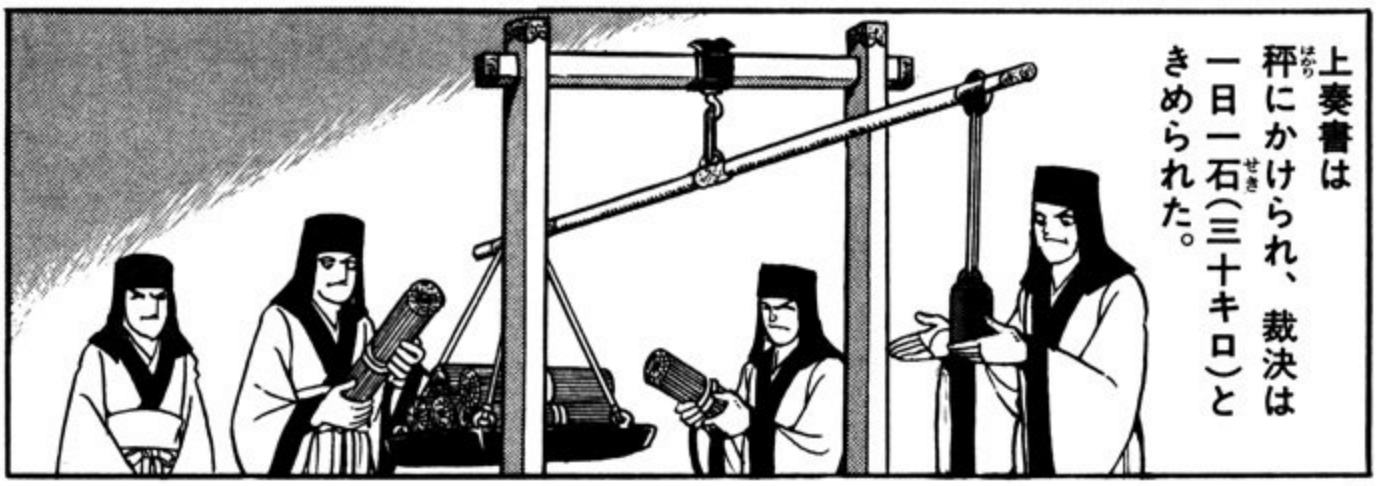
諸国から集め
られた財宝は
山のようであった。

宮殿は次から次へと建てられ、その数は二七〇にのぼった。

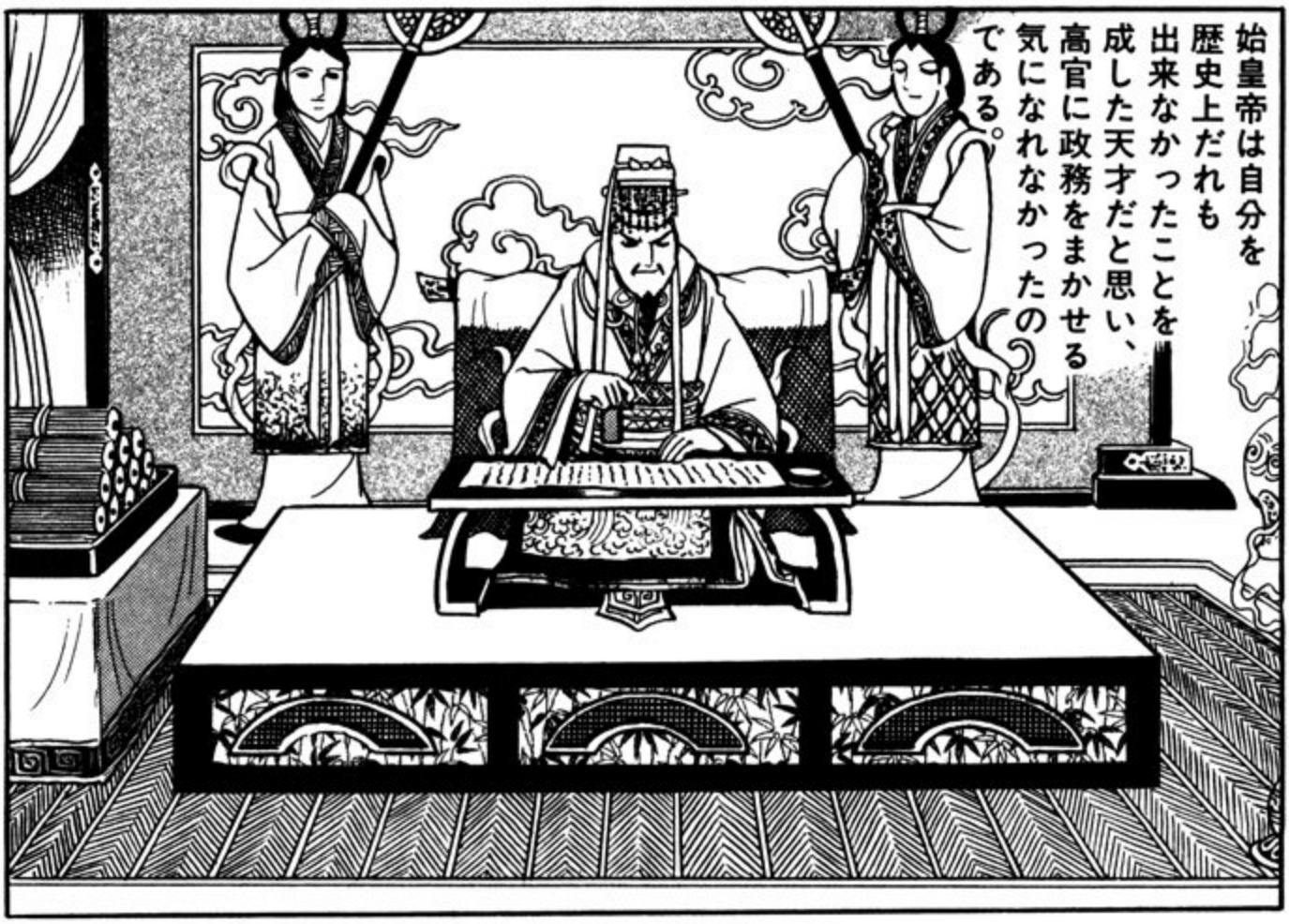
58

さらに始皇帝がどの宮殿に行ったのかわからなくするため、両側を高い土塀でかこった甬道(ようどう)も作られた。

法は始皇帝がすべて定め、裁決も一人でおこなった。このため上奏書は咸陽宮に山と積まれた。


上奏書は秤にかけられ、裁決は一日一石(三十キロ)ときめられた。

59


始皇帝は自分を歴史上だれも出来なかったことを成した天才だと思い、高官に政務をまかせる気になれなかったのである。

国法に逆らう者は
容赦なく処刑され、
国は始皇帝の意の
ままに動いた。

だが絶対権力を握った
始皇帝でもどうにも
ならぬことが一つあった。
自分の寿命である。
始皇帝は不老不死を求め
早く仙人になれることを
神に祈った。

第3話

始皇帝 —2—

2

始皇帝は四十六歳で、絶頂期であった。

七十人の博士たちが次々と祝いの言葉を述べた。

3

かつて秦の地は千里四方にすぎませんでした。しかし陛下のご威徳によって天下は平定され、日月の照らすところ帰服いたさぬ者はございませぬ。

諸侯の封地はことごとく郡県となり戦火のおそれもなく、人々は平和の到来を喜んでおりまする。このような体制は上古以来成したものはおらず、まことに並ぶものなきご偉業にございます。

始皇帝は上機嫌で
祝いの言葉を聞いていた。

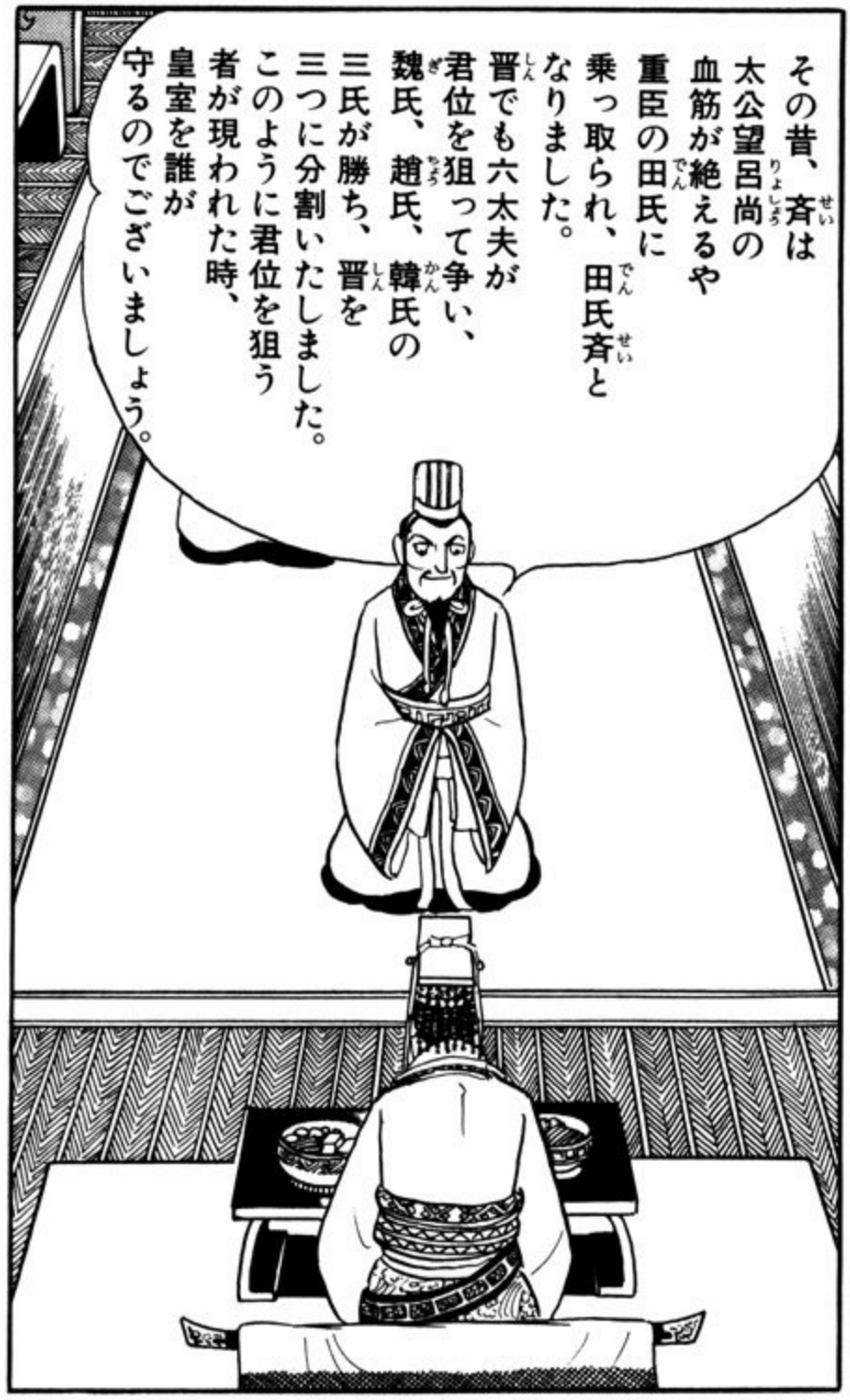
陛下、
陛下のご威徳に
より新しい時代が
生まれました。しかし
これだけでは万全とは
いえませぬ。

ほう、
淳于越博士、
何か不充分だと
申すのか。

4

殷・周の王朝が
千余年も栄えたのは
子弟や功臣を
諸侯に封じて
王室を守らせた
からにございます。

ところが陛下は
天下を平定
なさりながら、
ご子弟のいずれも
一介の平民にとどめ
られたままで
ございます。


その昔、斉は太公望呂尚の血筋が絶えるや重臣の田氏に乗っ取られ、田氏斉となりました。
晋でも六太夫が君位を狙って争い、魏氏、趙氏、韓氏の三氏が勝ち、晋を三つに分割いたしました。
このように君位を狙う者が現われた時、皇室を誰が守るのでございましょう。

ふむう。

なに事も古を手本としないで長らえたものはございませぬ。なにとぞよくよくお考え下さいませ。

ふむう。

これ みなの者、この件はよくよく考えて後日 意見をだせ。

6

だが丞相の李斯は淳于越の考えに反対であった。

李斯はさっそく上奏書をしたためた。

7

古の五帝や夏・殷・周は前代の政治を踏襲したわけではありませぬ。時代が変わったから時代に合った政治をしたのです。

いま陛下は上古以来誰も成しえなかった天下統一という、学者の想像を越える大偉業をなされたのです。淳于越のいう夏・殷・周のむかし話がどうして手本になりましょう。

今は天下も統一され、法令も一か所で定められるだけです。人民はそれを守っていれば良いのです。ところが学者どもは新しい時代の今を師とせず昔を良しとします。

これは新しい政治を非難することになり、人心をまどわす結果となります。学者達は自分の想像を越えた事が起こり新しい時代を迎えたのに、いまだ自説を良しとし、新しい政治を非難することを名誉と思っております。

8

これを放置しておけば陛下の権威が衰え、新しい政治に反対する者がふえましょう。即刻取り締るべきでございます。

その方法として医薬・卜筮(ぼくぜい)・農業に関する書以外はすべて焼き捨て、詩・書を論ずる者はさらし首とし、上古を理想として現体制を非難する者は一族皆殺しといたします。

ふむう、確かに李斯(りし)の申す通りだ。朕(ちん)は上古以来誰も成し得なかった新しい国を作ったのじゃ。新しい政治を行なうのは当然じゃ。

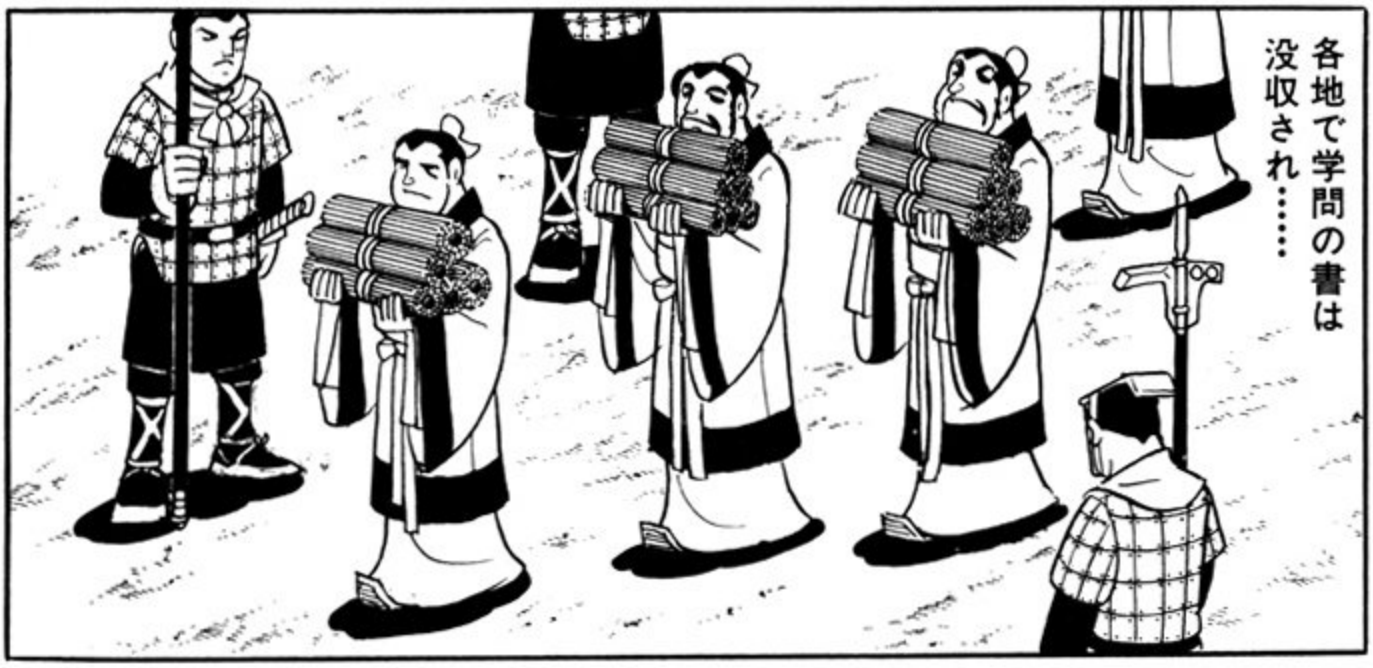
これ、全国に布令を出せ。詩・書・諸子の書はすべて地方官のもとに差し出させ焼き捨てよ。
そして詩・書を論じる者はさらし首、上古を理想として現代を非難する者は一族皆殺しといたせ。

官吏でもこれを知りながら見逃したものは同罪である。

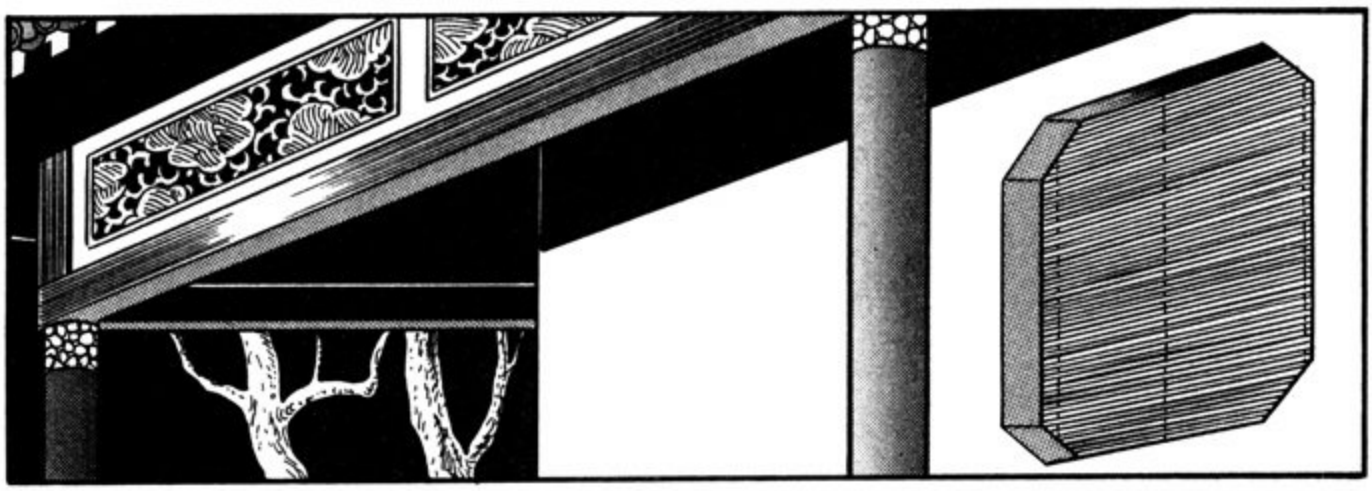
ははっ、ただちに全国に布令を出しまする。

10

こうして全国に布令が出された。



11



のう 侯生、近頃の陛下をどう思う。
もうついていけんのう。

昔から傲慢なところがあったが、天下制覇を成しとげてから自分は歴史始まって以来の人間であると信じこんでいる……

自称も朕から真人(真理を悟った人)に変えた。思いあがるにもほどがある。

それに政治といえば刑罰の数をふやすだけ。獄吏ばかりが威張り、博士などはただの飾りものじゃ。

それにあの
仕事ぶりはどうじゃ。
裁決は一日一石
(三〇キロ)と
きめたので休む間もない。
小さなことぐらい
高官にまかせればよいのに、
それもさせぬ。
権力のすべてを
自分一人で握って
いたいからじゃ。

13

あんな男が不老不死になったらこれから先、世の中どうなるのじゃ、わしは不老不死の薬など探したくなくなった。

しかし探し出さねば効験なき方士は死罪という法にふれるぞ。

それじゃ、死罪になるくらいなら徐福のようにさっさと身をかくしたほうが賢明だ。
逃げるのか。

14

盧生と侯生は始皇帝に見切りをつけさっさと逃げだしてしまった。

なにっ、侯生と盧生がいなくなったと。

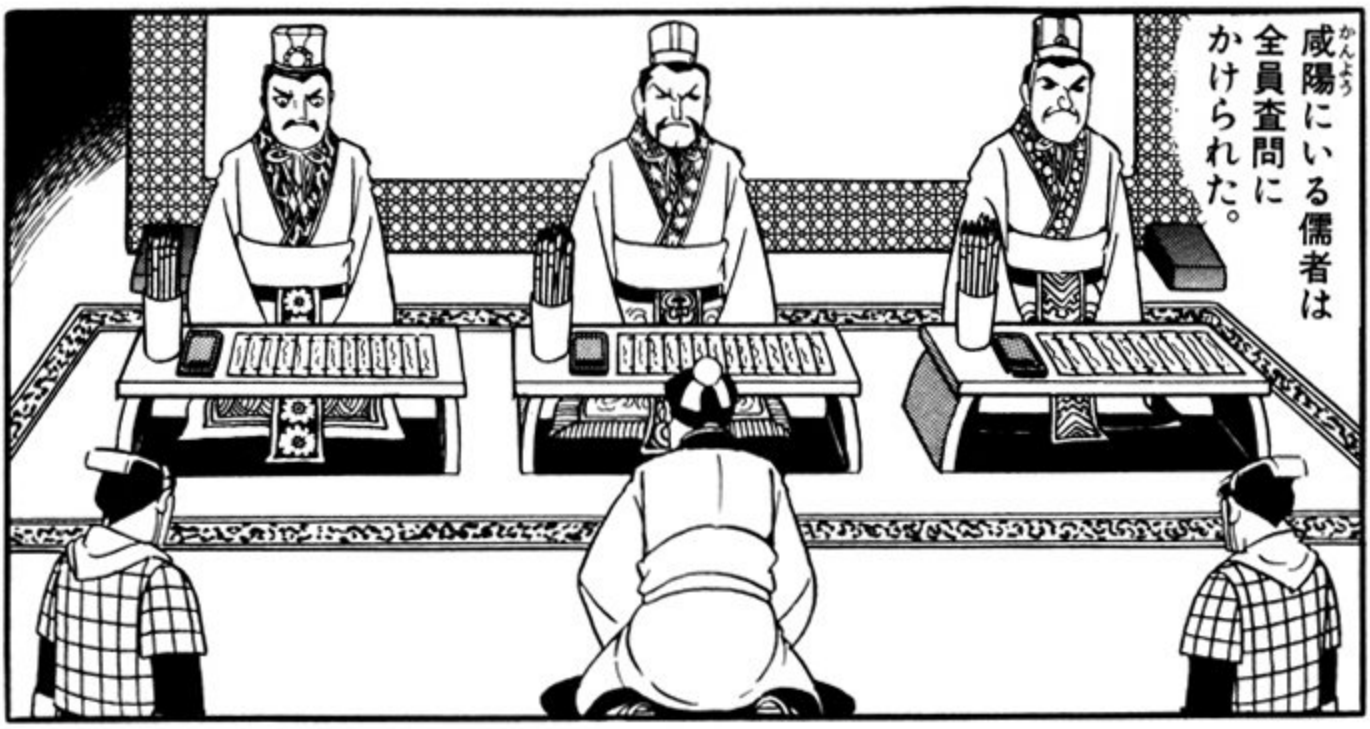
わしは新しい時に於いて無用の書物は、すべて焼き捨てさせたがそれと同時に学者や方士は最高の待遇を与えて迎えたぞ。すべて新しい太平の世を作るために協力してもらうためじゃ。

15

それがどうじゃ、徐福をはじめ侯生、盧生まで姿を消した。

町の儒者どももいまだ昔の学問にこだわり礼節こそ法だと真人のやり方をけなし、人心をまどわしていると聞く。

これ以上放置はできん。儒者どもを査問し、人心をまどわしている者は処刑せよ。


咸陽(かんよう)にいる儒者は全員査問にかけられた。

16

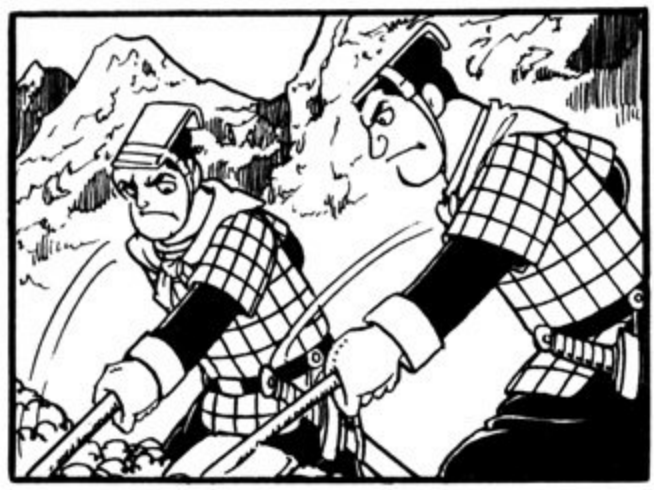
儒者達は処罰を恐れて罪をなすりあい、言いのがれをしようとした。

結局四百六十余人が
有罪となり…

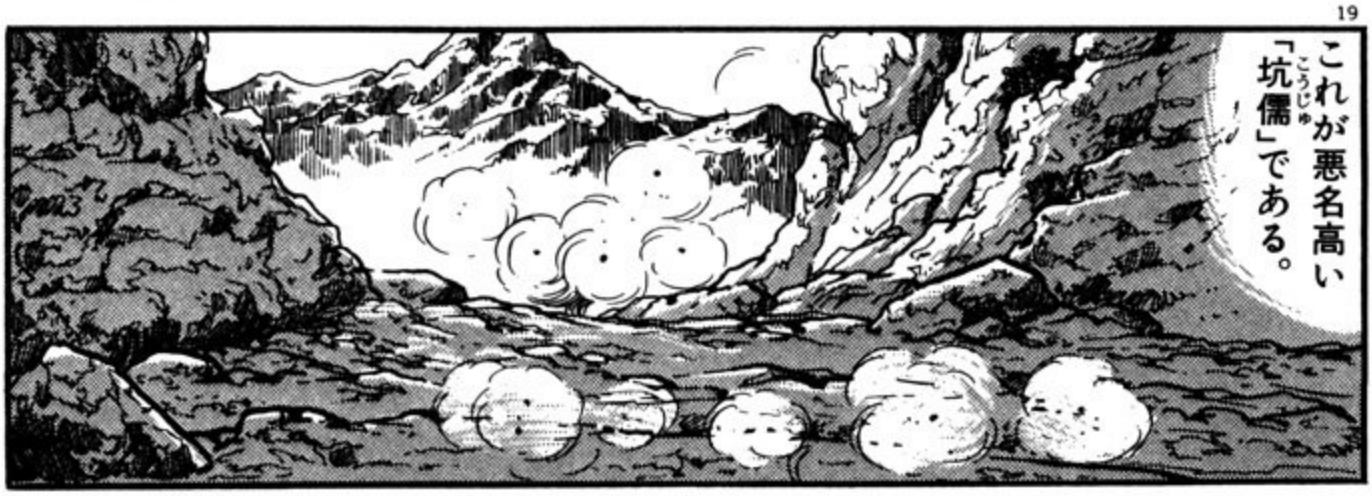
17

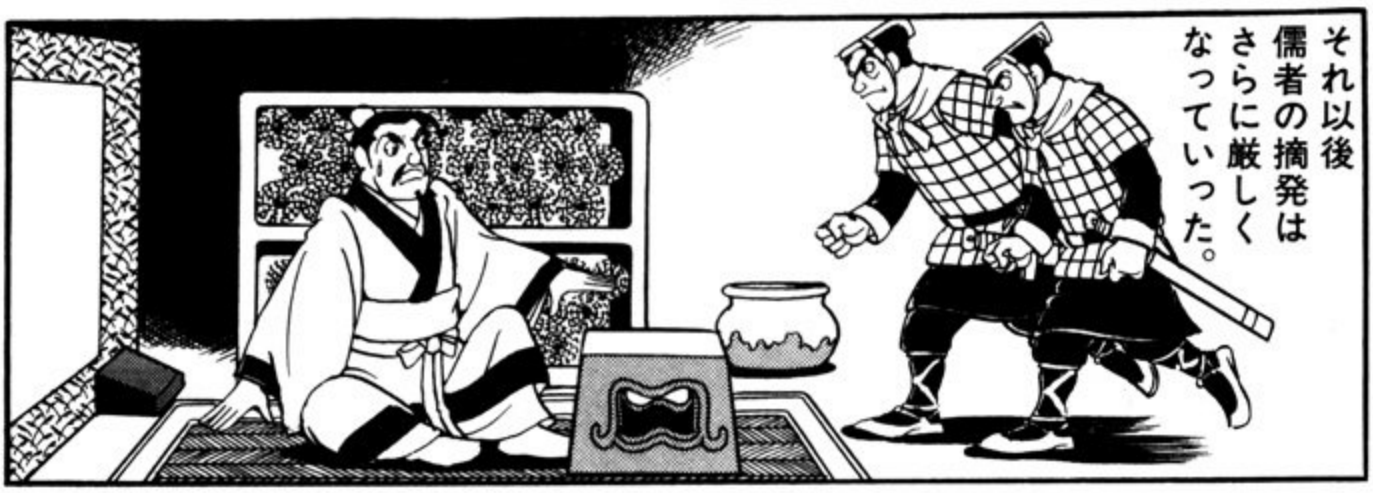
生き埋めと
きまった。

18

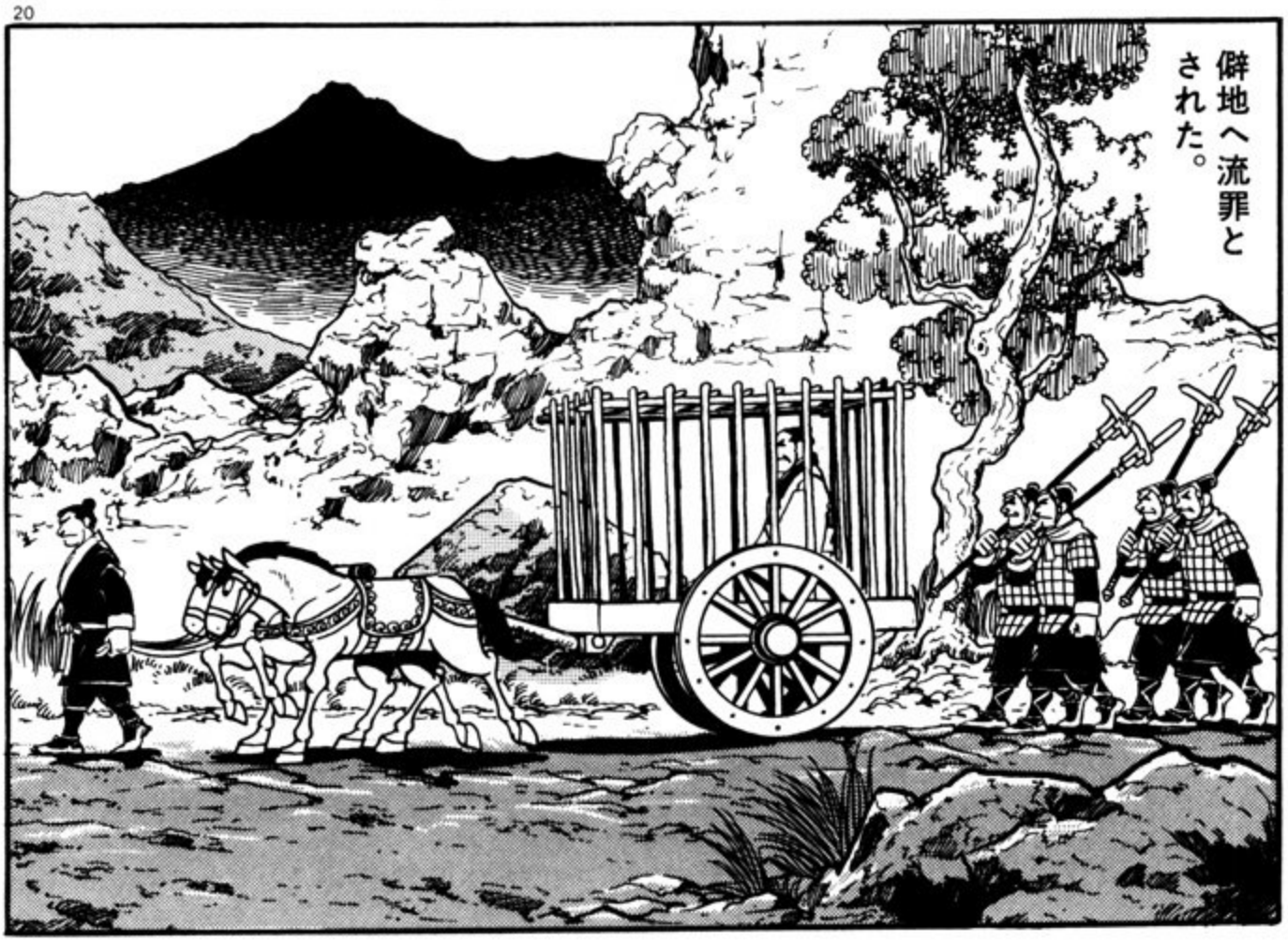


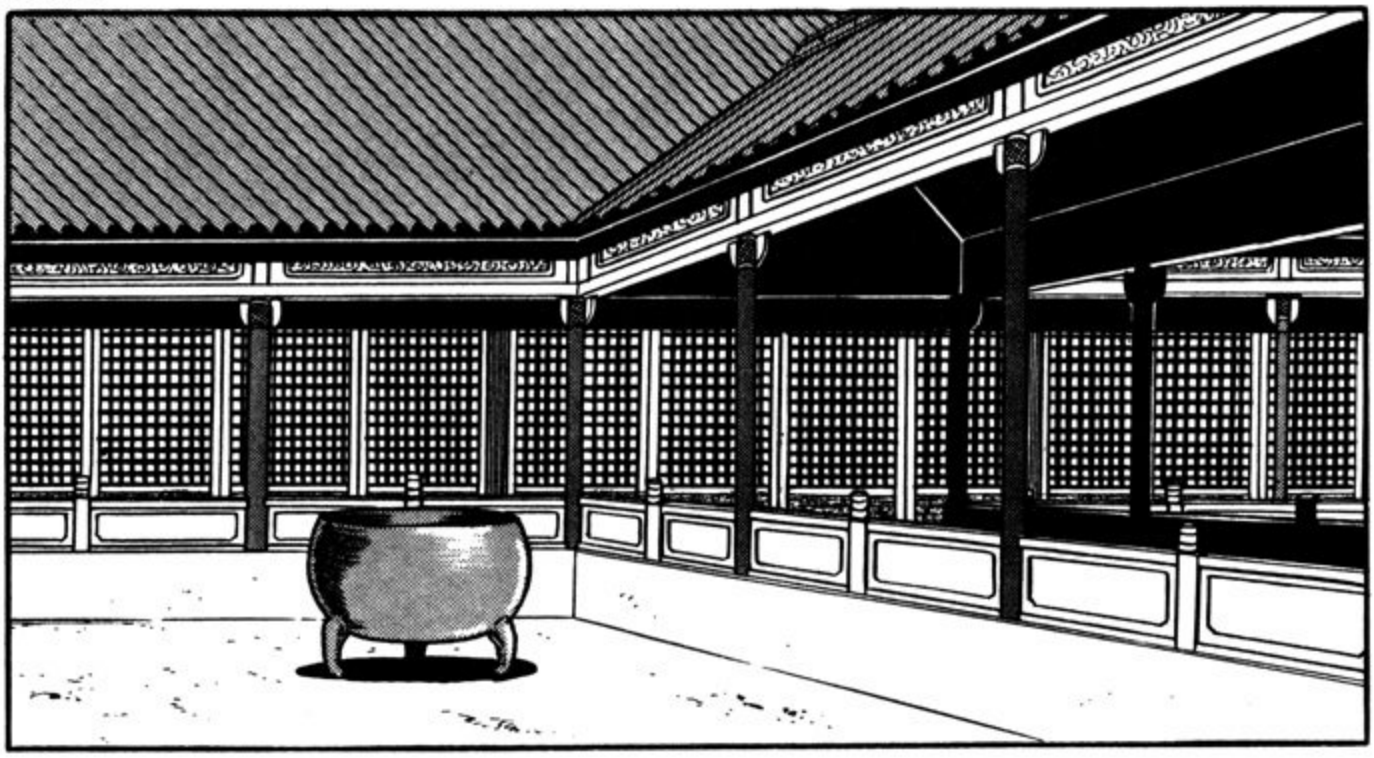
19

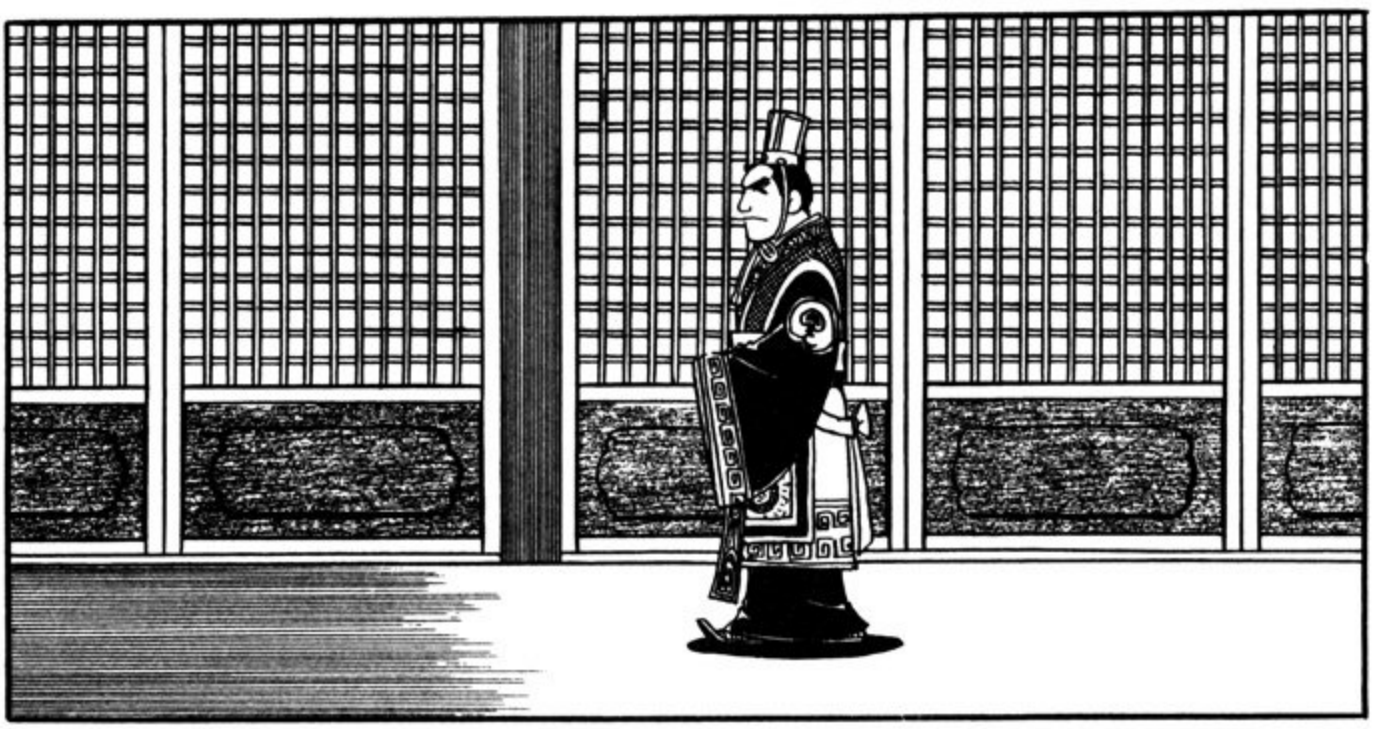




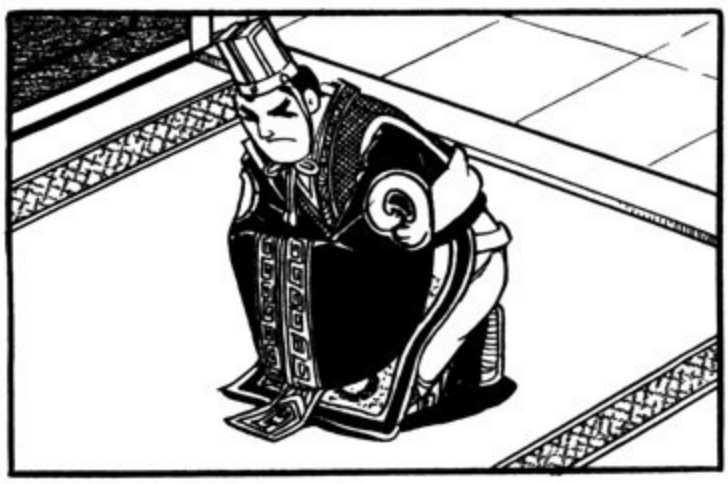
20







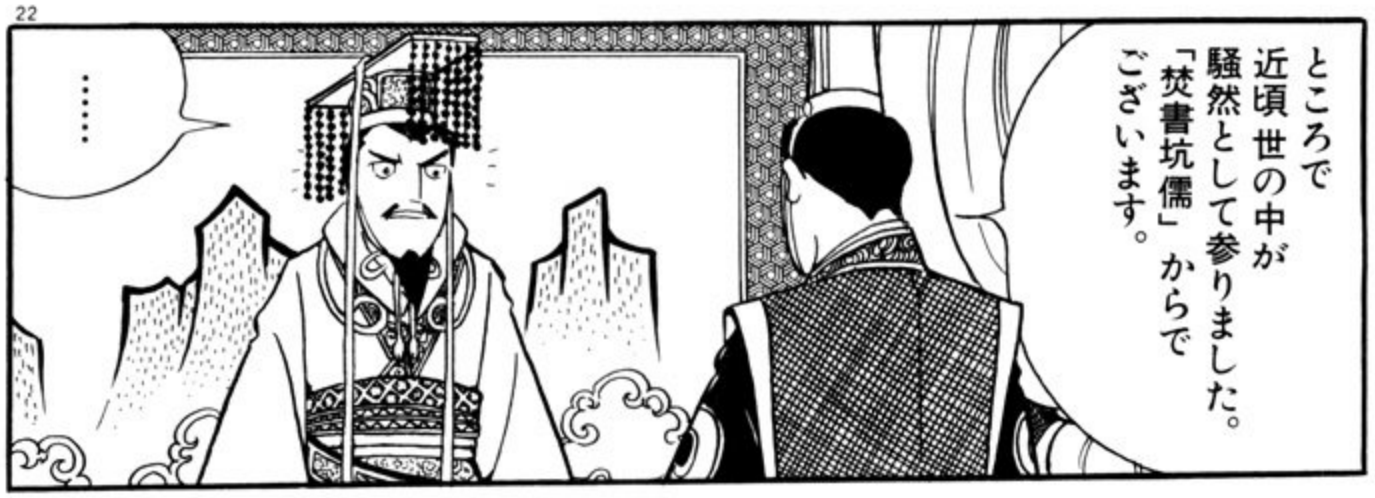
21



扶蘇よ、何か用か。

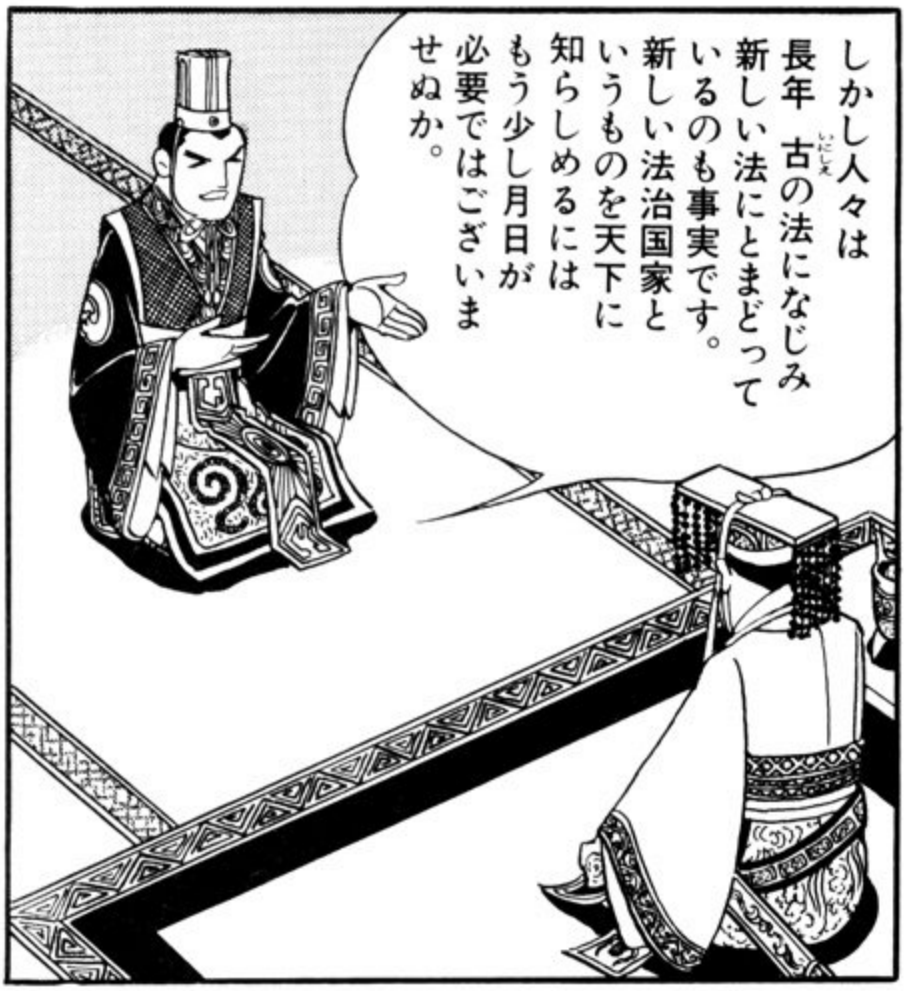
近頃ご容態がすぐれぬと聞いておりますがいかがにございます。

22



天下平定をして
まだ日も浅く、匈奴も
まだ帰服しておりませぬ。
新しい国作りに賢者は
必要にございます。
孔子の教えを信奉する
者が古き慣例を良しと
言いたてるからといって、
極刑に処すのは
いかがなものでございま
しょう。

やつらはのう、
昔の法を良しとし
真人のやり方を非難し
人心をまどわし
反体制をとなえる
ことが名誉だと
思っているのだ。


しかし人々は
長年 古の法になじみ
新しい法にとまどって
いるのも事実です。
新しい法治国家と
いうものを天下に
知らしめるには
もう少し月日が
必要ではございま
せぬか。

扶蘇よ、
儒者は礼節を法の
基本にせよという。
人間礼節を守れば
争いは起こらぬという。
ならばなぜ乱世の
到来をまねいたのじゃ。

24

扶蘇は父親の身を案じて諫めたのだが、始皇帝は自分のやり方に異をとなえる者は息子であろうと許さなかった。これは体のいい追放であった。

翌年　始皇帝は
九原から甘泉まで
直線道路の建設を
命じた。匈奴の来襲に
素早く対応する
ためである。山をけずり
谷を埋めて作られた
直道は七〇〇キロに
達するものである。
七〇〇キロといえば
東京から岡山あたりまでで
現代でも大工事である。

25

さらに始皇帝陵(驪山陵)の築造を命じた。

26

驪山陵は始皇帝が秦王に即位した時から造られていたものだが、それを皇帝の墓にふさわしいものにせよと命じたのである。

地下に宮殿を造り、
水銀で川や海、
天井には星座を
作るという設計である。

27

と同時に
渭水の南に
阿房宮の
建設を命じた。

阿房宮は木造建築としては歴史上最大のものである。
前殿の階上には一万人が座れる広間があり、まわりを回廊でつなぐという設計である。

28

さらに、阿房宮から
咸陽まで渭水の上を
二層の回廊で
つなぐというものである。

29

この両工事の労働に
かりだされた人々は
百万人にのぼり、
それに関与した人々は
その二倍とも三倍とも
いわれた。

当時中国の人口は
二千万と推定されて
いるから、その数字は
大変なものである。

30

召集された人々は
到着期日に一日でも
遅れると死刑という
厳しいものであった。
人々の間から怨嗟の
声が全国に広まって
いった。

31

始皇帝は後宮に
ひきこもりがちになり、
上奏文の裁決は、
始皇帝のお気に入りで
二男胡亥の教育係でも
ある宦官趙高を
通さなければ受付け
られなくなった。

この趙高こそ
中国史に残る
悪宦官であった。

李斯さま、
今日の裁決は
これだけに
ございます。

おお、
さようか。

32

陛下のご容態は
どうじゃ。

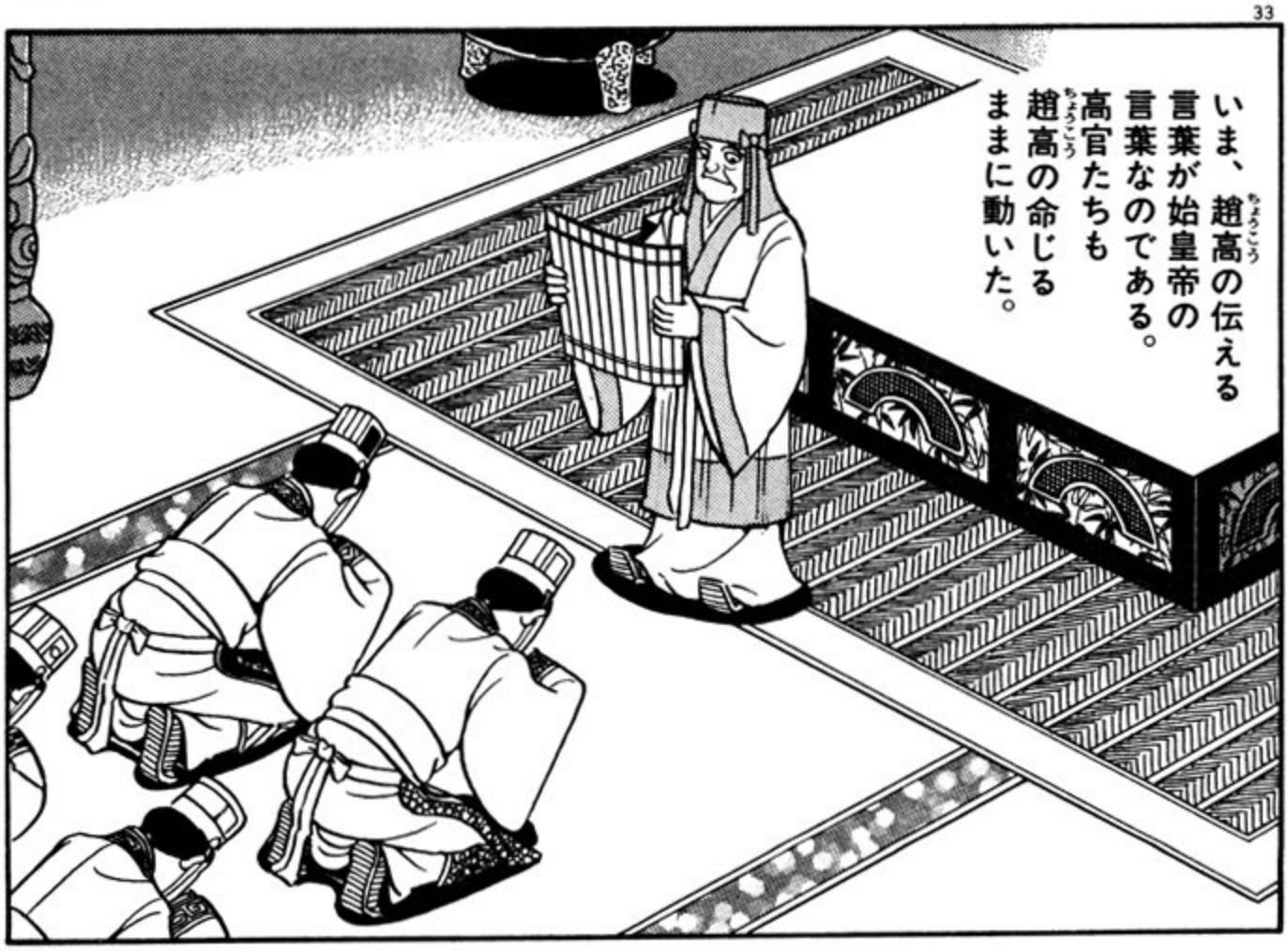
良薬を飲んで
おられますから
やがて元気に
なられましょう。

上奏書が山のようになっている。
お許しがあれば些細なことはわれらがいたすのじゃがのう。

丞相さまといえどもそれはなりませぬぞ。
裁決はすべて陛下がなさることになっています。

わかっているわかっている。
裁決の優先順位はわたしが決めまする。これも陛下のお体のため……

33


いま、趙高の伝える言葉が始皇帝の言葉なのである。
高官たちも趙高の命じるままに動いた。

前二一一年、

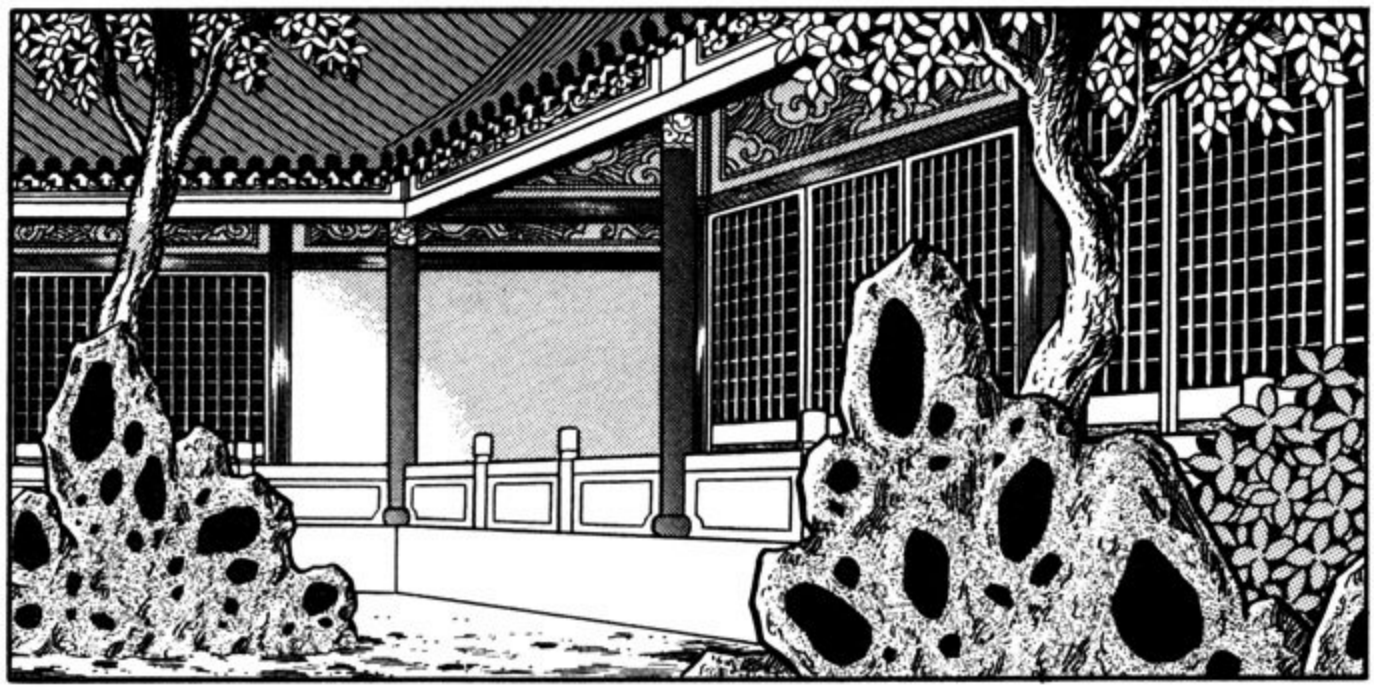
東郡に流星が落ちた。

その隕石に……

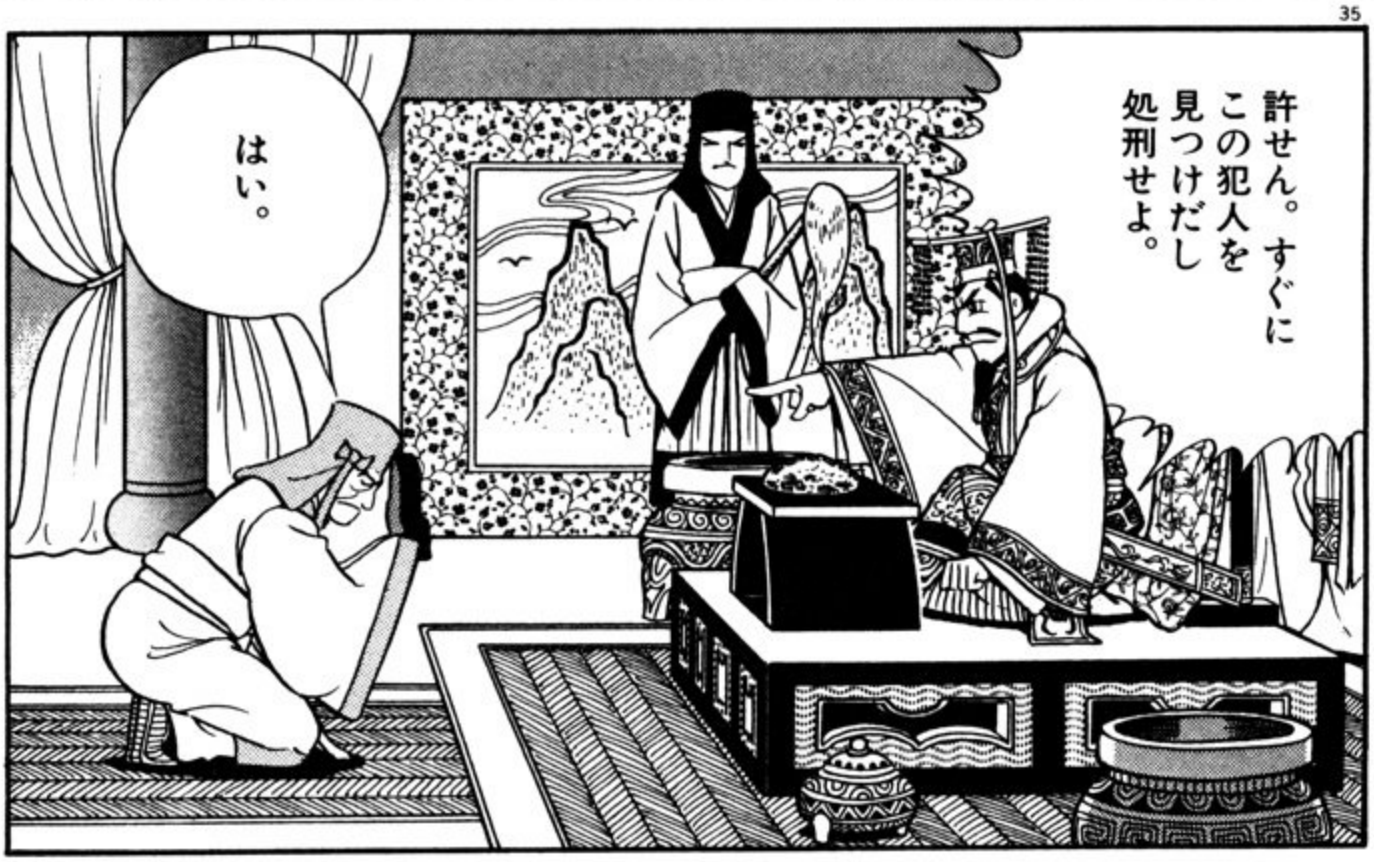
34

「始皇 死して地 分かたる」と落書きしたものがあった。

始皇死而地分



35



ただちに付近の捜査が始まった。

36

さあ誰が隕石に落書きをした。正直に答えよ。かばいだていたすと痛い目にあわせても白状させるぞ。

きさま
どうじゃ？

いえ、
いっこうに
知りません。

そちは。
なにも
存じません。

誰か知ってる
者はおらんのか。

……
……

そうか、
かばいだて
する気だな。

よし、
体に聞いて
やれっ。

さあ白状せい、誰か落書きをしたものがいるのは間違いないんだ。

ドシ

バシ

38

なにっ！
犯人が見つ
からぬと。

書いた者が
いるのは間違い
ないのじゃ、
皆かばって
いるのじゃ。

39

よし、付近の住民を
皆殺しとせい。
真人にさからうと
どうなるか
天下に示せ。

はっ。

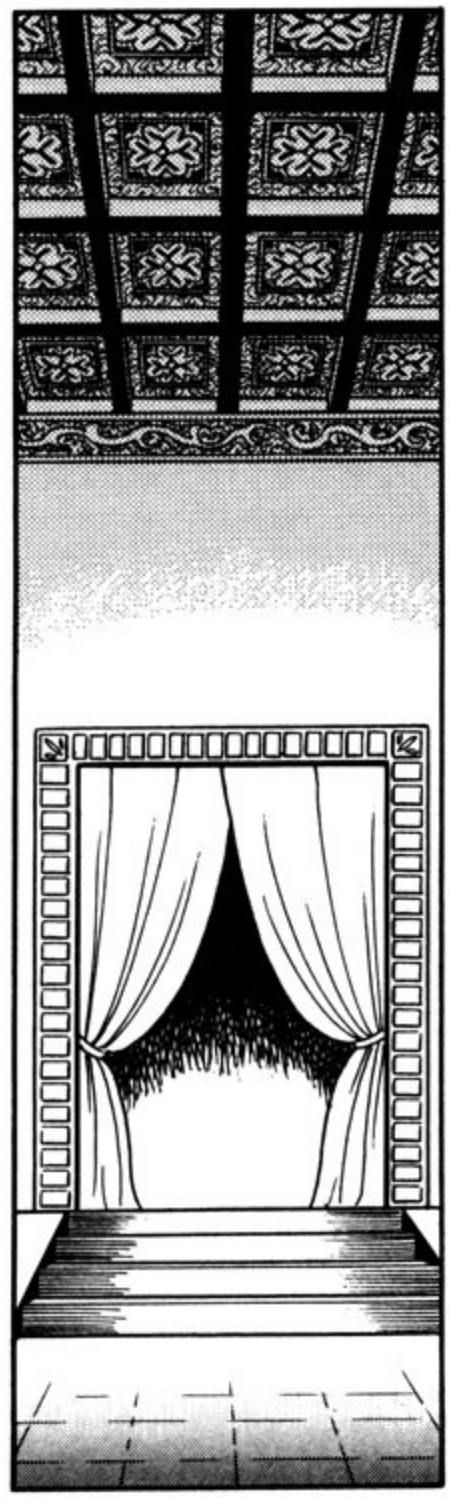
ただちに
兵が出動した。

40

そして村々に
火を放ち
……

41

陛下、薬湯にございます。
うむ。

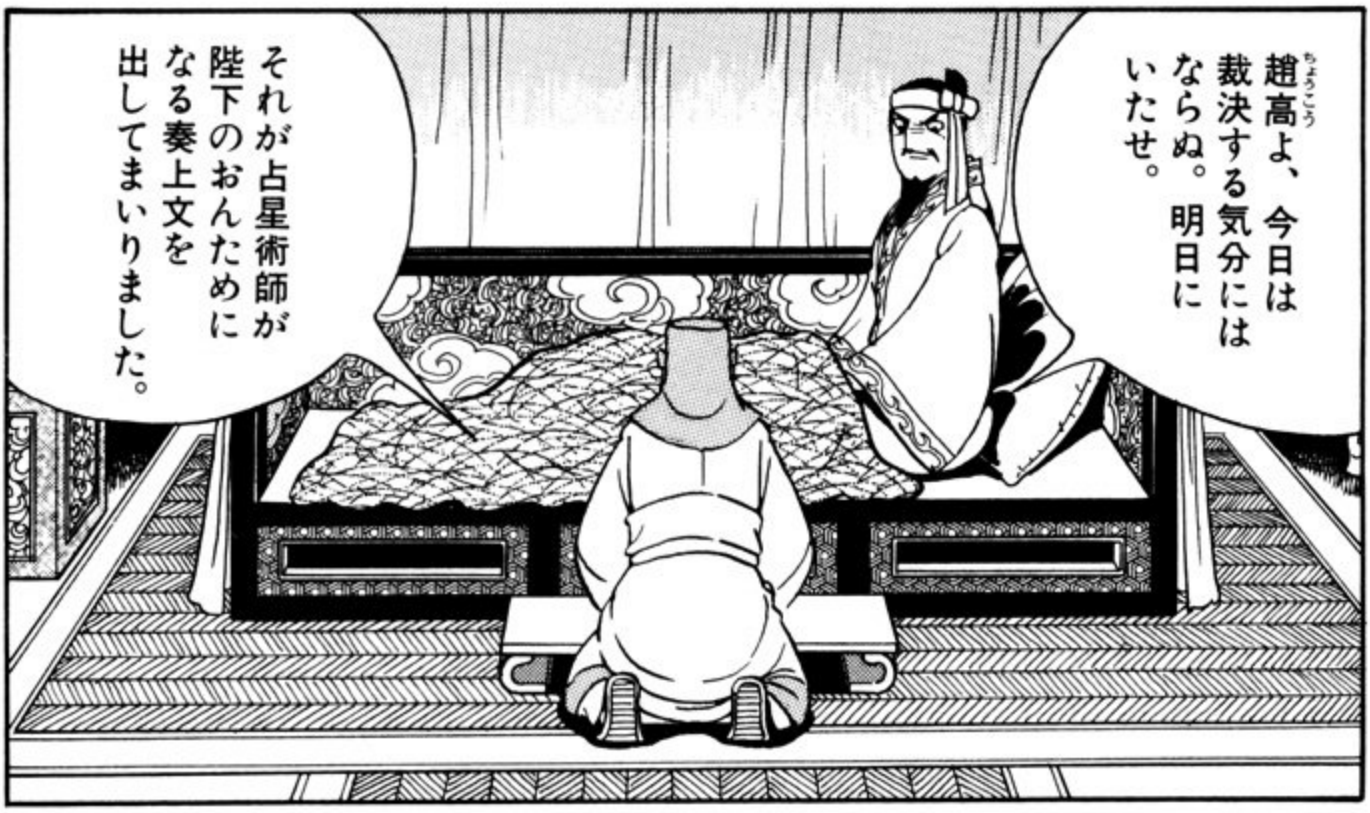


神よ、わたしはあなたさまに巨万の富を貢ぎあがめておりまする。それなのになぜ仙人にして下さいませぬ。

42

わたしは古の五帝や夏・殷・周の王室もできなかったことをやりとげた人間でございます。歴史上わたし以上の人間はおらぬはずでございます。なのに……

趙高にございます。


趙高よ、今日は裁決する気分にはならぬ。明日にいたせ。
それが占星術師が陛下のおんためになる奏上文を出してまいりました。

43

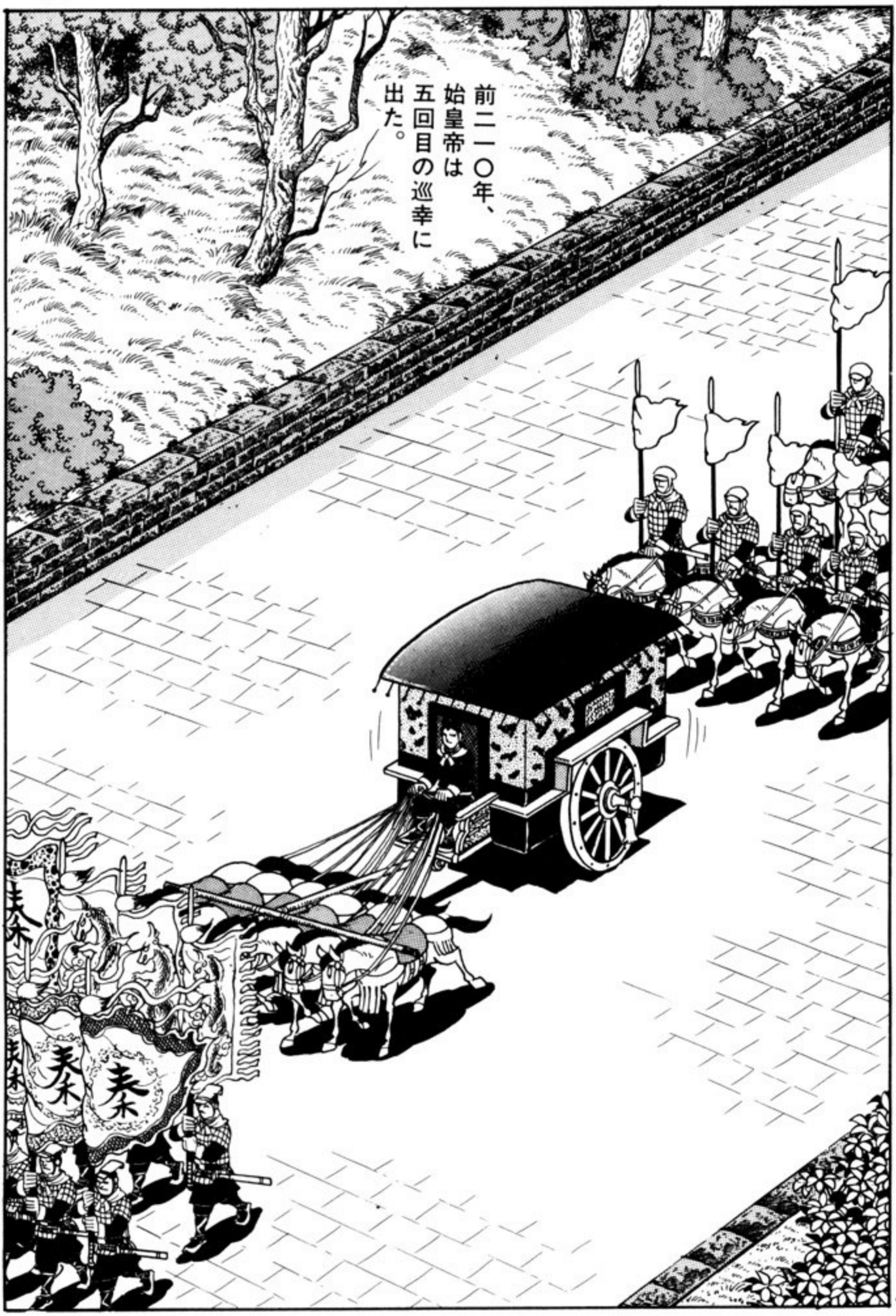
ほう、なんじゃ。

占星術によれば巡幸すれば吉と出たと申しております。

44

よし、すぐに巡幸に出る準備をいたせ。

ははーっ。



45

だが巡幸中
ますます気分が
悪くなっていった。

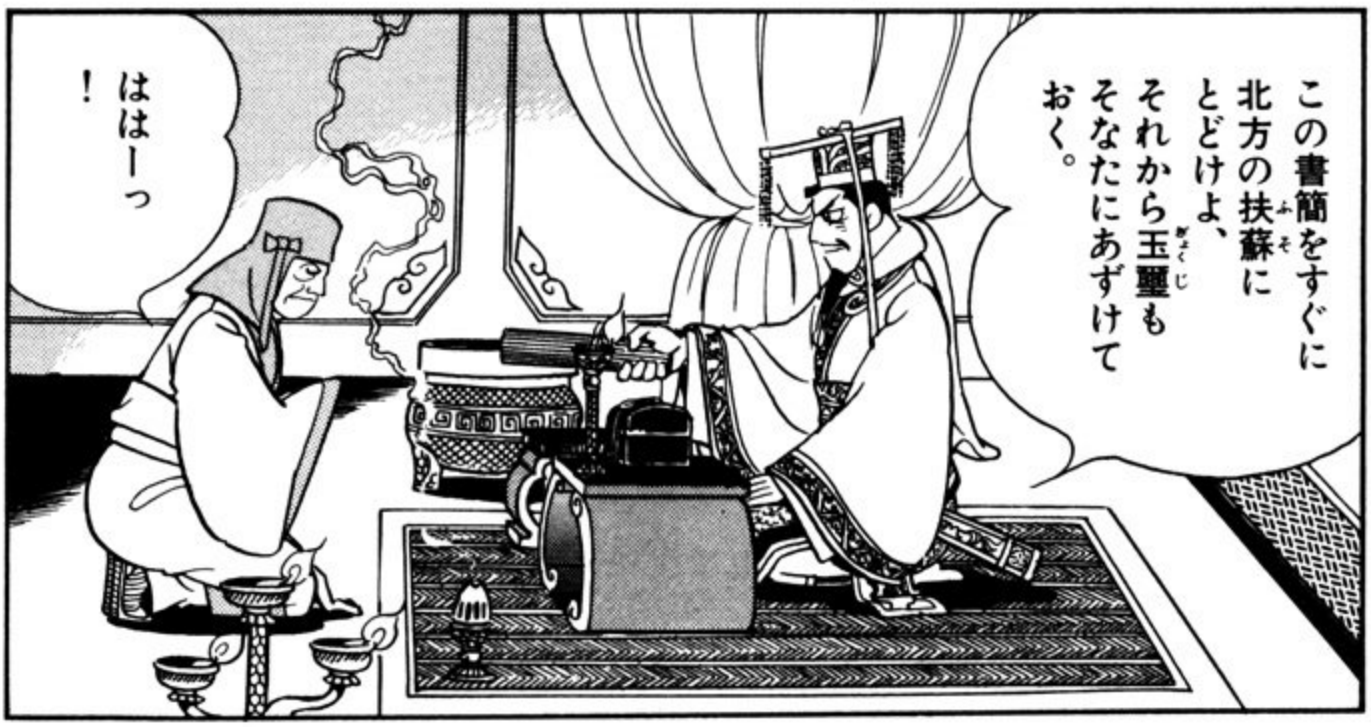
46

さすがの始皇帝も
途中宿舎で
長男扶蘇に
遺書をしたためた。

扶蘇よ、
北方より帰り
咸陽で喪主と
なって葬儀を
とりおこなう
よう……

趙高よ。

はっ。


この書簡をすぐに北方の扶蘇にとどけよ、それから玉璽もそなたにあずけておく。
ははーっ！

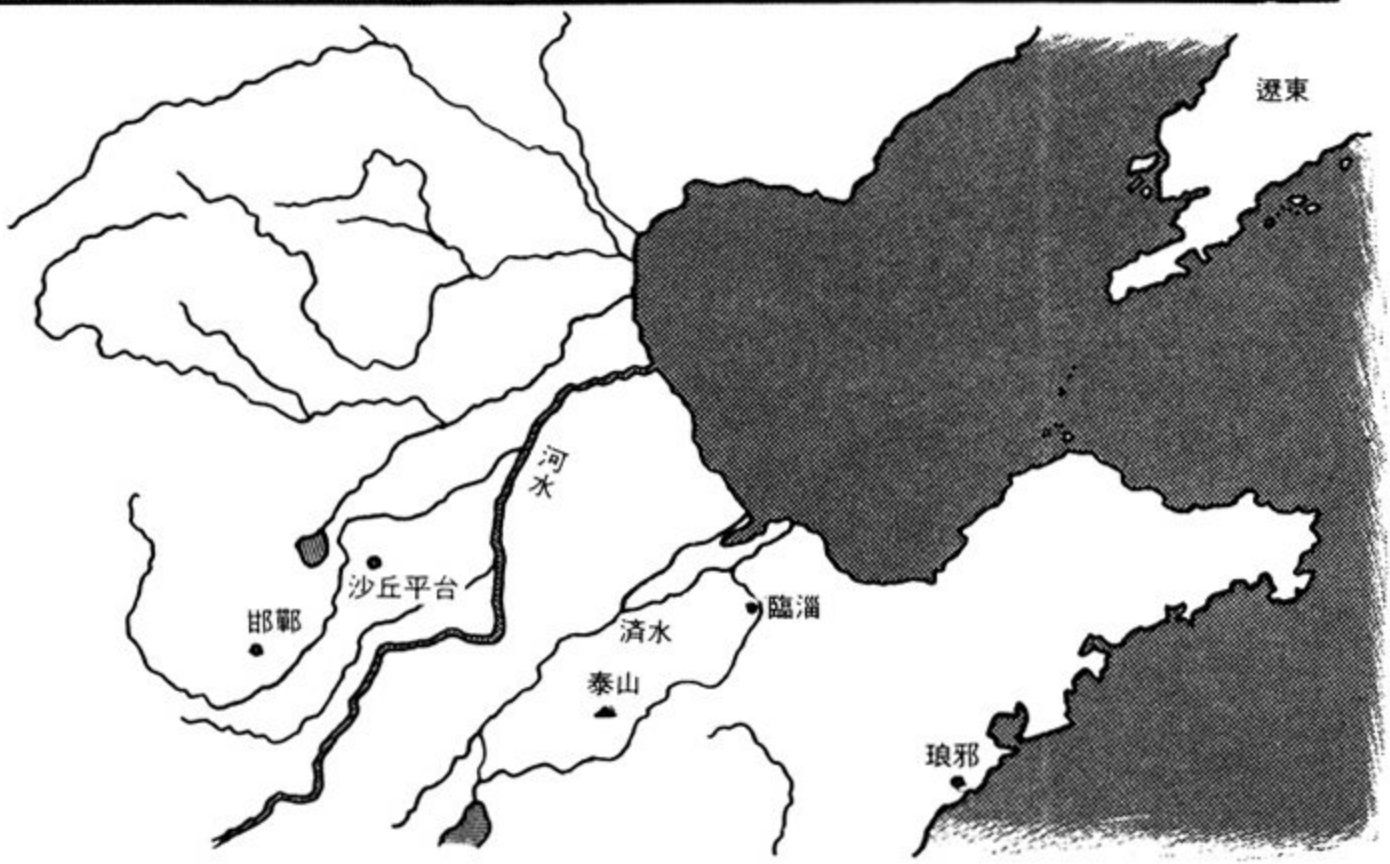
いったい扶蘇さまに何を書かれたのであろう。

なにっ、扶蘇さまに葬儀の喪主になれと！

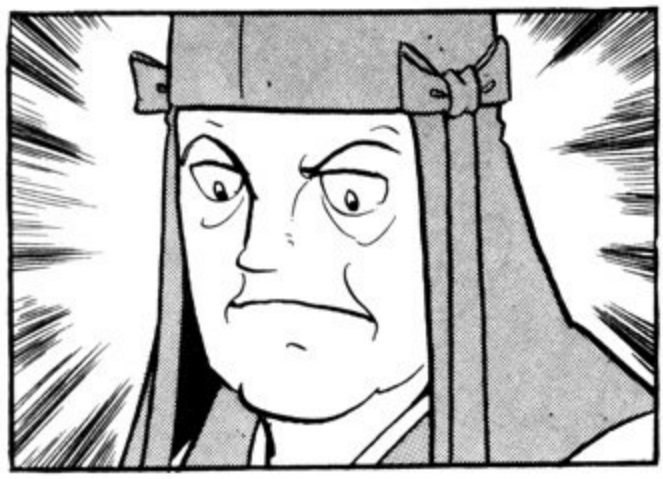
48

こうして始皇帝の
遺書は趙高の
手元で止められ、
巡幸はつづけ
られた。

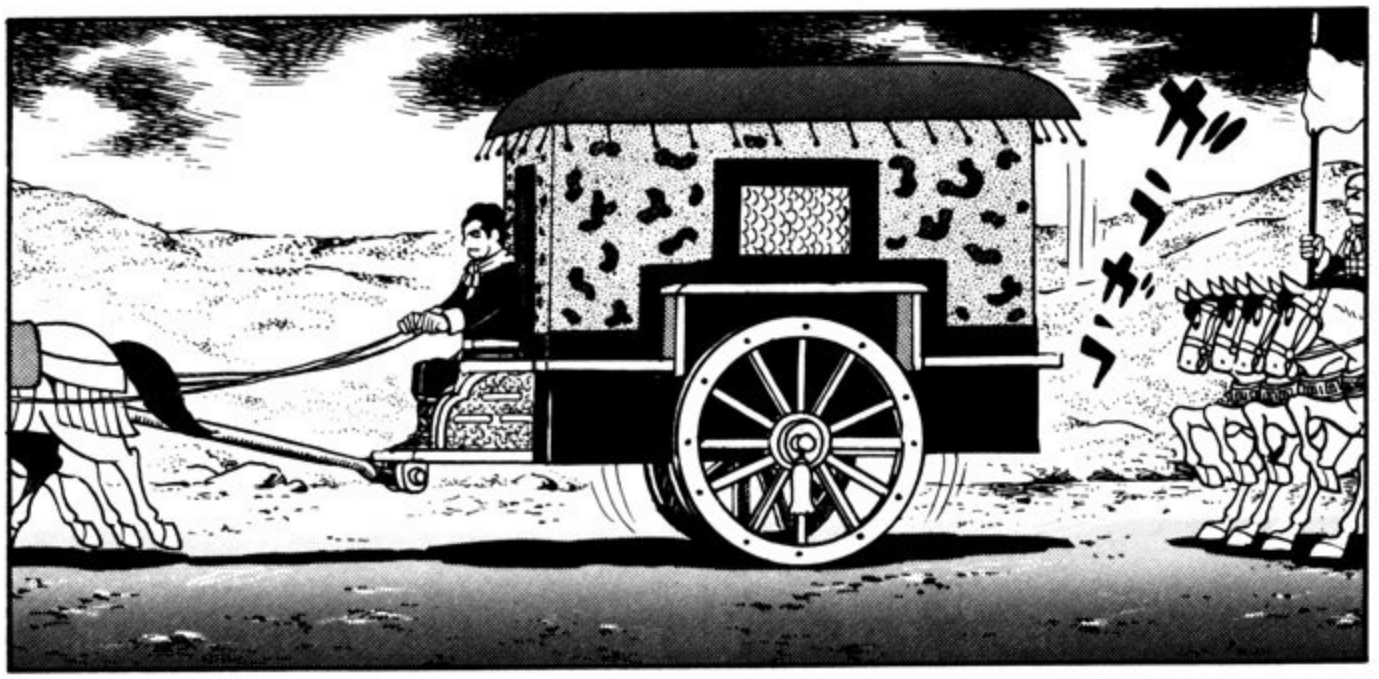
七月始皇帝は
沙丘平台に
さしかかった。

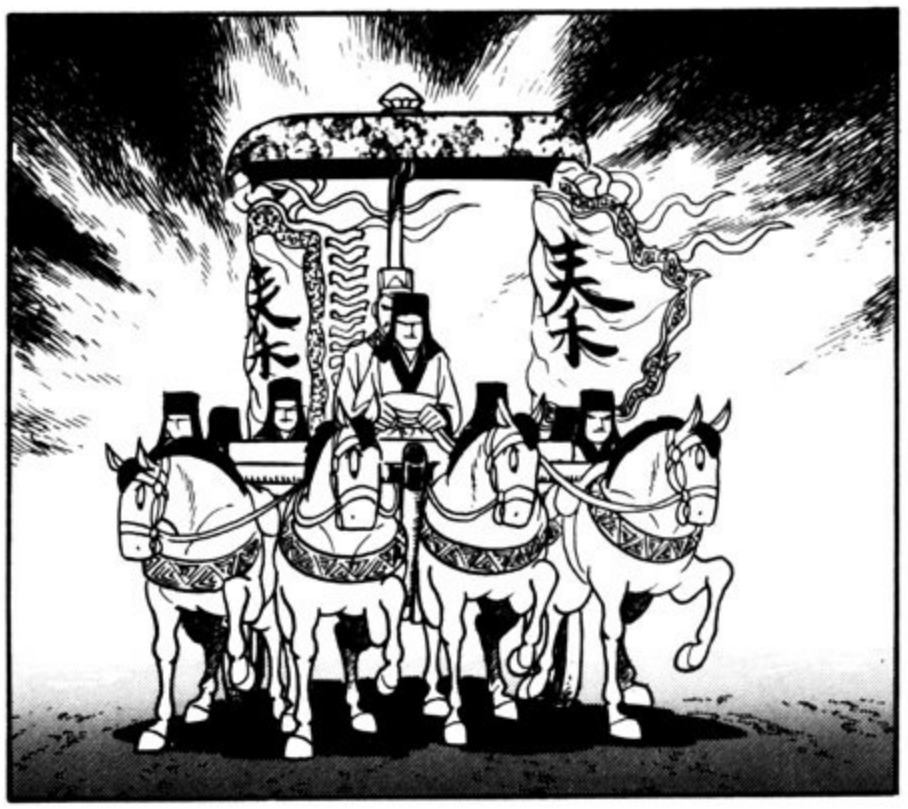


50

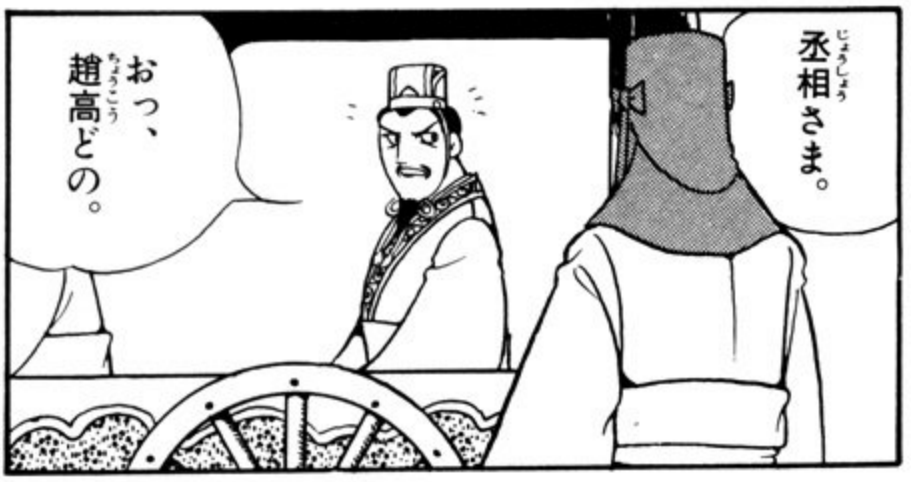


51





52



趙高どの何か……
もう少しこちらへ。

陛下がお亡くなりになった。

なにっ。

知っているのはわたしだけでございます。外部にもれたら大騒ぎとなります。

その通りだ、陛下の公子は二十余名いなさる。後継ぎ問題でお家騒動も起こる。

53

それで今夜宿舎で今後のことを打合せしとうございます。
わ、わかった。

胡亥さま、陛下は崩御なされました。
な、なにっ、いつじゃ。

昼間にございます。

な、なぜ知らせなかった。

54

これが公になると公子達さまや反乱分子で大騒ぎとなることは必定だからにございます。

それで遺言はなさらなかったのか。

扶蘇さまの書簡一通と玉璽をあずかってございます。
兄上への書簡か、それならばすぐとどけねばなるまい。

その書簡には扶蘇さまを喪主とするよう記されています。

では父上は兄上を二世皇帝と決められたのじゃ。

55

胡亥さま、あなたはそれで何の不満もございませぬか。陛下は公子さま達をどこの王にもなさらず平民のままにしてお亡くなりになられたのですぞ。

父上がそう考えられたのだからそれについていまさらとやかくいってもはじまらぬではないか。

しかし それでは扶蘇さまが皇帝となりあなたさまは一片の土地も持たぬ平民のままでございます。

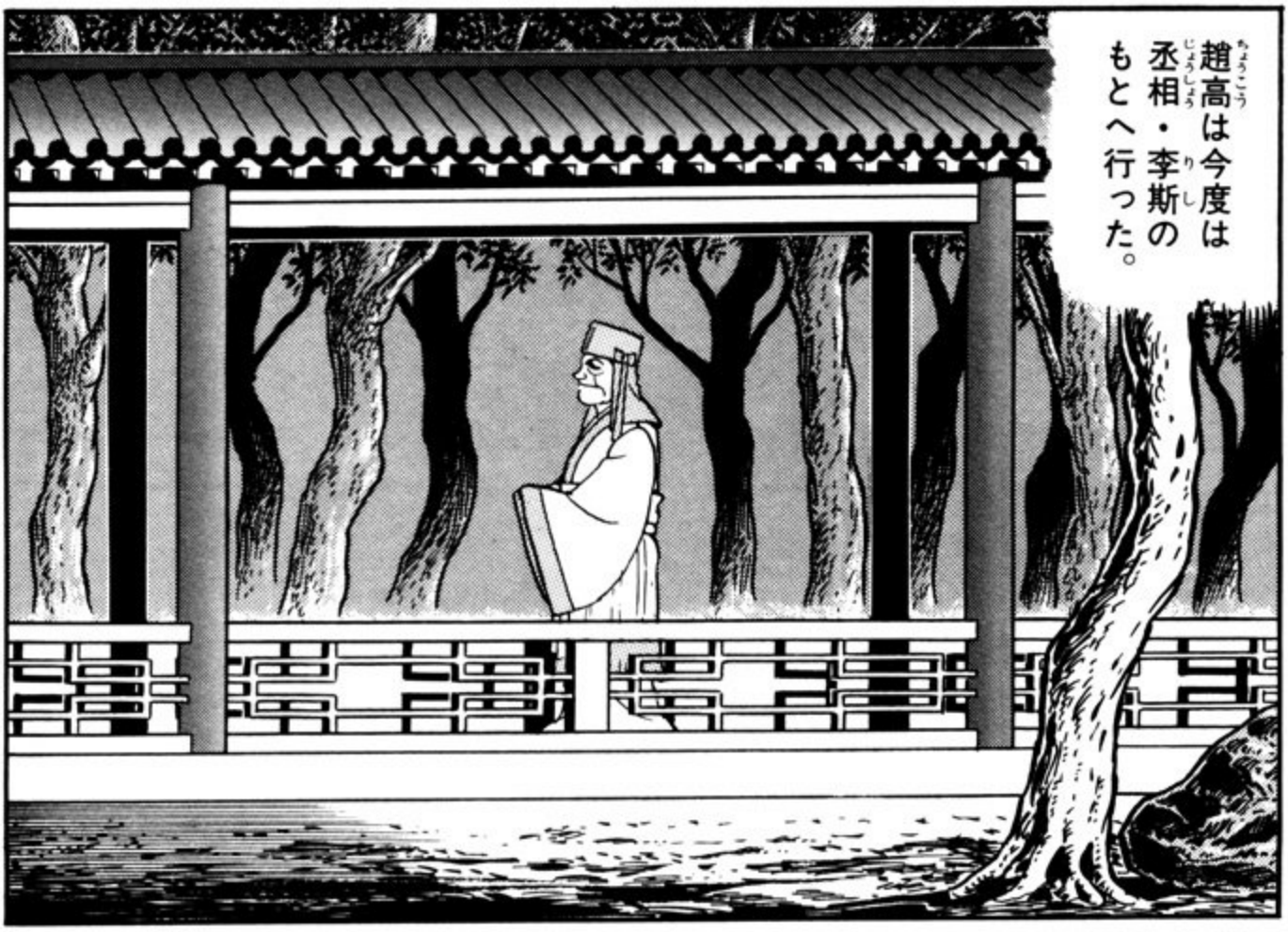
胡亥さま、よく考えてくださりませ。この扶蘇さまへの遺言書の存在はわたししか知りませぬ。焼き捨てればあとは誰が喪主になってもいいのです。
趙高、そなたは、何が言いたいのだ。
あなたさまに喪主になってくださいと言ってるのです。
そんなことは出来ぬ。兄をしりぞけて弟が立つ……父の遺言を無視して帝位につくなど天下が認めぬ。
殷の湯王は夏を亡ぼし周の武王はその殷を亡ぼしました。いずれも君主を殺しましたが、天下は義として称賛いたしましたぞ。大事をなすのに小事にこだわってはなりませぬ。
56
いま天下の実権を握るのも失うのも胡亥さまとわたくしそして丞相さまの三人の考え次第なのです。皇帝になって天下の人をひざまずかせるか、あてがい扶持で暮らすかその生き方は天と地の差がございます。
しかしそのようなことを丞相が認めるとは思えぬ。

それがしが、丞相をこれから説き伏せてまいります。

よいですか、小事にこだわって大事を忘れればのちに必ず害があり、ぐずぐずしていてはあとに後悔が残るだけですぞ。

丞相が認めれば帝位におつきになりますね。
そなたはわが師だ。いう通りにいたそう。

57


趙高は今度は丞相・李斯のもとへ行った。

陛下崩御のさい、扶蘇さまに葬儀をとりおこなうようにとの書簡を渡されました。しかしそれはまだ手許にございます。

おお、そのようなものがあったのか、それでは二世皇帝は扶蘇さまじゃ。

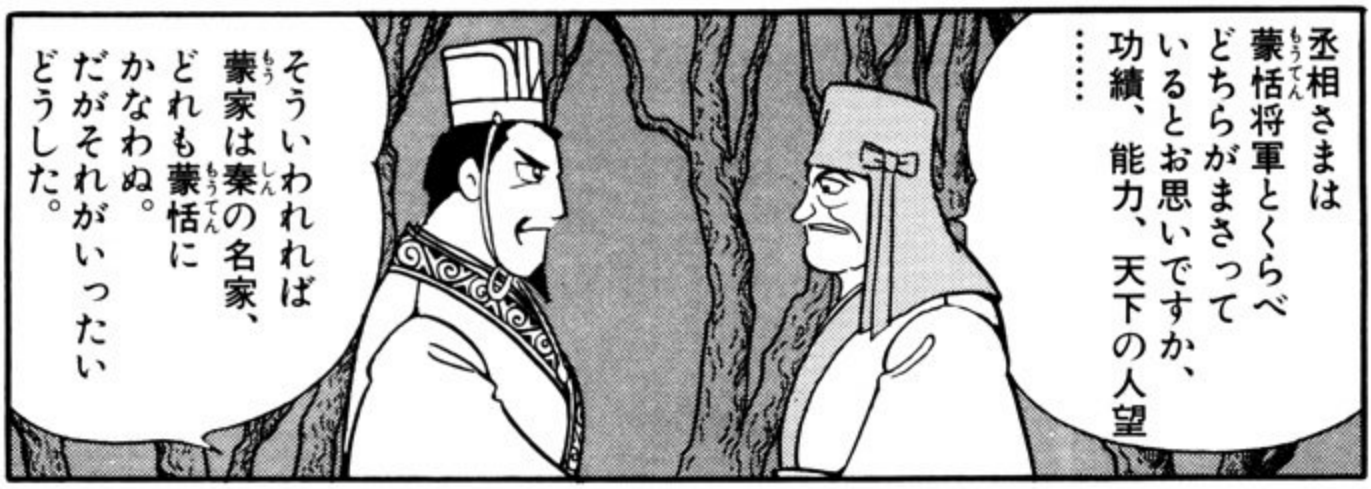
しかし、始皇帝の崩御はまだ誰も知りませぬし、書簡も玉璽も胡亥さまがおさえていられます。

ということはあなたとわたし次第で大事が決まるというわけです。

58

なにを申す、そのようなこと臣下が口にすることではない！

しかし扶蘇さまが皇帝になるか胡亥さまが皇帝になるかであなたさまの運命も大きく変わります。


丞相さまは蒙恬将軍とくらべどちらがまさっているとお思いですか、功績、能力、天下の人望……
そういわれれば蒙家は秦の名家、どれも蒙恬にかなわぬ。だがそれがいったいどうした。

もし扶蘇さまが皇帝になられたら丞相は蒙恬でございましょう。
それはそれでよいではないか。

あなたは扶蘇さまに恨まれることをなさっています。

あなたは公子を各地の王に封じることに反対なされ、禄を与えるだけの平民としました。また「焚書」を進言し儒者を弾圧させました。

扶蘇さまはこれを諫めて陛下の怒りをかい北方へ追放されたのです。扶蘇さまが皇帝となられてそれを許すでしょうか。
あれは周王朝の末路を見て同じ過ちを二度とくり返してはならぬと秦皇室の安泰を考えてやったこと。それが罪といわれるならばそれも仕方がない。

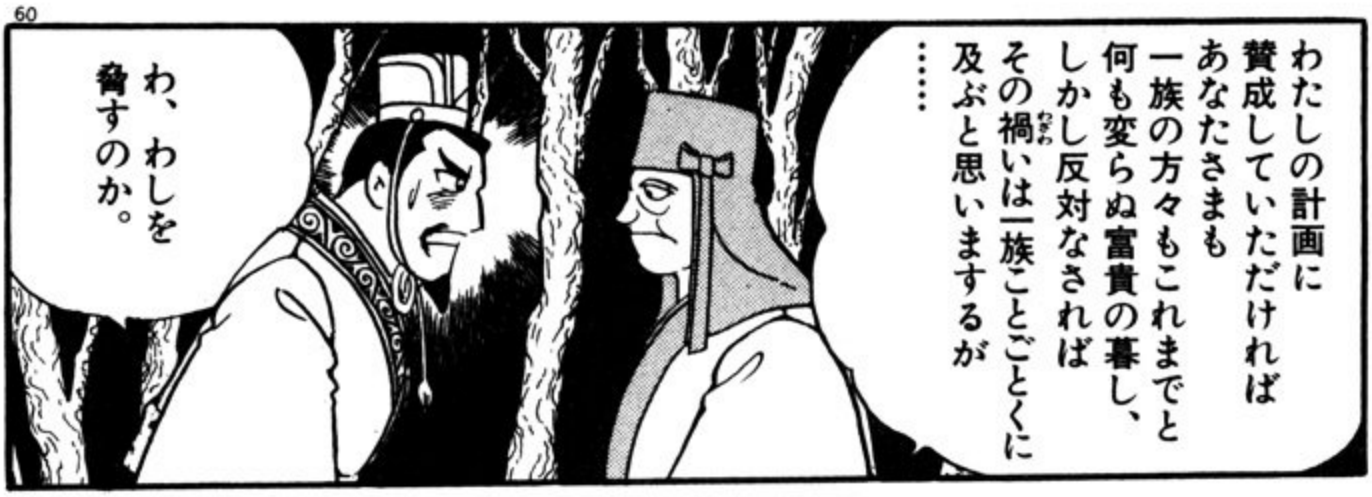
忠臣とは命を賭けて君に仕えるもの、わしは陛下の遺言を守り、あとは天命を待つのみじゃ。

天命ですと、学者らしくないことをおっしゃられます。

世の中は人間が変えるものなのです。安泰な時は危険に備え、危険な時には安全な道を選ぶ、それが人間ではありませぬか。

あなたさまは臣下としては位をきわめ右に出るものはおりませぬ。娘御さまも何人も公子に嫁ぎ、隠然たる勢力を持っております。もし扶蘇さまがあなたさまを罪ありとしたらあなたさま一人ですみますか。

秦の法では罪は一族にもおよぶことはあなたさまが一番ご存じのはず。
ムムム。


わたしの計画に賛成していただければあなたさまも一族の方々もこれまでと何も変らぬ富貴の暮し、しかし反対なされば その禍いは一族ことごとくに及ぶと思いまするが……
わ、わしを脅すのか。

脅しているのではありませぬ。末路をお教えしているのです。賢者は禍いを転じて福となすもの……あなたさまはどちらをお望みなのです。
ムムム……

わ、わかった協力しよう。

では二世皇帝は胡亥さまということで……

61

李斯は趙高のこの脅しに屈したのである。思わず天を仰いで涙した。
わ、わしはこれから逆臣の道を歩むのか。

こうして始皇帝の
死はかくされ、
巡幸は続けられた。

62

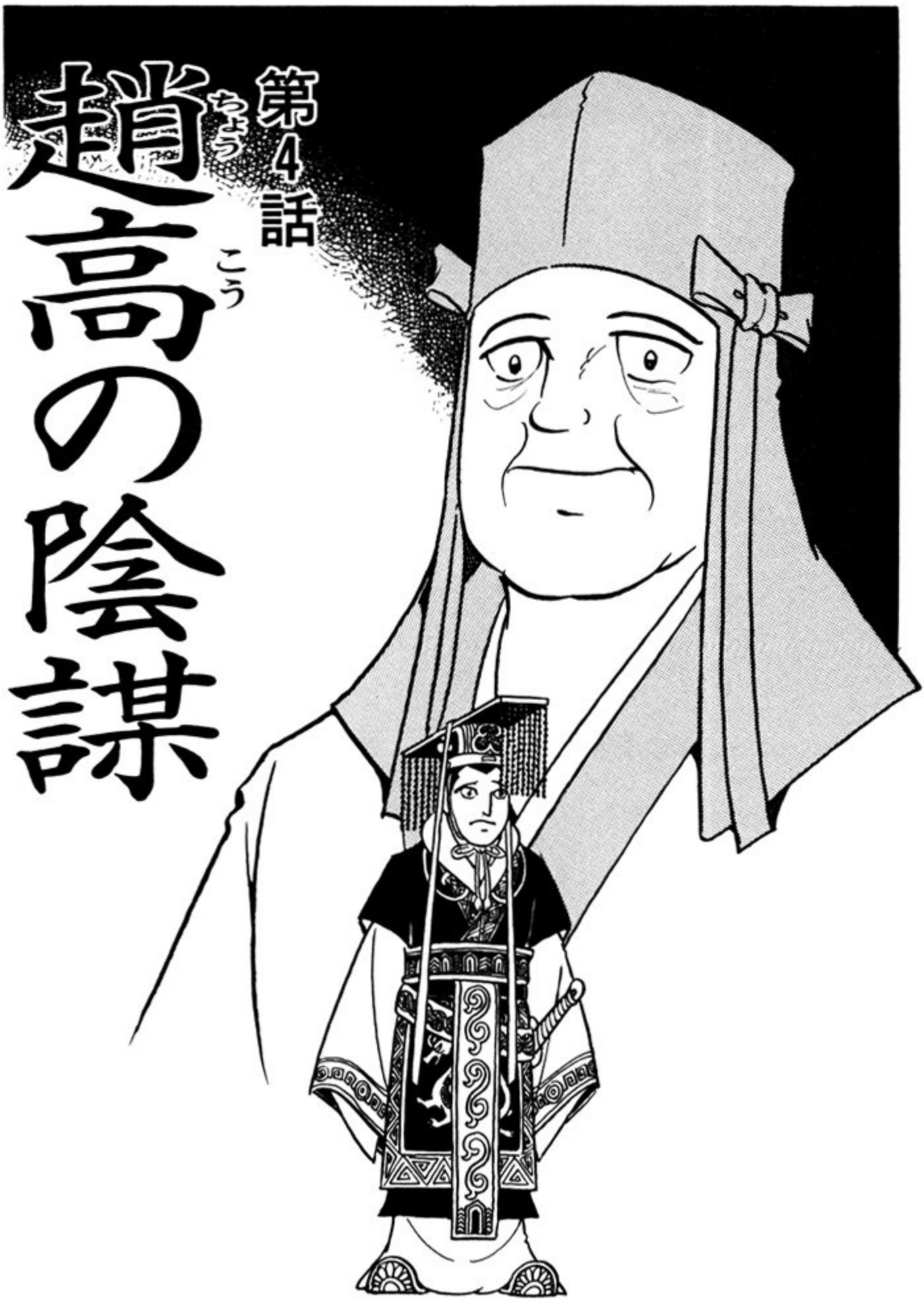
しかし真夏のことである。死体の腐りが早く、轀涼車から死臭がただよいだした。

63

趙高は皇帝の命令と称して車ごとに魚の干物一石(三十キロ)を積ませ、死臭をごまかしたのである。

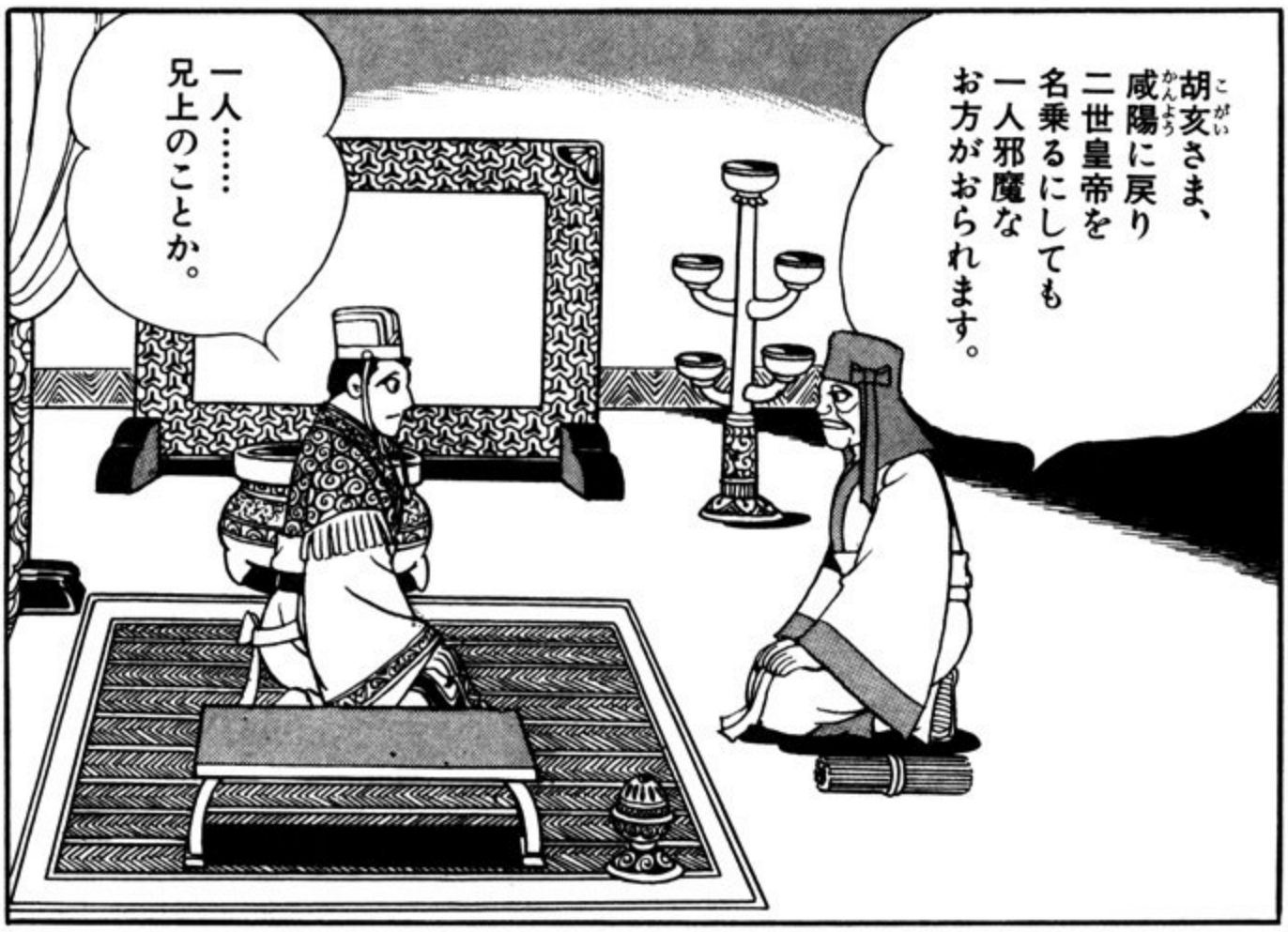
長寿を願望しつづけた
始皇帝であるが、
その望みかなわず
四十九歳で生涯をとじた。
だがその死は秘密にされ、
陰謀をはらんだまま
巡幸は整然と
予定通りにすすめられて
いったのである。

64



第4話 趙高の陰謀

始皇帝の死は
秘められたまま、
巡幸はつづけられた。
その死を知っている者は
丞相の李斯、
宦官の趙高、
そして始皇帝の末子
胡亥と、四、五人の
宦官だけであった。


胡亥さま、咸陽に戻り二世皇帝を名乗るにしても一人邪魔なお方がおられます。
一人……兄上のことか。

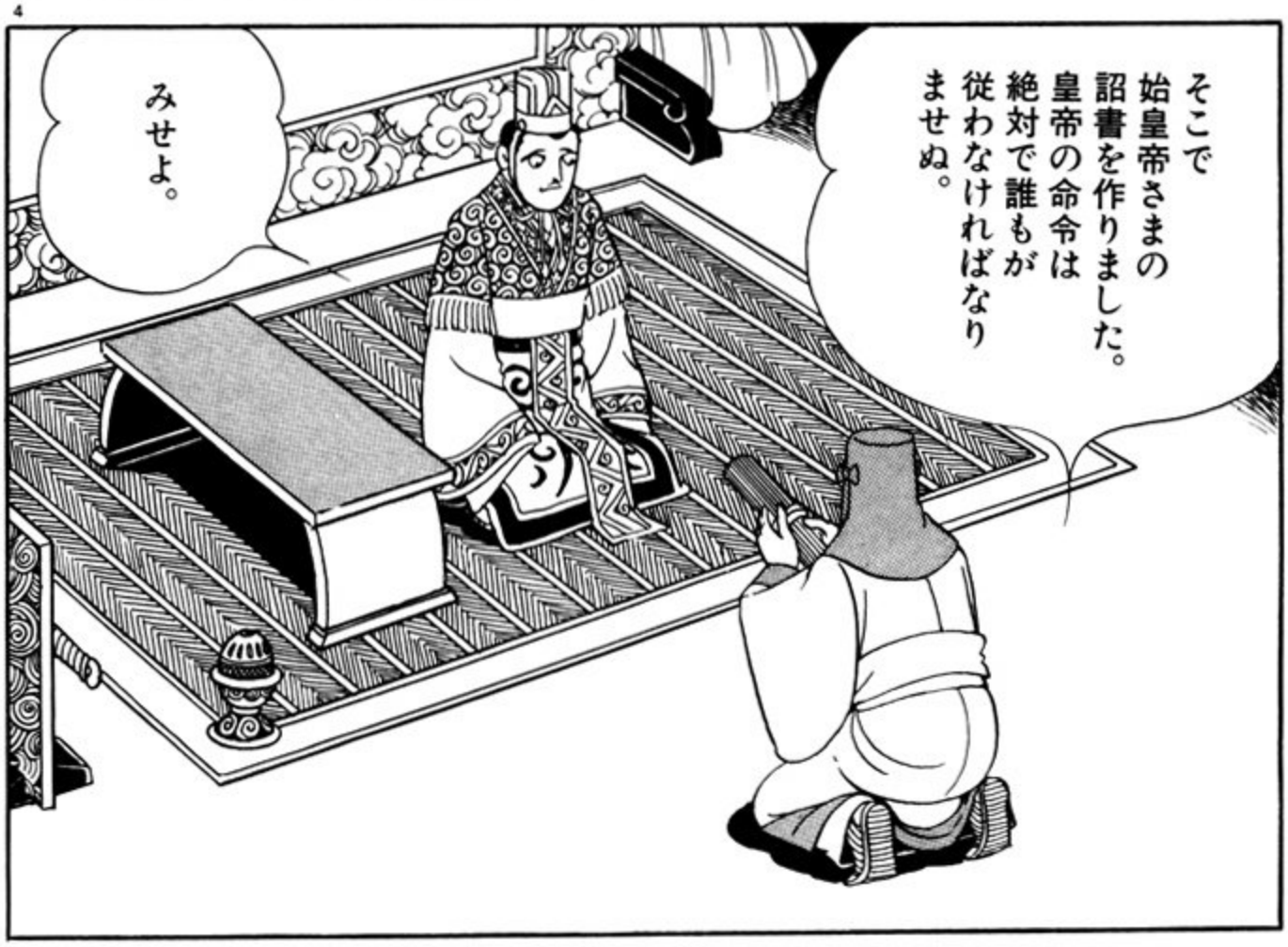
3

はい、扶蘇さまは人望もあり、後楯に蒙恬将軍がついております。蒙恬将軍は今北方で三十万人の軍勢を持っております。三十万といえば戦国時代の一国の軍勢でございます。

咸陽に帰られ
いきなり二世皇帝を
名乗られても、
はたして扶蘇さまや
蒙恬将軍が納得
されますかどうか
……
では
どうせよと
いうのじゃ。

いまのうちに
扶蘇さまには
死んでいただき、
秦の名家・蒙一族も
処刑し力を削いで
おかなければ
内乱のおそれがございます。
せっかく天下を統一
したのに、秦で
お家騒動が起これば
諸国の残党や
不平分子が喜んで
反乱を起こしましょう。

4


そこで
始皇帝さまの
詔書を作りました。
皇帝の命令は
絶対で誰もが
従わなければなり
ませぬ。
みせよ。

朕　天下を巡り
名山諸神を祀り
長寿を祈願している。
しかるに扶蘇ならびに
蒙恬将軍は数十万の兵を
ひきいて北方に駐屯
すること十有余年、
その間、一尺(約30センチ)の
領土を拡大することもなく
いたずらに兵を失い、
なんの功績も
あげておらぬ。

そればかりか
朕が為す政治を
誹謗し、都に帰れぬこと
太子になれぬことを
怨んでいるという。
なんじ扶蘇は人の子と
しても不届き者である。
ここに下賜する剣を
もって自決せよ。

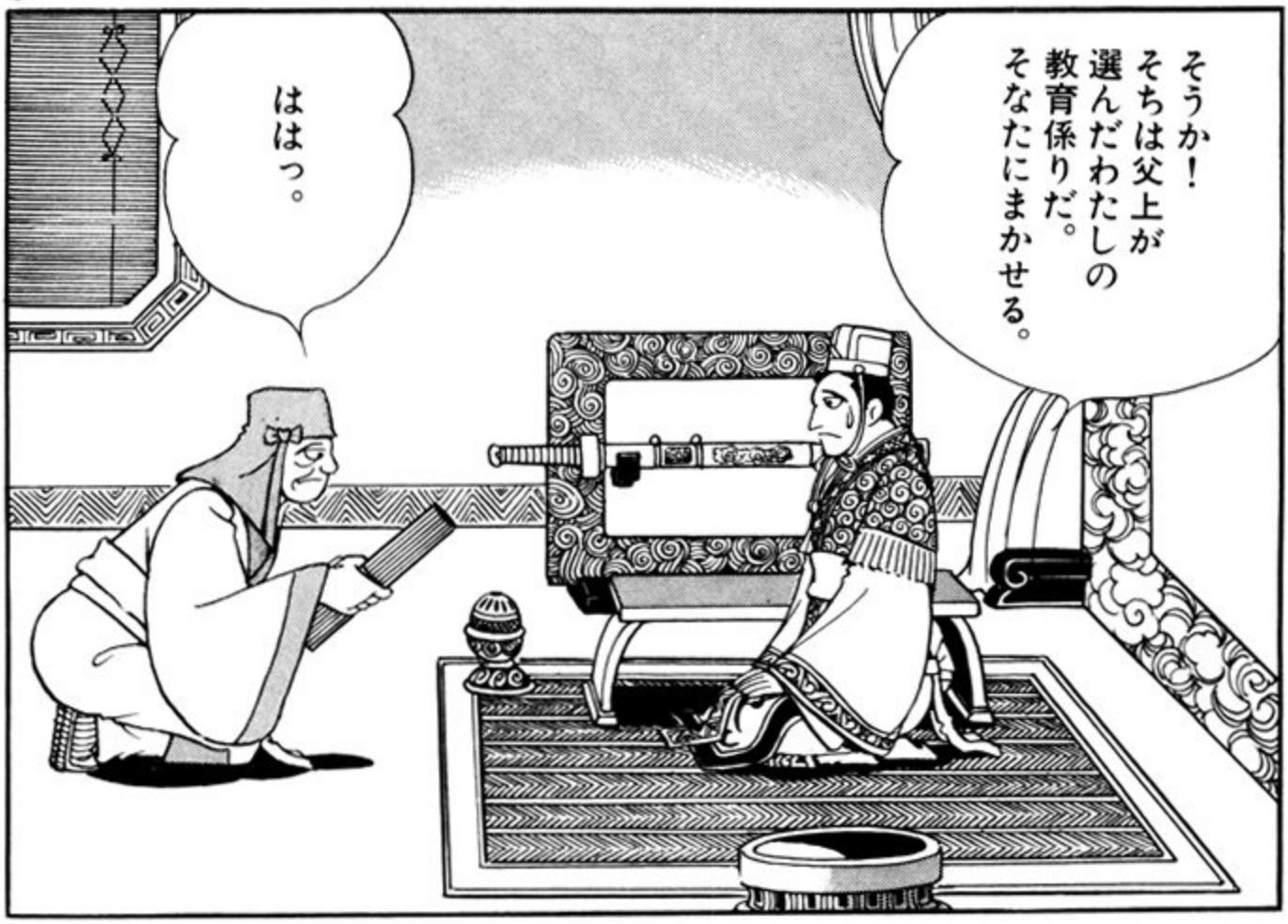
5

こ、これを
兄上に渡すのか。

すべて内乱を
防ぐため、
秦安泰のためと
お考え下さりませ。

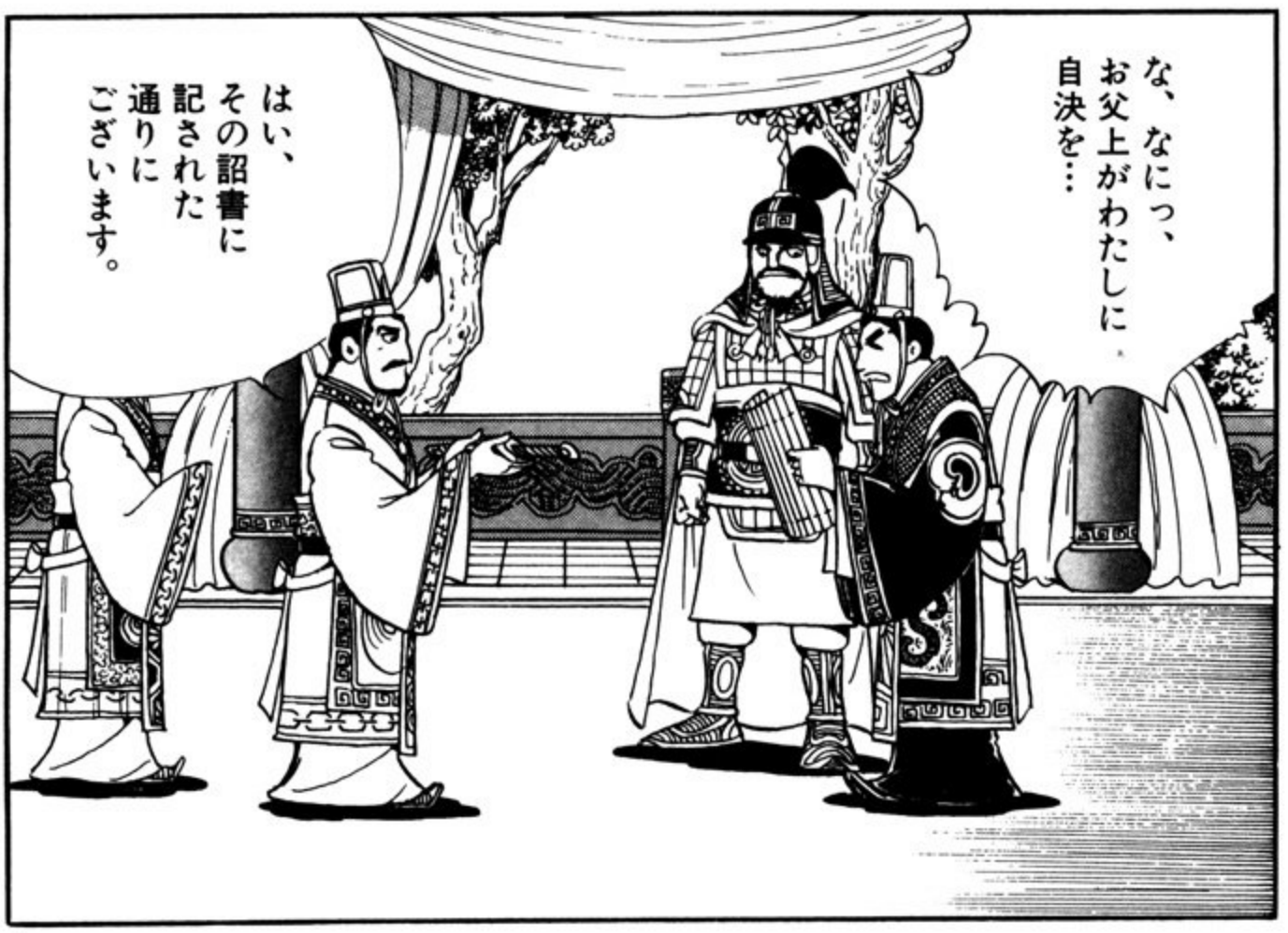
しかし兄上が
この詔書を
信じると思うか。
文字からも
真贋を気づく
であろう。
ご心配なされ
まするな。
陛下がご病気の時
それがしがたびたび
代筆いたしました。
文字はそっくりです。

6


そうか！
そちは父上が
選んだわたしの
教育係りだ。
そなたにまかせる。
ははっ。

こうして始皇帝の偽(にせ)の詔書を持った使者が扶蘇のもとへ出向いた。

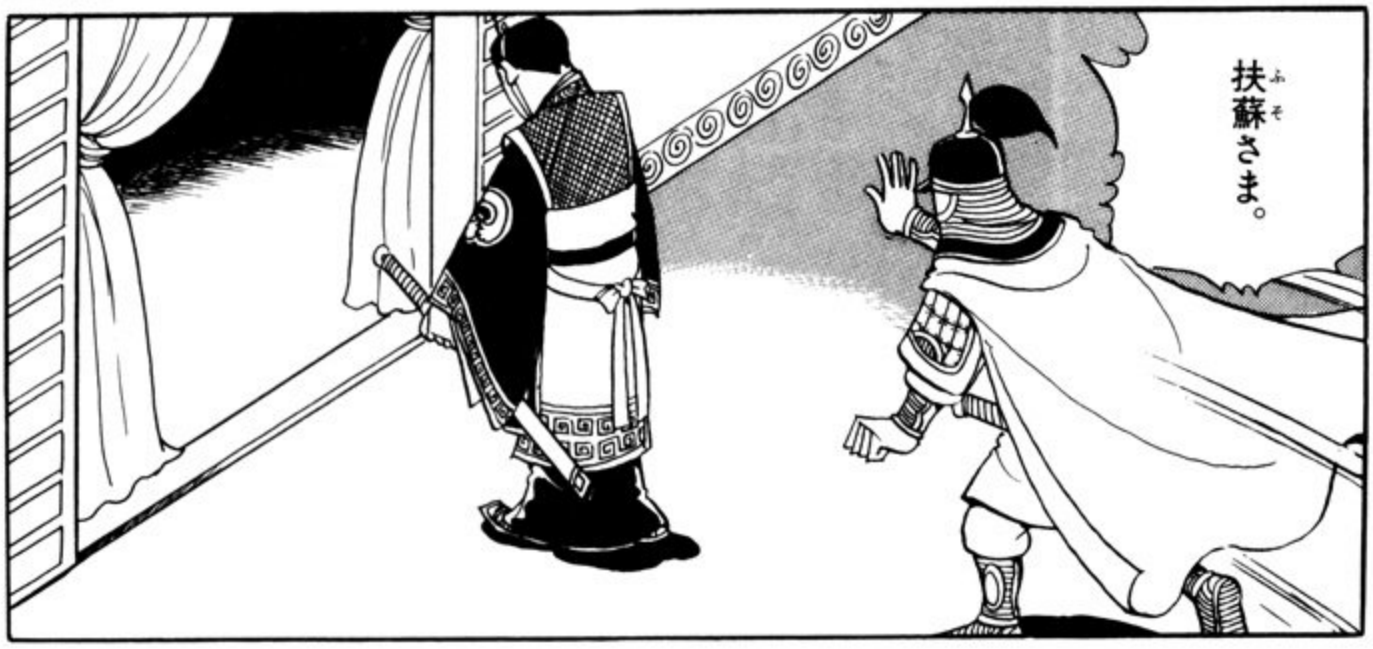
7


な、なにっ、お父上がわたしに自決を…
はい、その詔書に記された通りにございます。

8

わかりました、ご命令にしたがいます。

お父上はわたしがお諫めしたことをまだお怒りになっておられるのか。


扶蘇さま。

扶蘇さま、おやめ下さい。
なぜとめる、お父上の命令は絶対だ。

9

しかし解せぬことが多すぎます。
解せぬこと…？

今 陛下はご巡幸中でございます。

諸神に長寿を祈願しながら自分の息子の死を考えるでしょうか。もしそういう気持ちがあったとしても咸陽に帰ってから決めるはず。

それに、それがしは三十万の兵をあずかっております。その監督にあなた様を寄こされたということは陛下は扶蘇さまを信頼なされていればこそだと思いますよ。
では詔書はなんじゃ？

だから解せぬと申しております。使者がきたからといってすぐに自決していいものでしょうか。あの使者が偽者だったら早まったことになります。

どうか一度陛下にお目通り願い、釈明なさってくださいませ。それで駄目ならばその時お考え下さりませ。

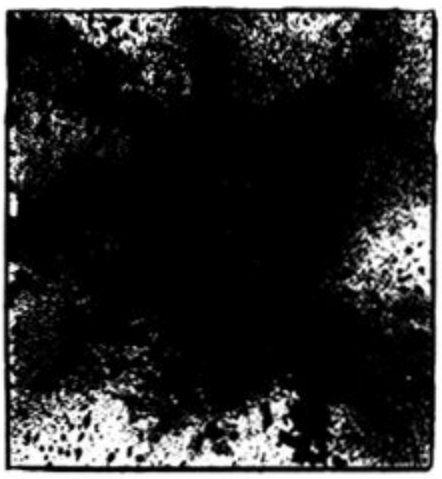
10

ふむう。

扶蘇さま、
いかがなされました。
それがしはこの目で
その死を確認する
よう命じられて
おりまする。

ご使者どの、
扶蘇さまには
一度くらい
釈明の機会が
あってもよいはず。
陛下にお目通りを
願いでます。
なにを
申されます。
陛下のご命令は
絶対である。
この詔書を
無視なされる
おつもりか。

11



……

ああっ、
扶蘇さま。

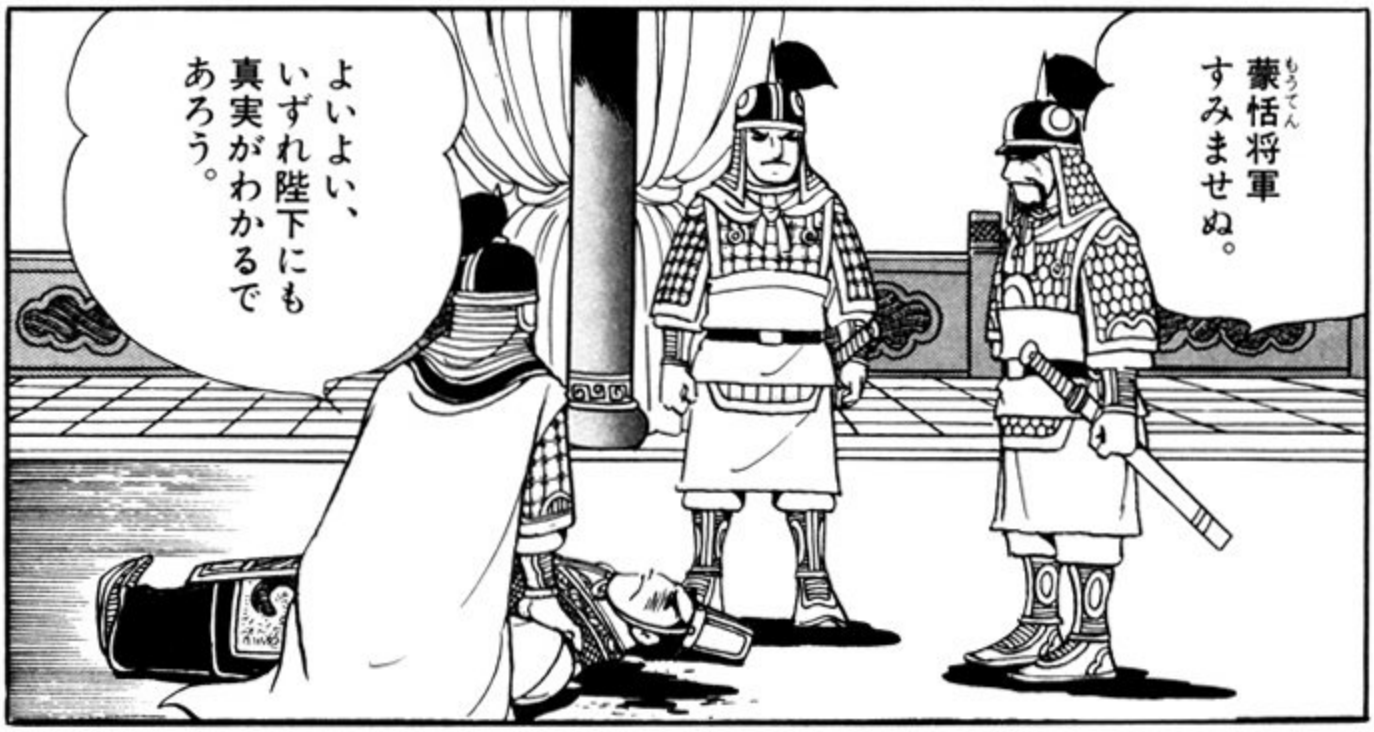
なんて
早まった
ことを。
蒙恬将軍よ、
我が子に死を
賜うとは
よくよくのことだ。
助命を願うより
いさぎよく死を選ぶ。

12

扶蘇さま。

蒙恬将軍、
あなたにも
調べが終るまで
入牢して
いただく。

蒙恬将軍を捕えい、陛下の命に逆らえばそちたちにも罪が及ぶぞ。


蒙恬将軍すみませぬ。
よいよい、いずれ陛下にも真実がわかるであろう。

13

こうして蒙恬将軍も投獄された。趙高の陰謀は着々とすすんだ。

始皇帝の棺は
咸陽に帰った。

14

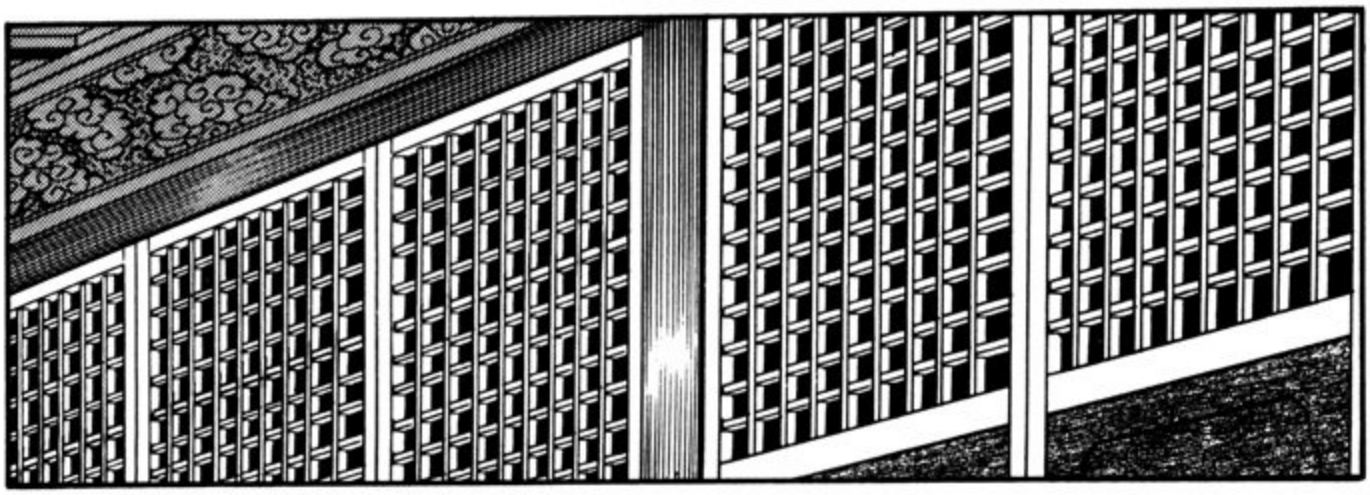
そこではじめて
逝去が発表された。

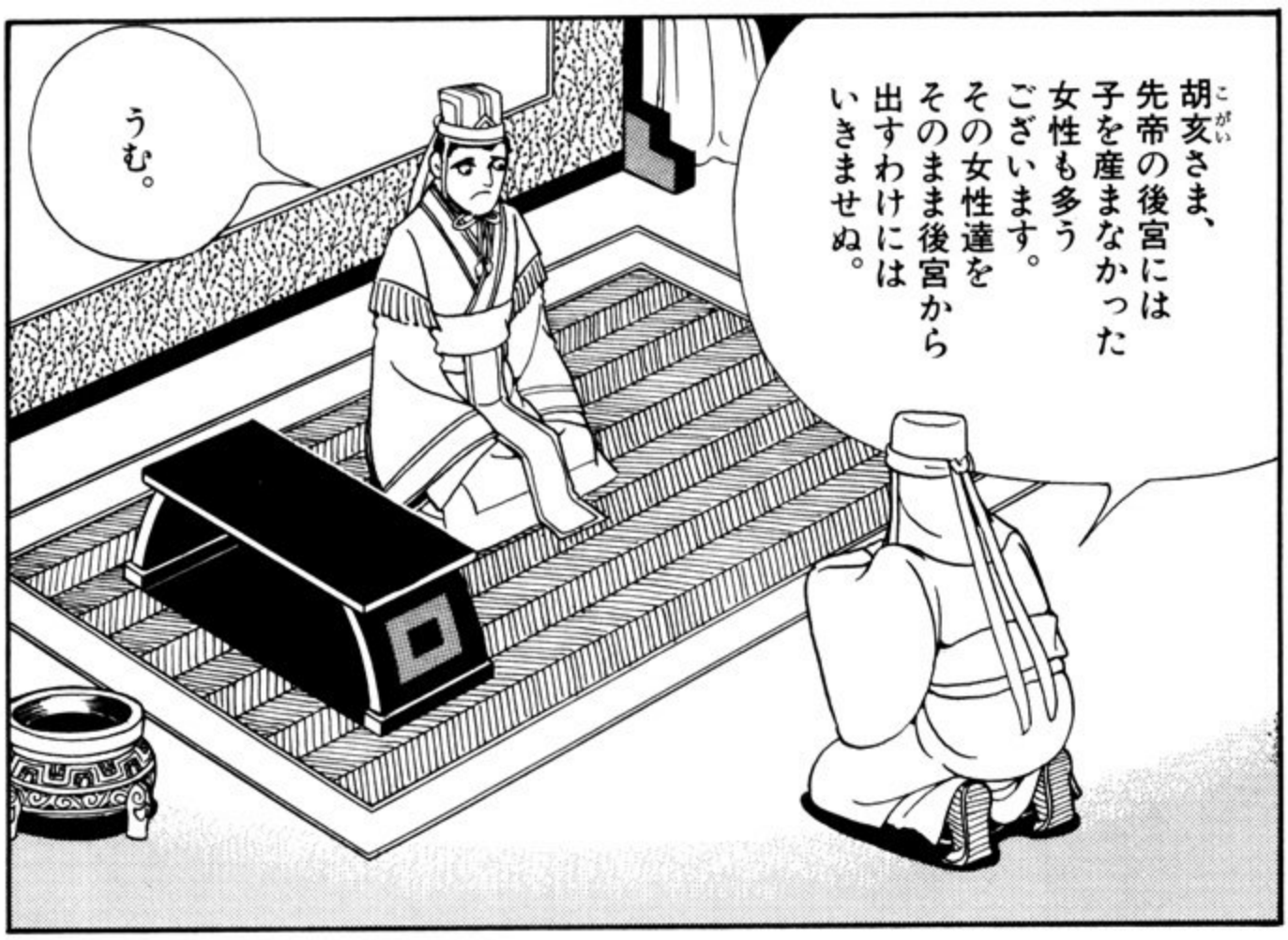
始皇帝さまは、胡亥さまと宰相李斯さまそれがし三人を枕元に召し出され、胡亥さまに喪主をつとめるようご遺言なされました。

たしかに陛下はそのようにご遺言なされた。

15

天下統一の功労者でもある李斯の言葉は重みがあった。誰も異議を唱える者はいなかった。




胡亥さま、先帝の後宮には子を産まなかった女性も多うございます。その女性達をそのまま後宮から出すわけにはいきませぬ。
うむ。

16

よってこの女性達は皇帝と共に地下宮殿で殉死してもらいます。

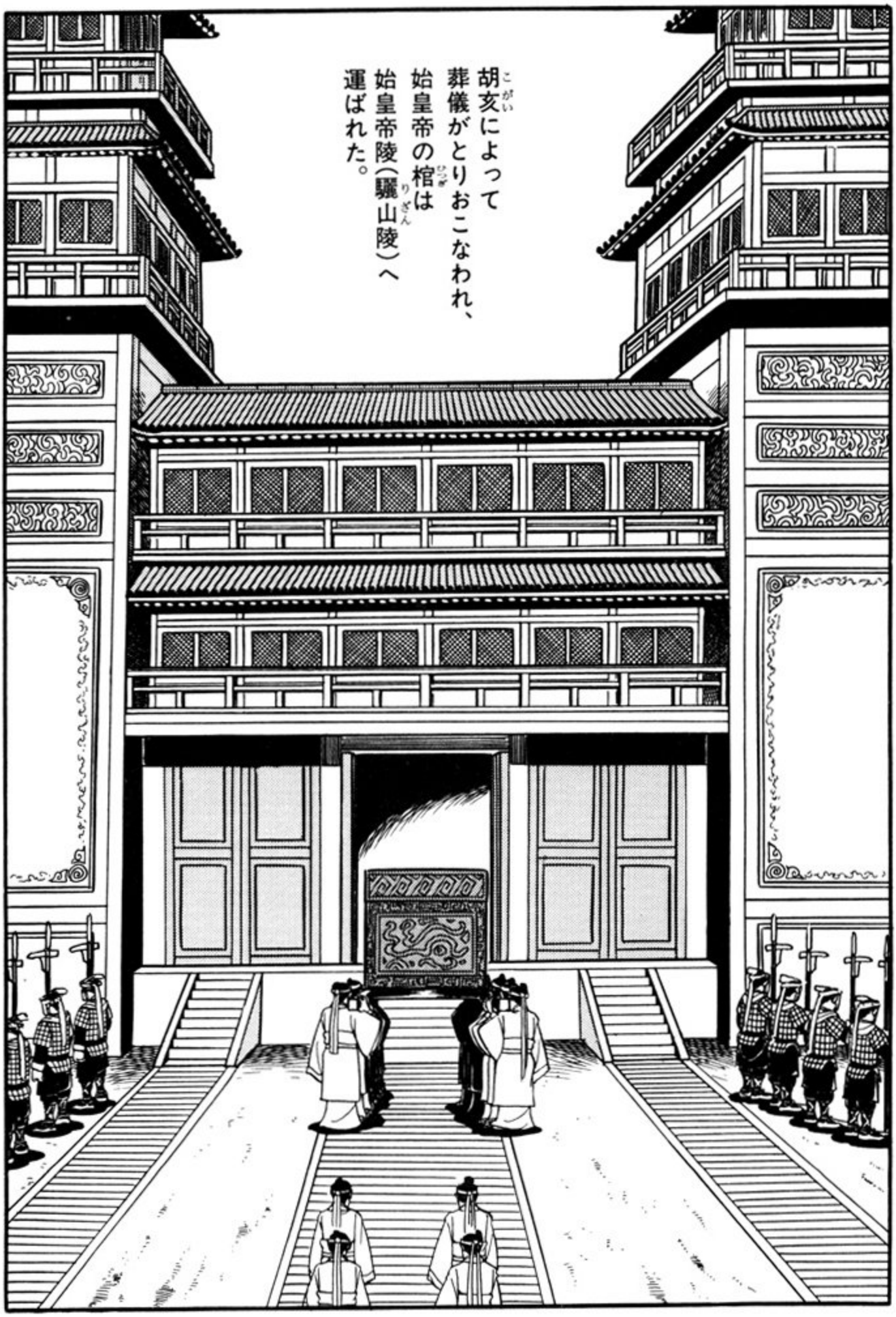
うむ。

それから地下宮殿の盗掘を防ぐためにいろんな仕掛けをいたしましたが、その仕掛が世間にもれては一大事。かかわった工匠たちも殉死させまする。

うむ。

17

地下宮殿には始皇帝の集めた巨万の金銀財宝も埋葬されることになっていたのである。



18

その棺のあとを、生き埋めにされるとは知らず後宮の女性達がつづいた。

19

地下宮殿は三つの地下水脈を貫くほど深く掘られ、そこに作られた。

棺の安置場所は
咸陽宮の宮殿を
再現した玄宮である。

20

諸宮の席や、
水銀の川や海まで作られ、
玄宮のまわりには
迷路のように
幾重にも回廊が
めぐらされていた。

地下の宮殿が
完成するとその上に
土を盛り山を
築いたのである。

21

後宮の女性達は
始皇帝を
見送るため
地下深くまで
供をした。

そして
地下宮殿から
出ようとした時
……

まず墓道の
中間の扉が閉じられ、

22

そして
外の門が
しめられた。

女性達は地下に閉じこめられてしまった。

キャア

ひーっ

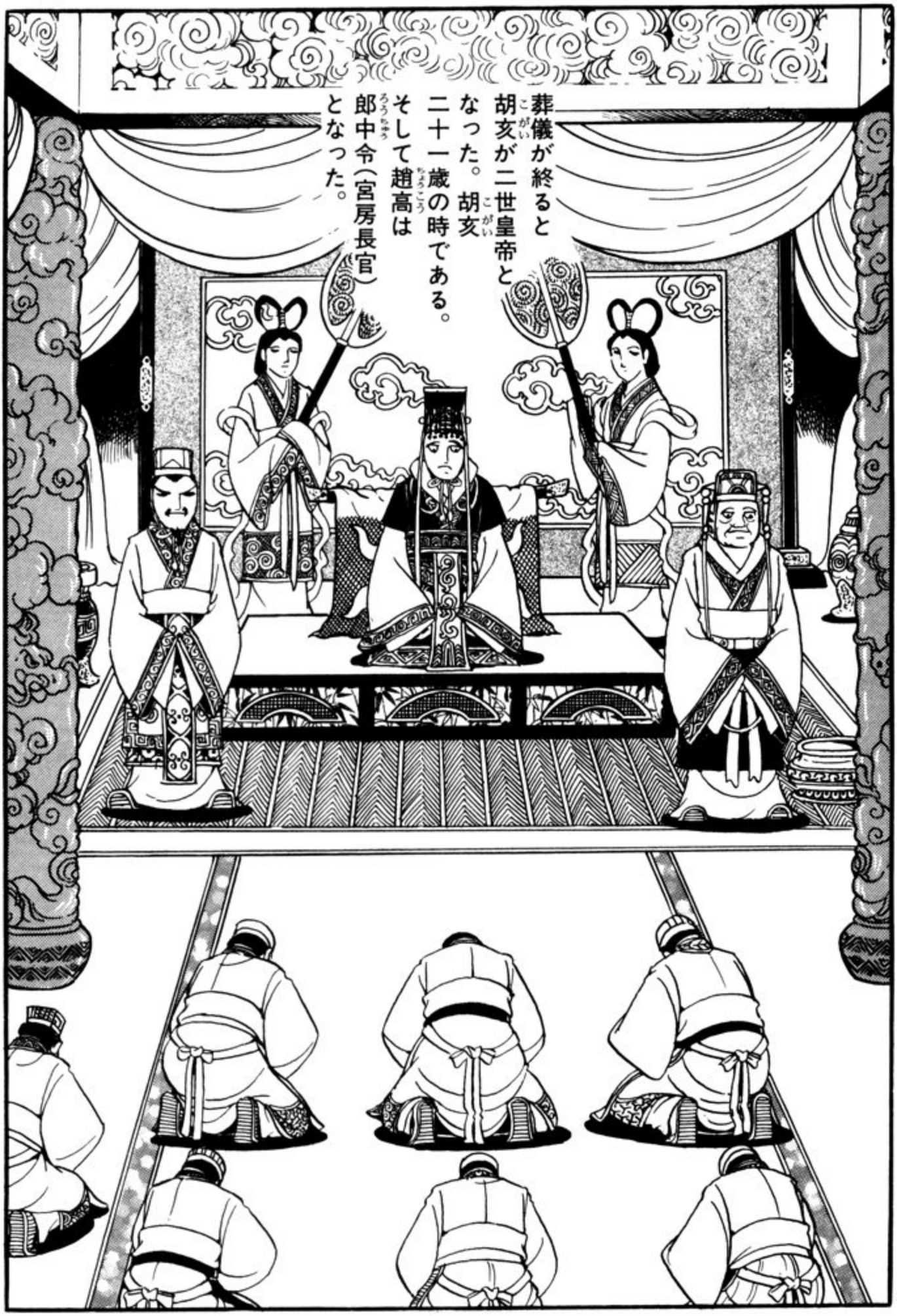
23

また盗掘防止の仕掛けを作った工匠たちも、別の場所で同じように生き埋めとされた。

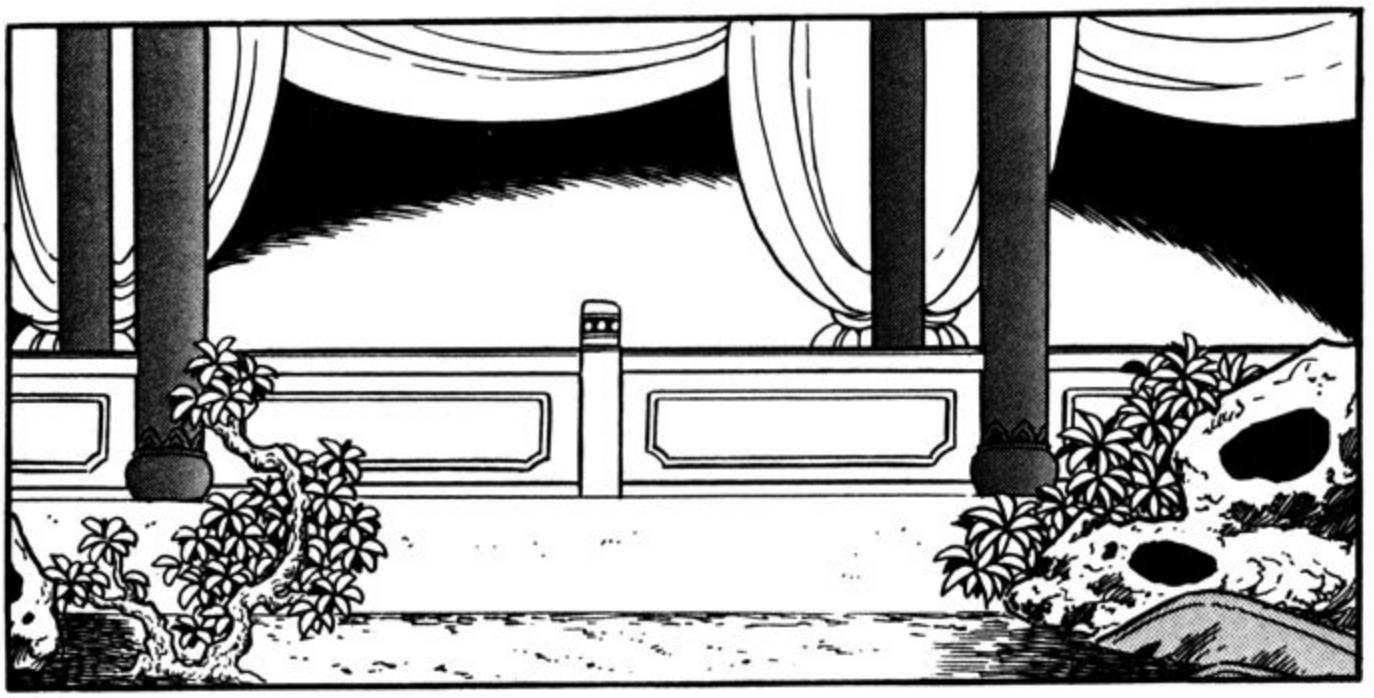
山には草や
木が植えられ
……

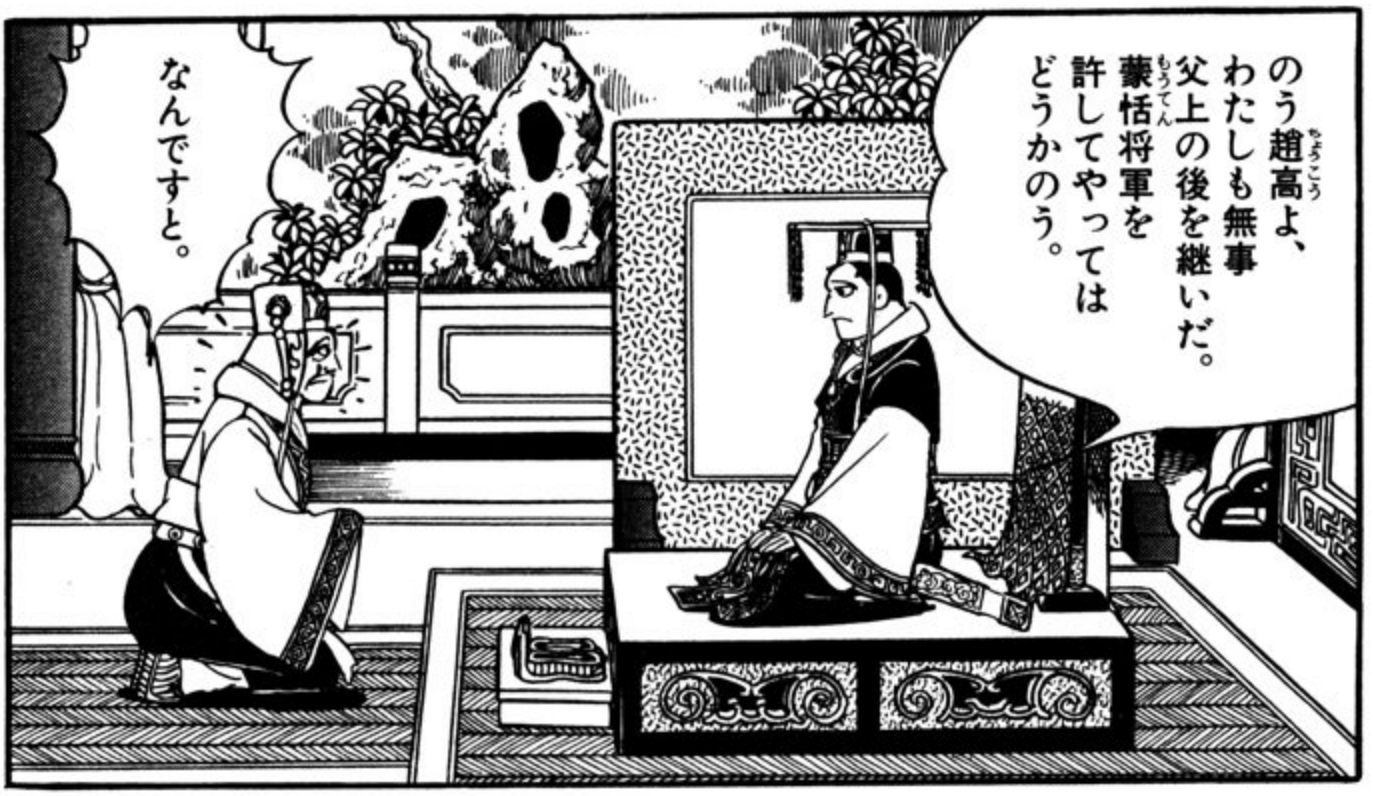
24

出入口はまったく
わからぬように
してしまった。



25




のう趙高よ、わたしも無事父上の後を継いだ。蒙恬将軍を許してやってはどうかのう。
なんですと。

26

だから許してやろうというのだ。

陛下、蒙恬は名将ですぞ。

陛下、考えが甘うございます。

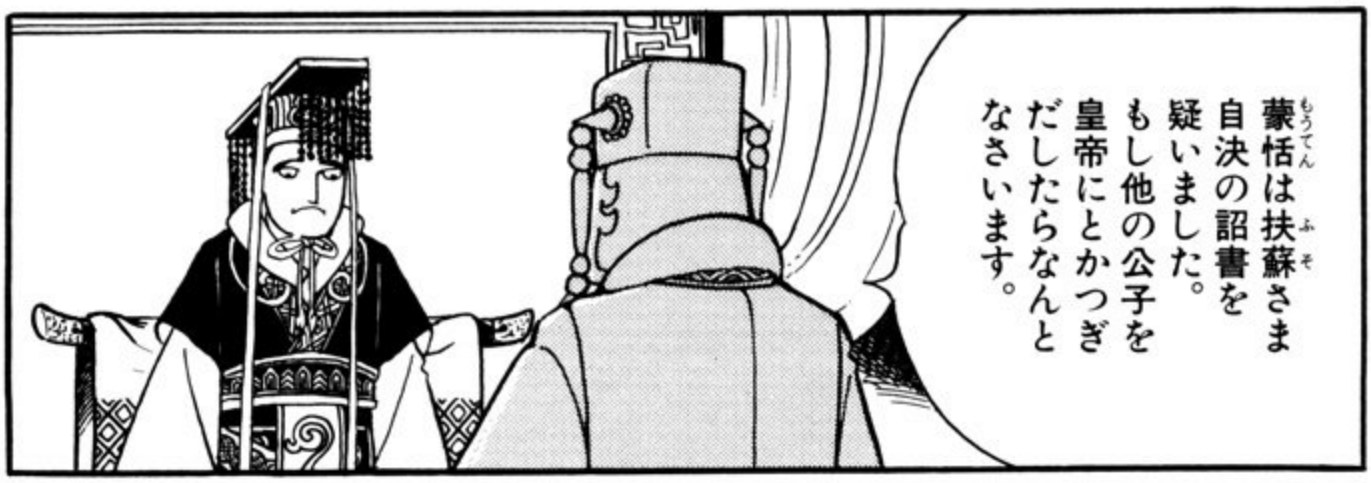
?

確かに蒙恬が後楯となっていた扶蘇さまは亡くなられました。しかし先帝のお子は二十余人おりまする。蒙恬がその公子の誰かの後楯となったらなんとなさいます。

そのような者を許すなど虎を野に放つようなものでございます。

しかし蒙恬は秦代々の忠臣だ。朕を裏切るとは思えぬが……

27


蒙恬は扶蘇さま自決の詔書を疑いました。もし他の公子を皇帝にとかつぎだしたらなんとなさいます。

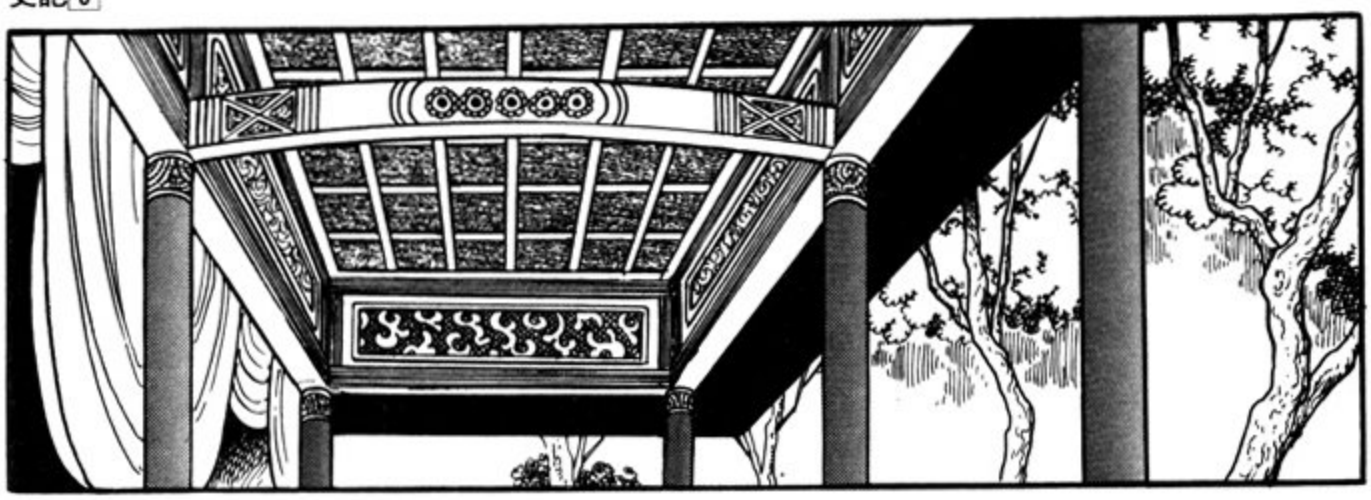
蒙恬は名将、そして代にいる弟の蒙毅大臣もなかなかの切れ者、この二人が陛下の後継に疑問を持って動いたら、どういうことになりましょう。

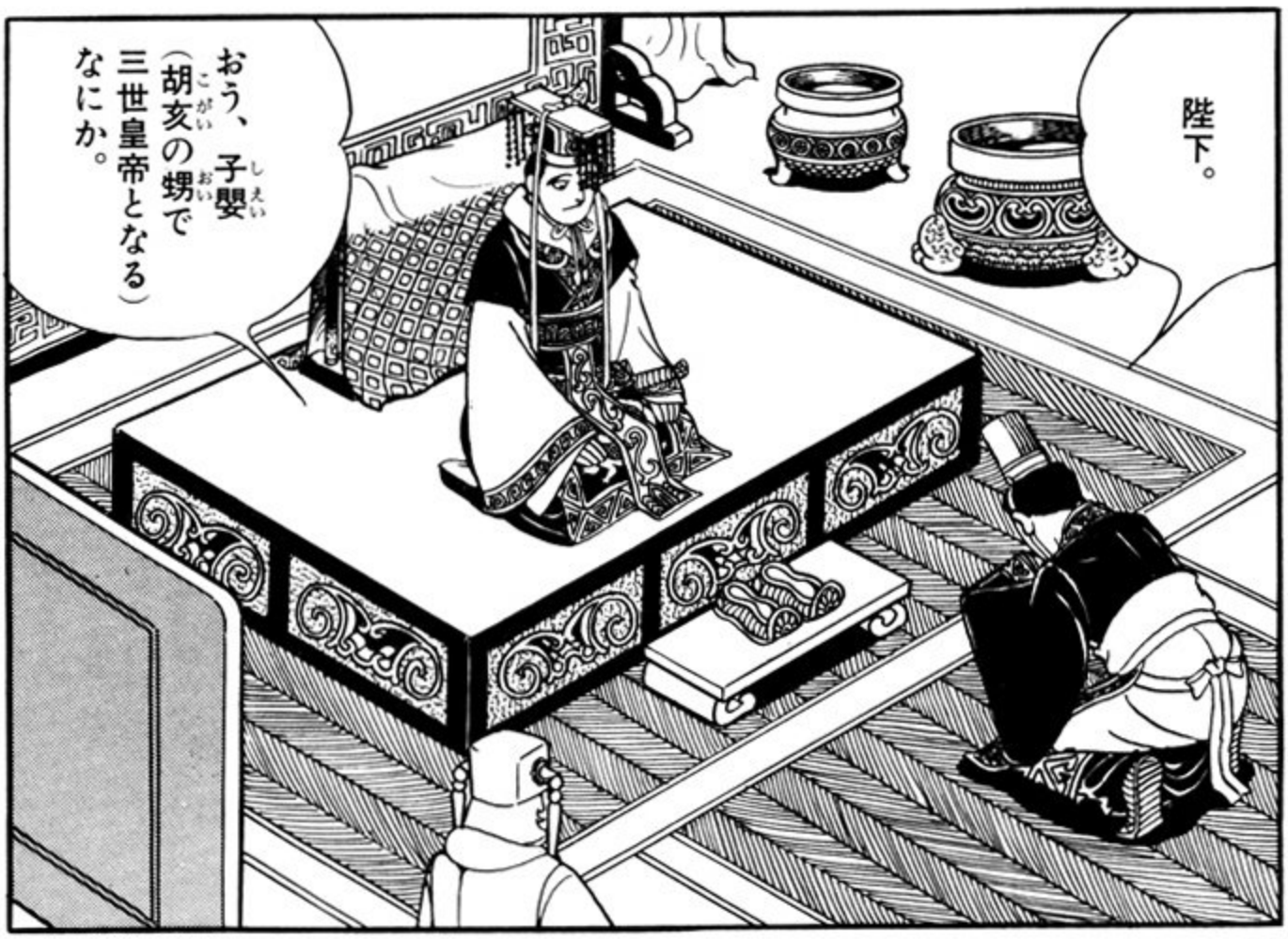
この二人はなんとしても取り除いておかねば陛下の地位は安泰とはいえませぬ。

そうか。

28

ふむう、胡亥さまがそのような気持ちを持たれるとは。蒙兄弟は早く始末したほうがよい。また誰か余計な入れ知恵をするかもしれぬからのう。




陛下。
おう、子嬰（しえい）
（胡亥（こがい）の甥（おい）で
三世皇帝となる）
なにか。

29

近頃
蒙一族に対する
中傷があまり
ひどいので
心を痛めて
おりまする。

よくお考え下さいませ。先帝が天下を統一する前趙王遷は優れた臣下李牧を殺し顔聚を重用いたしました。燕王喜は荊軻のはかりごとに加わり、秦との盟約を破りました。

斉王建は何代もつづいた忠臣を殺し、后勝の言葉におどらされました。この三人は今までのやり方を変えて国を失ったのです。

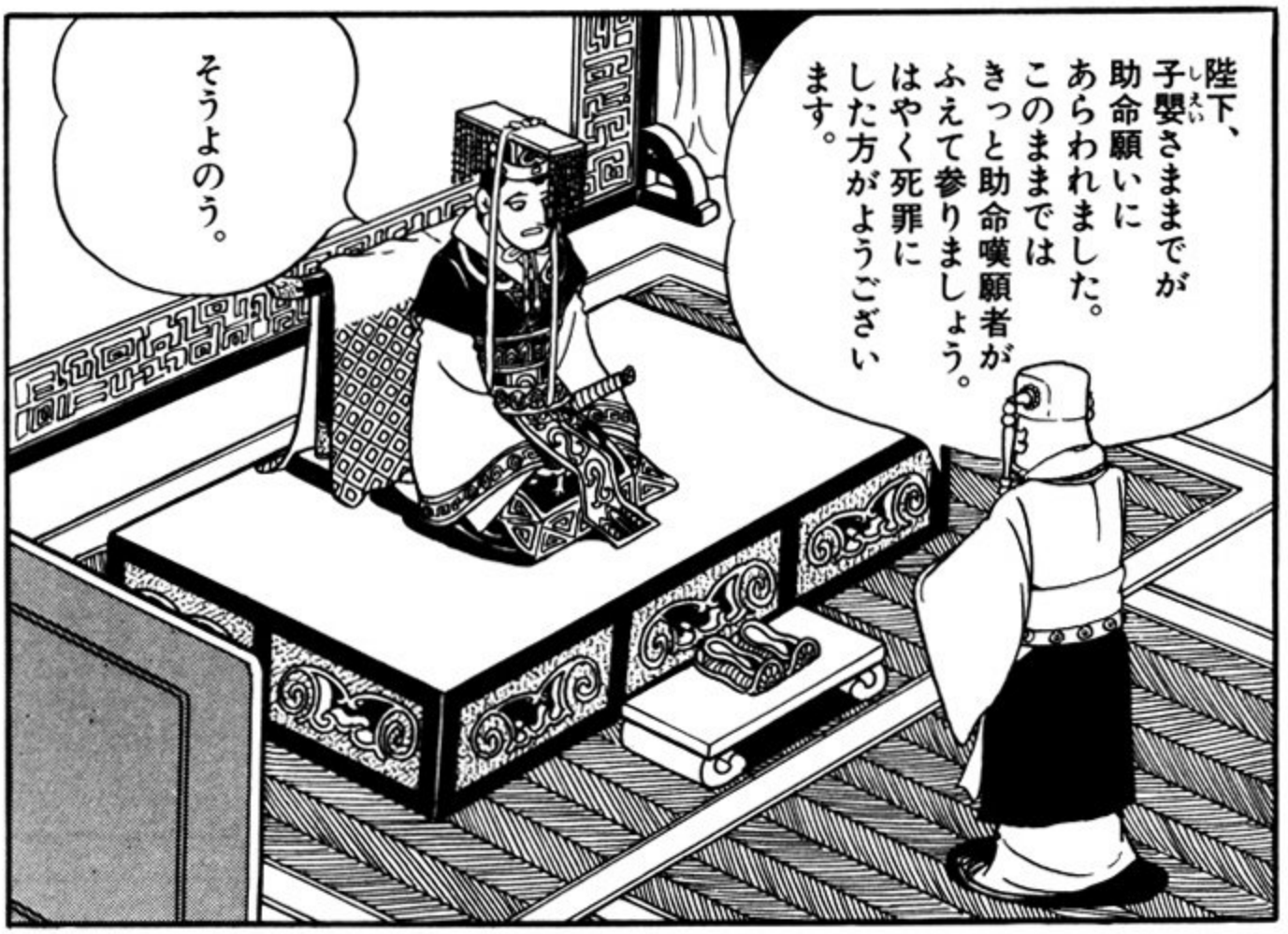
ところで蒙一族は秦の重臣であり、知勇兼備の士であります。陛下はその者達を見捨てられるお考えと聞きました。

「短慮では国は治まらず、ひとりの知恵では王座は続かず」と申します。この三国の前例をみてご再考くださいますよう。

子嬰よ、政治は難しいもの。朕は朕の考えでやる。口出し無用である。

30

はっ。


陛下、子嬰さまでが助命願いにあらわれました。このままではきっと助命嘆願者がふえて参りましょう。はやく死罪にした方がようございます。
そうよのう。

31

そこでまず、弟の蒙毅大臣を死罪としてその連座で蒙恬を死罪になさってはいかがでございます。
しかしどのような罪で死罪といたすのじゃ。

蒙毅大臣は先帝が
陛下を太子に立て
ようとなさった時
反対したのでございます。

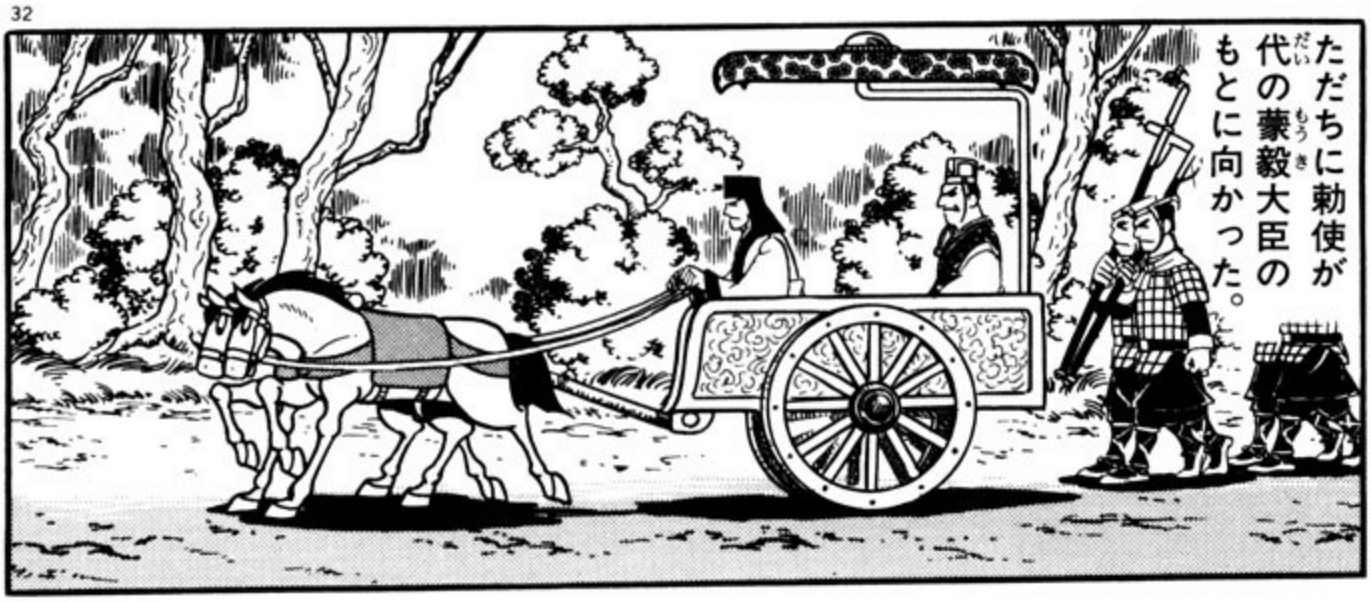
なにっ
まことか。

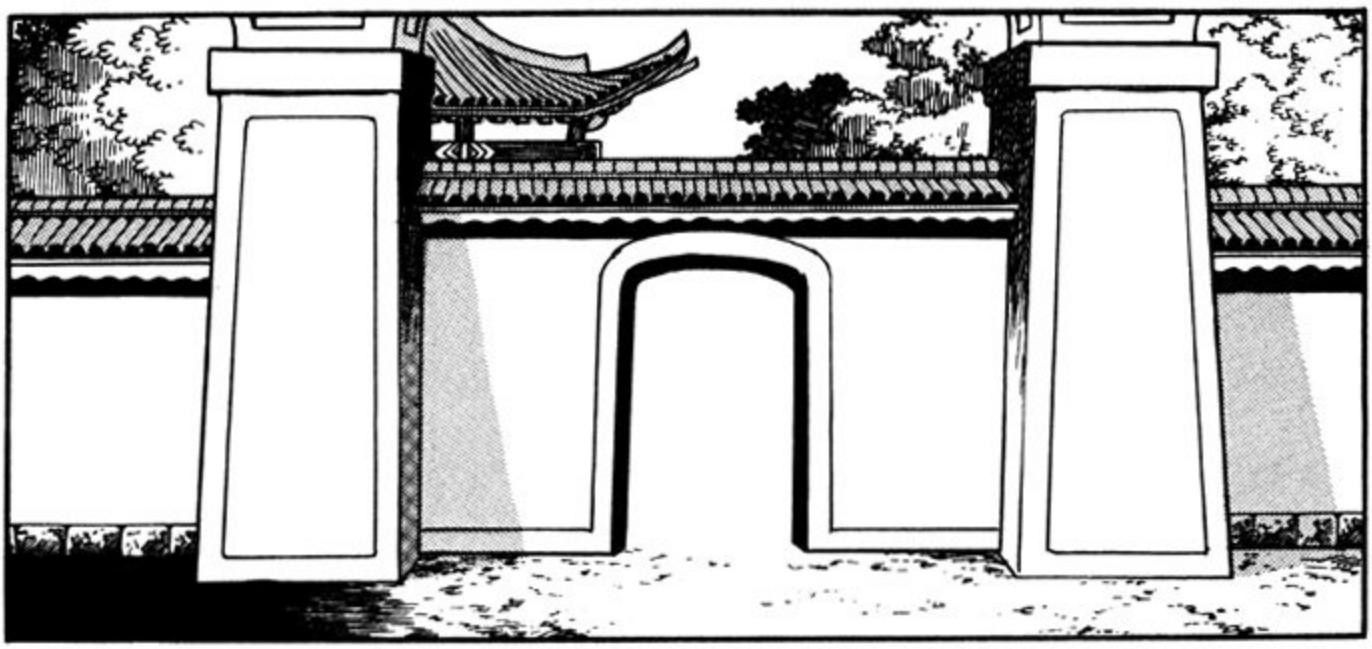
はい、蒙毅大臣も
扶蘇さまを
太子にしたかった
ようで……
もちろんこれは
趙高のでたらめで
あった。

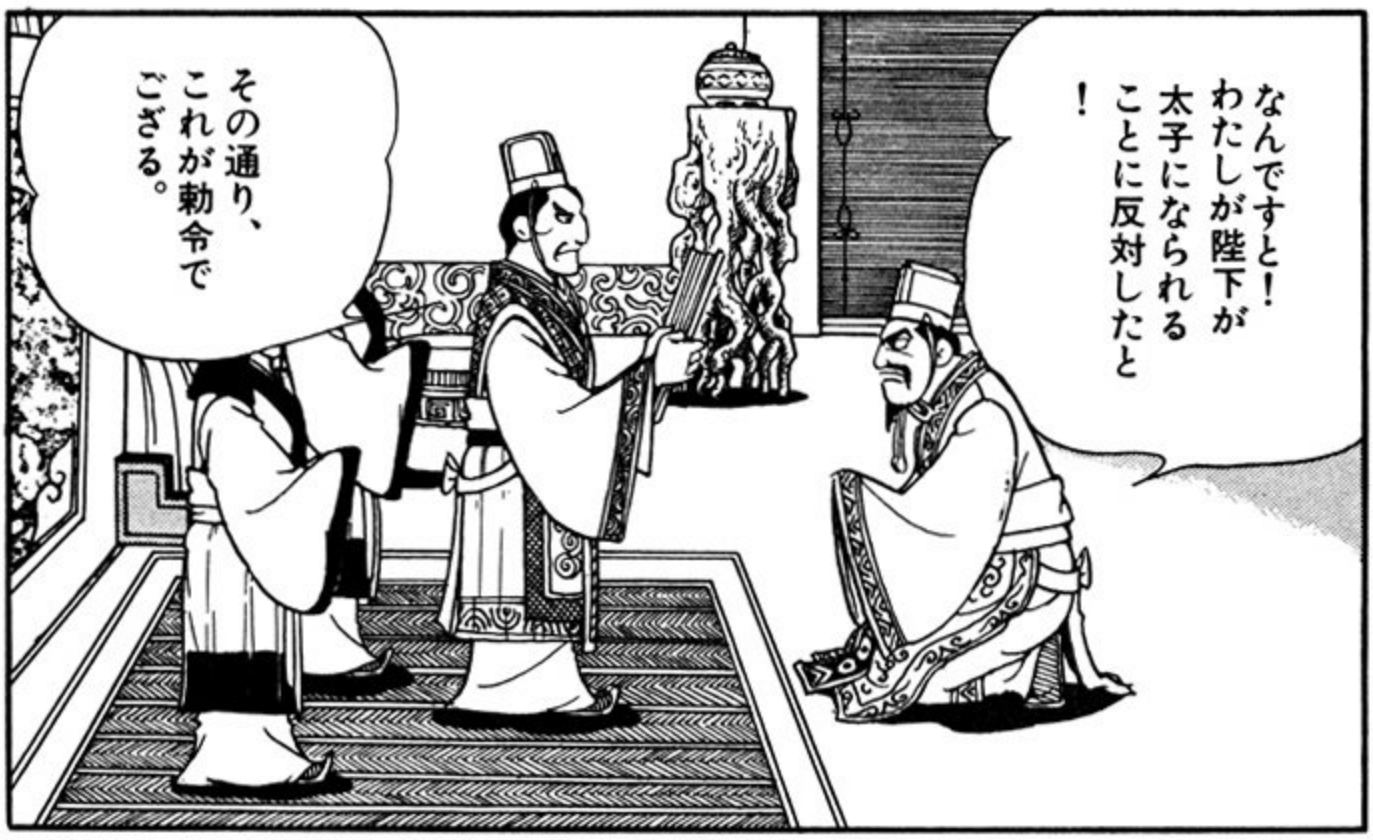
ムムム。

それを丞相に
相談しましたところ
丞相はそれは
不忠であると
みなしました。
この罪でお裁き
下さいますよう。
うむ。

32


ただちに勅使が
代の蒙毅大臣の
もとに向かった。

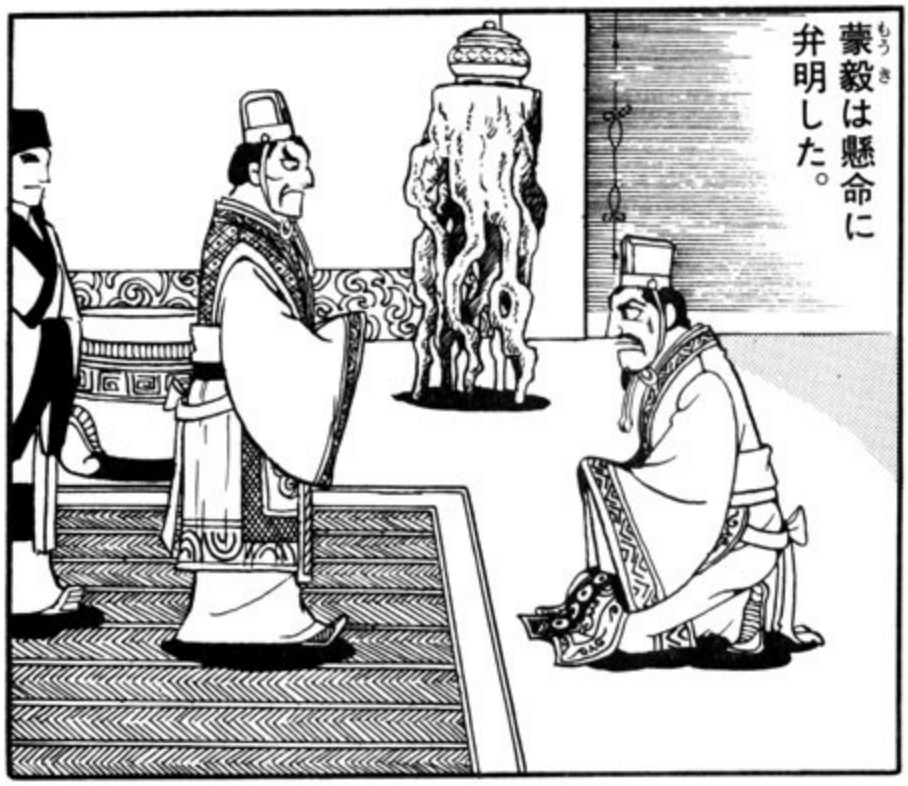



なんですと！わたしが陛下が太子になられることに反対したと！
その通り、これが勅令でござる。

33

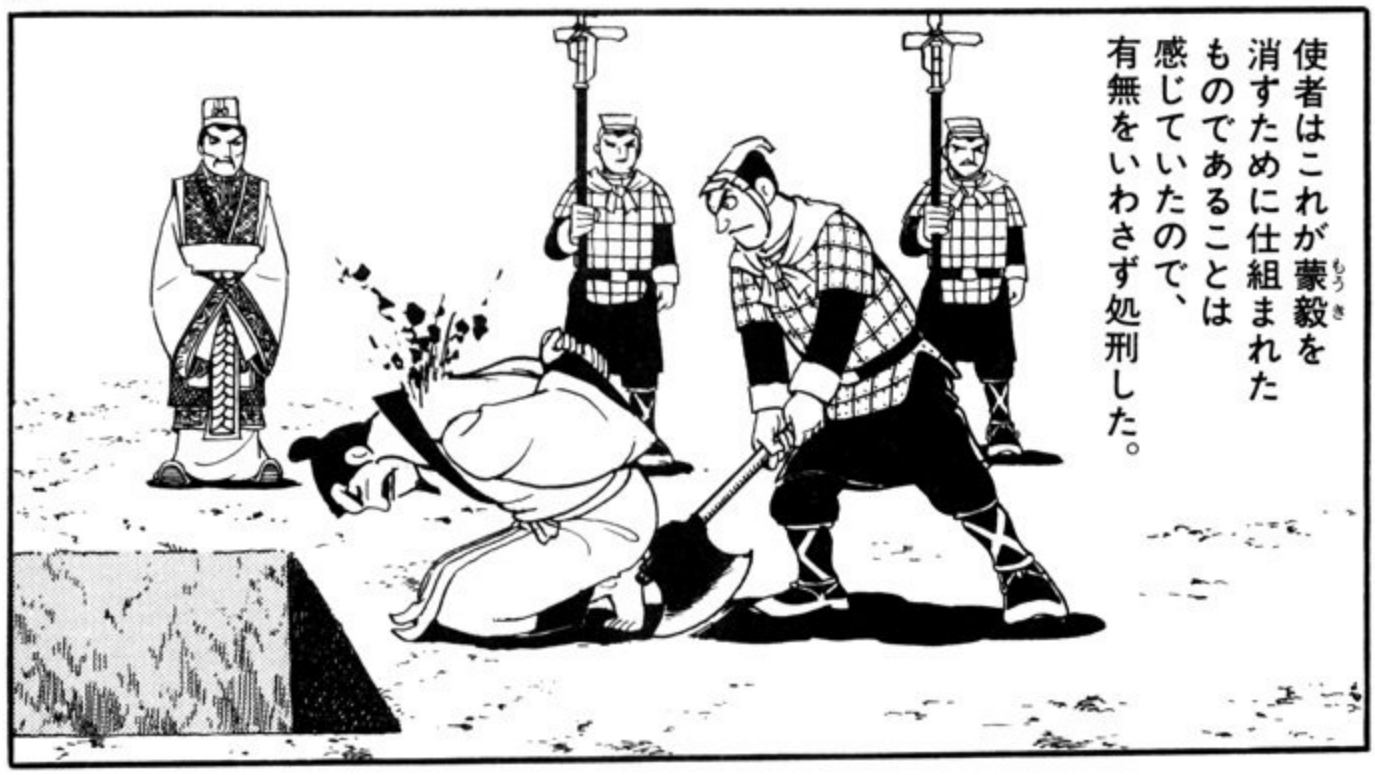
本来ならば蒙一族すべて罪を問われるのだが、蒙家は代々秦の重臣、よって蒙毅どの一人が死ねば一族の罪は許すと仰せられた。

しかしそれがし身におぼえのないこと……先帝は天才でございました。なんでそれがしごときが先帝のお考えに口を出せましょう。


蒙毅は懸命に弁明した。

蒙毅どの、それがしは陛下に命じられた使者、お役目を果たすだけにございます。

34


使者はこれが蒙毅を消すために仕組まれたものであることは感じていたので、有無をいわさず処刑した。

二世皇帝は次に陽周の蒙恬のもとに使者を送った。

35

蒙恬、その方は多くの過失があるうえ弟の蒙毅が大罪を犯し死罪となった。よってそなたも連座はまぬがれぬ。

ご使者どの、わが蒙一族は秦に仕えて三代にわたり功績を積んでまいりました。今 捕えられていると いっても、わたしには三十万の部下がおり反乱を起こそうと思えばいつでも起こせました。

それをしなかったのは代々にわたって蒙家を大事にして下さった恩を感じてのことでござる。

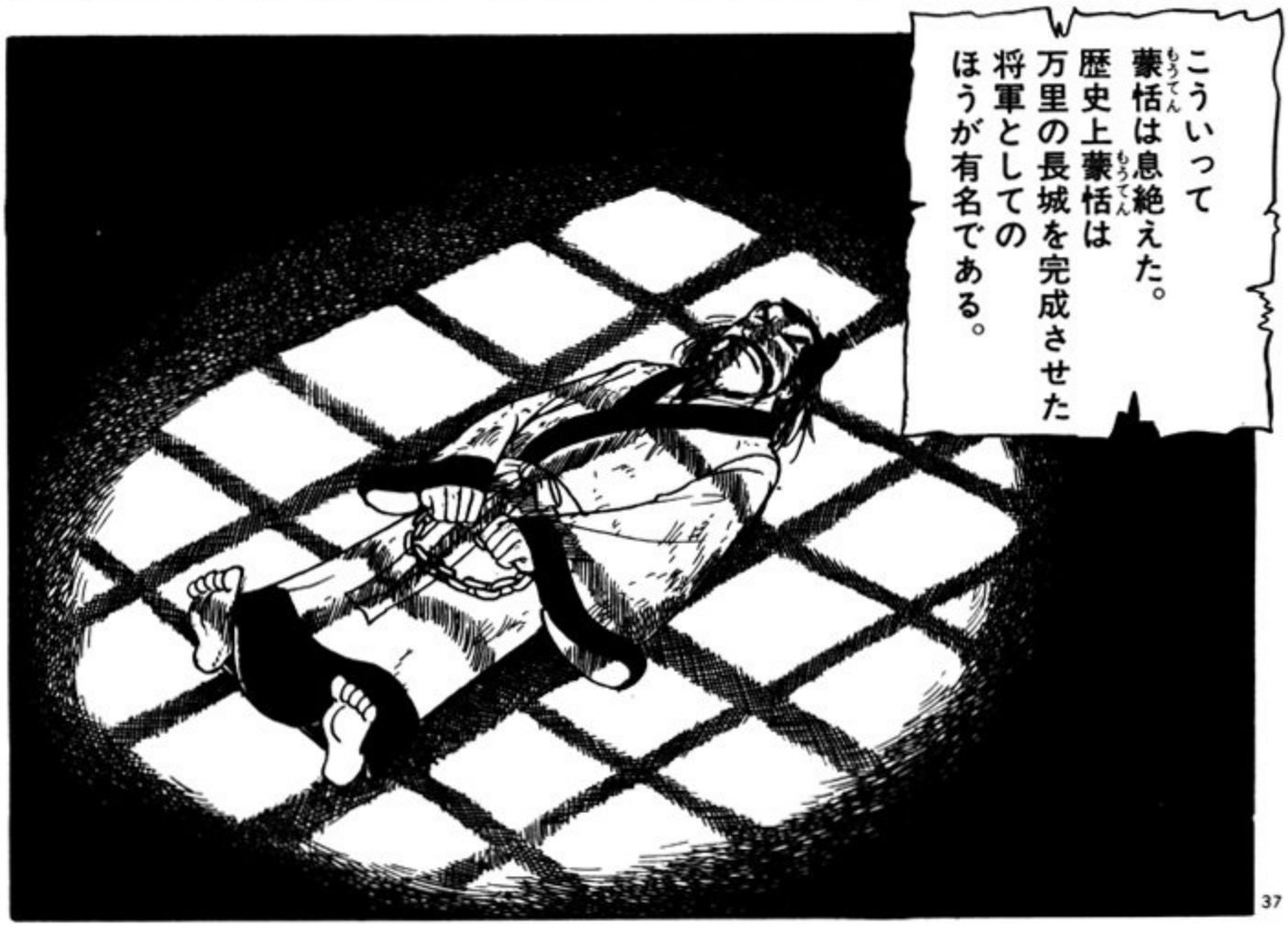
36

その蒙家ににわかにこのようなご処置……これは朝廷に逆臣があらわれ、その力は皇帝をしのいでいるからにございましょう。
……

こうなれば
それがしが何を
弁明しても
駄目でございましょう。
もしわしに罪があると
すれば、万里の長城を
築くために大勢の
人民を死なせたことで
ござろうかな。

そういうと蒙恬は
手渡された
毒をあおった。

陛下に蒙恬最期の
言葉としてお伝え
願いたい、
万民のために王道を
お歩み下さいと……

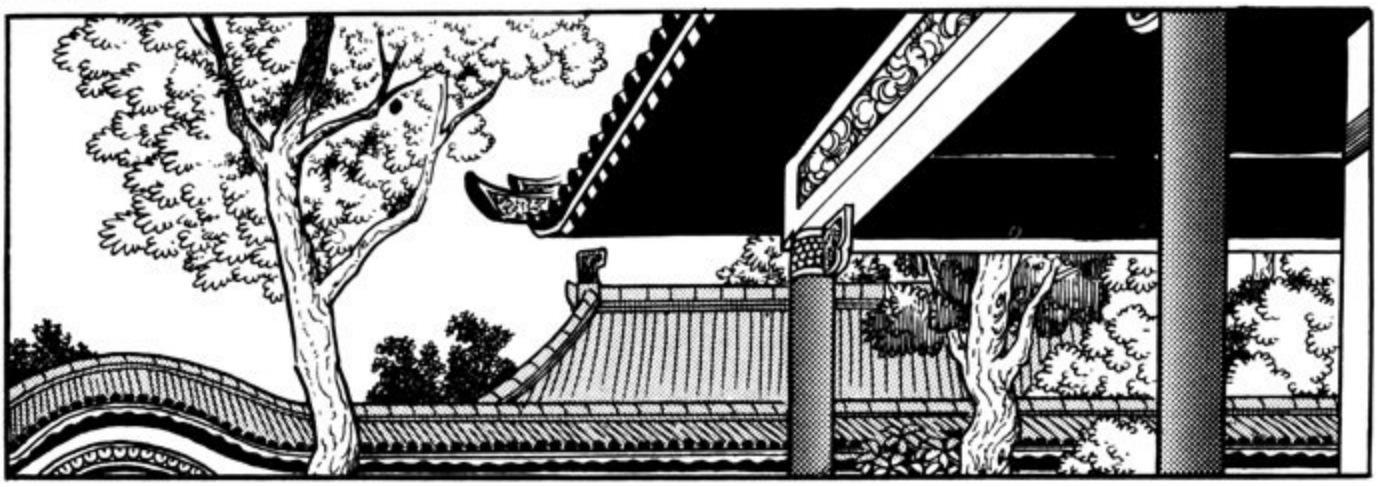

こういって
蒙恬は息絶えた。
歴史上蒙恬は
万里の長城を完成させた
将軍としての
ほうが有名である。

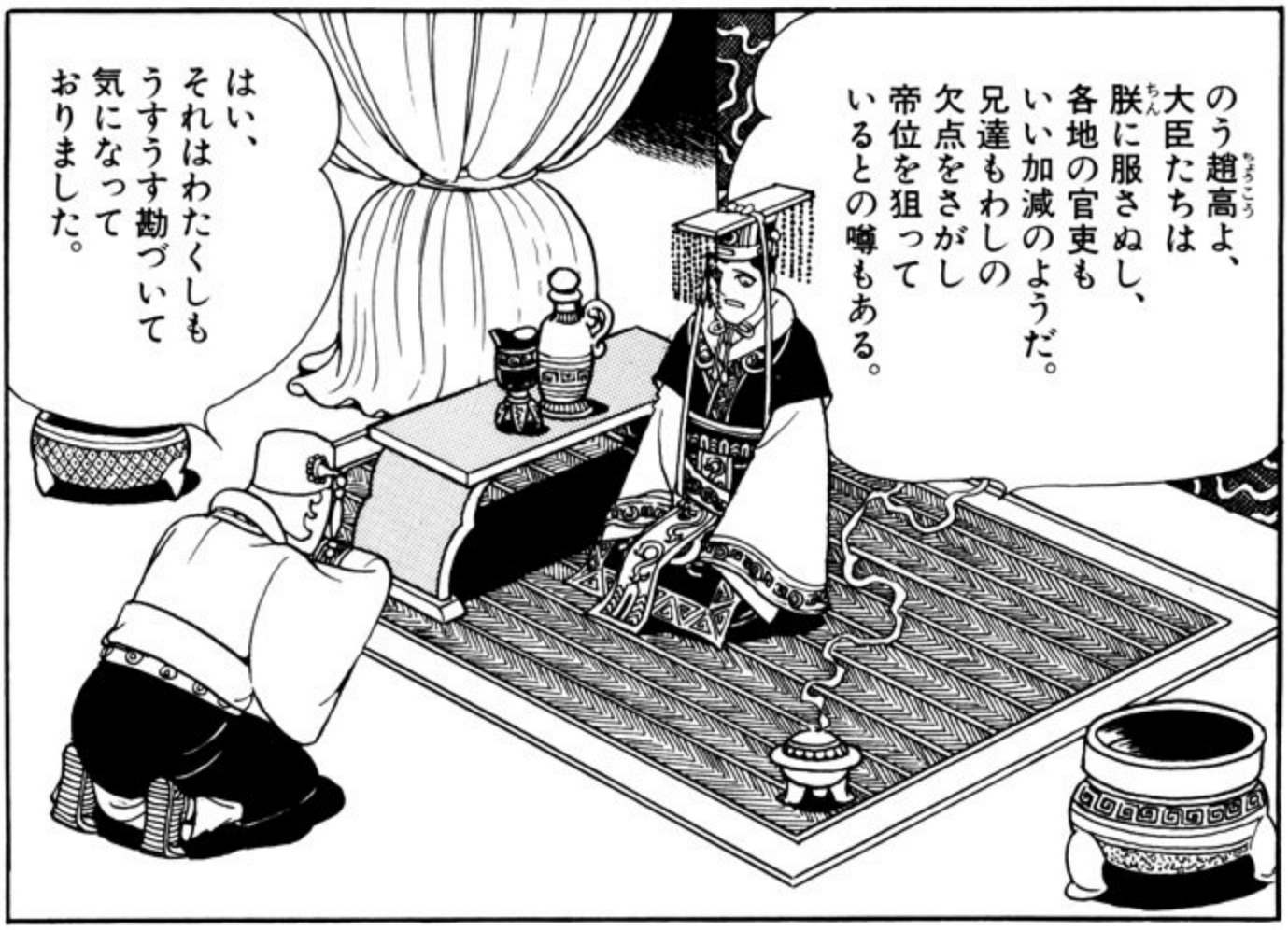
37

目の上の瘤を
落とした二世皇帝は
始皇帝を真似て
巡幸に出た。
二世皇帝としての
権威を高めるためである。

38

しかし始皇帝と
胡亥ではあまりにも
人間の器量が違いすぎた。
その巡幸は胡亥の
器量のなさを天下に
示す結果となった。




のう趙高よ、大臣たちは朕に服さぬし、各地の官吏もいい加減のようだ。兄達もわしの欠点をさがし帝位を狙っているとの噂もある。
はい、それはわたくしもうすうす勘づいて気になっておりました。

なにか皆が従う良い方法はないか。

まず各郡県の官吏をきびしく調べ罪ある者は処刑すべきです。

そこから、陛下を甘くみる大臣の監督責任を問い、連座によって兄上さま達まで取り除いていくのです。そうすれば皇帝の権威を知り、誰もが先帝に従ったように従いましょう。

よし、さっそく実行しよう。

40

よし、不平分子はこの際一気に粛清しよう。二世皇帝はしょせんわしのあやつり人形、胡亥(こがい)が皇帝の間は秦(しん)はわが意のままだ。

こうして
恐怖政治が始まった。

少しでも
落度があれば
大臣でも
官吏でも
容赦なく
処刑された。

41

不平派と見られた
者は、落度がなくても
罪をでっちあげられ
処刑された。

公子十二人が
咸陽の町で
処刑され……

42

公主（天子の娘）
十人が郊外で
磔にされ、すべての
財産は没収された。

ザッ
ザッ

43

将閭公子さま、そして弟君さま、皇帝の命により逮捕いたします。

なにっ??

いったい
われら兄弟は
何の罪で……
？

臣にあらざる
態度をとった
その罪は死に
あたいするとの
お言葉です。

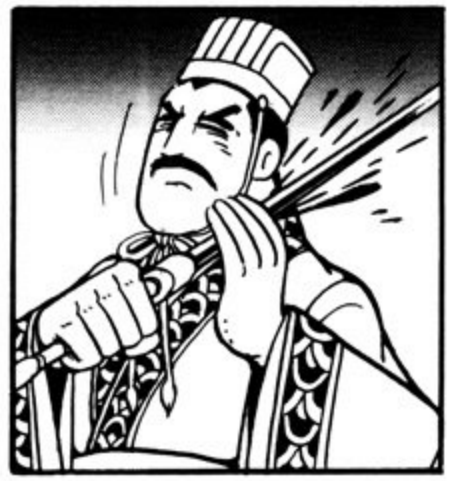
わたしが
臣にあらざる
態度をとった？
身におぼえがないぞ。
儀式の時はいつも
儀礼官にしたがい、
席次を乱したことも
ない。それが
どうして臣にあらざる
態度なのだ!?
わたしは
朝議に出た
わけでもなく、
これがどれを指す
のか知りませぬ。
陛下のご命令
通りに任務を
執行するだけです。

弟よ、他の公子も
理由もよく
わからぬまま
処刑された。
弁明も通らなかった。

兄上、これも
天命かも
しれませぬ。

天命ならば
いさぎよく死のう。
だがわれらに
罪はないぞ。
はい。

執行官、この言葉を
皇帝に伝えよ、
われに罪なし。



われに
罪なし。
われに
罪なし。

ドーッ

さらに連座で
その一族も処刑された。
その数は数えきれぬ
ほどであった。

46

秦帝国を築いた
功労者 李斯も
あまりのことに
なすすべも知らなかった。

そして
自分の身にもいずれ
禍がおとずれる
のではないかと
悪い予感に襲われた。

才能もないのに
自分の権威を高める
ためにおこなった
恐怖政治。
忠臣の大量粛清は
歴史をふり返ってみても
滅亡を早めるだけの
効果しかないことを、
胡亥(こがい)は
気付いていなかった。

『史記』第8集—完—

■『史記』関連年表

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
2550	黄帝、顓頊、帝嚳、堯、舜の五帝が支配した伝説の時代。	4000頃	エジプト初期王朝時代始まる。王都メンフィスを創設。
2144	夏、始まる。	2700頃	エジプト、ピラミッドを造営。
1711	殷、始まる。	2500頃	インダス文明はじまる。
1066	周、始まる。	2000頃	日本、縄文文化中期（発展期）。
1065	魯、燕、衛、晋、曹、蔡、呉、陳、宋、斉、楚の諸侯、成立。	1600頃	クレタ文明旧宮殿時代。日本、縄文時代後期。
		955	ソロモン（ダビデの子）イスラエル王となる。

770	**東周**、始まる。秦、諸侯に列する。	776	ギリシア、オリンピアで第1回オリンピア競技会開催。
722	**春秋時代**、始まる。	753	ローマ建国。
686	斉の**襄公**、公孫無知の謀犯により死す。		
685	斉の**桓公**、管仲を宰相に迎える。		
667	斉の**桓公**、周王より伯（覇者）を賜る。		
666	秦の**驪姫**、その子・奚斉を立てようとし、**重耳**らの追放をはかる。		
645	斉の宰相**管仲**死す。		
636	重耳、亡命19年ののち即位し、晋の文公となる。	625	新バビロニア王朝はじまる。
546	宋の向戌の提唱で、晋、楚、魯、蔡、衛、秦など13か国間の和平成立。以降40年間休戦となる。	539	新バビロニア王朝滅亡。ペルシア帝国隆盛期。
522	楚の**平王**、**伍奢**とその子伍尚を死罪に処す。伍尚の弟**伍子胥**、呉に逃げる。		
515	呉の公子光、王、僚を討ち王位につく。名を**闔廬**と改める。		
511	呉、**伍子胥**の計を用いて楚に侵入。	500	ペルシア戦争始まる。
506	呉、楚軍を破り、楚の都郢に入る。	500頃	日本、縄文晩期時代。
505	越、呉に侵入。楚の**申包胥**、秦の援軍を得て楚を救う。呉敗北。	490	マラトンの戦いでペルシア、ギリシアに敗れる。

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
496	呉王闔廬、越王句践と戦い、矢傷を負い敗死。		
494	呉王夫差、句践を会稽山で破る。		
484	呉王夫差、艾陵で斉軍を破る。伍子胥、呉王夫差より死を命ぜられ自害。		
482	呉王夫差、黄池で覇権を争う。その隙をついて越王句践、呉に侵入。呉、大敗を喫す。		
481	春秋時代終わる。		
479	孔子死す。		
473	越王句践、呉を滅亡させ、覇者となる。	457	ギリシア、オリンピアにゼウス神殿完成。
453	大国・晋、韓・魏・趙の三氏に分裂される。これより三晋おこる。	449	アテネ艦隊、キプロス島でペルシアを破る。ペルシア戦争終わる。
446	魏、文侯即位。魏の国力盛んとなる。	447	ギリシア、パルテン神殿着工。
403	戦国時代始まる。		
387	魏の文侯没す。呉起、楚に移り宰相となる。		
384	秦、殉死を禁止。		
381	楚の悼王没す。呉起、楚の貴族たちに殺される。		

367	周、西周と東周に分裂。		
359	秦の孝公、商鞅を左庶長に任じ、新法を公布、国内改革を断行。		
350	秦、咸陽へ遷都。		
341	斉の将軍田忌、孫臏の計により魏軍を破る。魏の将軍龐涓、自害。		
340	秦の商鞅、魏軍を破り、商・於に封じられる。	340頃	日本、弥生前期時代。
338	秦の孝公没す。商鞅、車裂の刑に処される。	336	アレクサンドル大王即位。
299	秦の昭王、斉の孟嘗君を迎える。	331	ペルシア帝国滅亡。
298	孟嘗君、秦より斉に逃げ帰り宰相となる。趙の恵文王、公子勝を平原君に封ずる。	317	インド、マウリア王朝を興す。
293	秦の白起将軍、韓・魏連合軍を伊闕で破り、二十四万人を殺害。		
289	このころ孟子没。		
286	斉、宋を滅ぼす。		
284	燕、秦、趙、韓、魏、連合して斉を討つ。燕の将軍・楽毅、斉都臨淄に攻め入る。		
280	秦の白起将軍、趙を破る。		

紀元前	中国
279	秦の**昭王**、趙の**恵文王**と澠地で会談。
	燕の昭王死去。**楽毅**、趙へ亡命。
	斉の**田単**、楽毅に奪られた七十余城を取り戻す。
	孟嘗君死去。
278	秦の**白起**将軍、楚を討ち、首都・郢を占拠。楚、東方の陳へ遷都。
277	秦の**白起**将軍、武安君に封じられる。
276	魏の公子無忌、**信陵君**に封じられる。
273	秦の**白起**将軍、魏・韓・趙連合軍を破り、13万人を殺害。
270	趙の将軍・**趙奢**、作戦で秦軍を破る。
266	秦の昭王、**范雎**を宰相に任じ、応侯に封じる。
262	楚の**孝烈王**即位。黄歇を**春申君**に封じる。
261	戦国時代最大の合戦、趙・秦の両軍による**長平の合戦**始まる。
260	趙の孝成王、**廉頗**将軍を罷免し、趙奢の子、**趙括**を総大将に任命。秦の**白起**将軍、趙軍を長平で大破し、捕虜四十万余を生き埋めにする。

紀元前	世界の国々
276	第一次シリア戦争始まる。
269	ローマ、銀貨を初めて鋳造。
268	インド、アショーカ王即位。
264	マウリア王朝最盛期に。第一次ポエニ戦争始まる。

257	秦の**白起**将軍自害。秦の王陵将軍、趙の都、邯鄲を包囲するも、楚の**春申君**、魏の**信陵君**の助太刀により大敗。		
256	**秦**、西周を滅ぼす。		
255	秦の昭王、**范雎**を罷免する。	256	ローマ海軍、シチリア南岸沖でカルタゴ海軍を破る。
249	秦の昭王、**呂不韋**を相国とする。		
247	秦、魏に侵攻。魏の**信陵君**、五か国の兵を率いて秦を破る。	248頃	パルティア王国建国。
246	**秦王・政**（後の始皇帝）即位。呂不韋、幼君政に代わって執権。		
241	趙・楚・魏・燕・韓の5か国、連合して秦を攻め、函谷関に敗れる。	241	第一次ポエニ戦争終わる
238	楚の李園、**春申君**を殺害。		
	秦の長信侯・**嫪毐**、謀反を起して失敗、車裂きの刑に処される。		
237	秦の**呂不韋**、相国を解任され楚の**李斯**、秦王に登用される。		
235	秦の**呂不韋**自害。		
233	韓の公子・**韓非**、和平の使者として秦に送られ、後に獄中で毒を飲み自害。	232	アショーカ王没。

紀元前	中国	紀元前	世界の国々
230	秦により韓滅亡。		
228	秦により趙滅亡。趙の公子・嘉、代に逃亡し代王となる。		
227	燕の太子・丹、荊軻を刺客として秦王の許に送り失敗、太子丹、遼東に逃亡。秦の王翦、燕を討つ。		
226	燕の太子丹、遼東で死去。		
225	秦により魏滅亡。		
223	秦により楚滅亡。		
222	秦により燕、代滅亡。		
221	秦、天下統一。秦王・政、始皇帝と改称。李斯を丞相に任命し、群県制を実施。		
220	始皇帝、第一回巡幸（西方）。		
219	始皇帝、第二回巡幸（東方）。霊峰・泰山にて封禅の儀式をとり行う。		
218	始皇帝、第三回巡幸。韓の張良、博浪沙にて暗殺を試みるが失敗。		
215	始皇帝、第四回巡幸。蒙恬将軍、匈奴を討伐。	215	第一次マケドニア戦争起こる。
214	万里の長城の建設始まる。		
213	禁書の布令出る（世に言う「焚書」）。		
212	驪山陵、阿房宮の建設始まる。儒者四百六十余人		

210	を生き埋めにする。（世に言う「坑儒」）。始皇帝、第五回巡幸中、沙丘平台にて死去。驪山陵に葬る。		
202	劉邦、項羽を破り、漢王朝を興す。劉邦、皇帝・高祖を名のる。	205	第一次マケドニア戦争終る。
145	司馬遷、生まれる。（異説あり）。		
140	武帝、天下の大学者、董仲舒を得る。	144	ローマ、マルキア水道建設。
136	武帝、五経博士を置く。		
110	武帝、泰山で封禅を行なう。	133	グラックス兄弟の改革。
104	太初暦（陰暦）完成。		
99	匈奴軍に降った李陵を弁護したため、司馬遷宮刑に処される。		
96	司馬遷、大赦により出獄し、中書令に任命される。		
87	武帝死去。	87	民衆派ローマを占領。恐怖政治始まる。
86	司馬遷死去。（異説あり）。		

●四六変型判●各224～288ページ
●定価(各)650円～700円〈税込〉

続刊 畑中純［理想宮］②巻
●7月26日ごろ発売！

小学館

ハートフル・ストーリー!!

男と女の愛のさまざまな風景を優しく語る好評シリーズ!!
近藤ようこ［**心の迷宮**］①巻

ツタンカーメンと王妃の愛、そして多神教から一神教へと移り行く宗教ドラマ!!
里中満智子［**アトンの娘**］全③巻

一球に泣いた男、笑った男。白球の中に見た多くの人びとの人情ロマン!!
水島新司［**平成野球草子**］①～⑤巻

最新刊⑤巻

貧しい農民に生まれ、苦闘のすえに農政の実務家となった男、二宮金次郎の魅力!!
ジョージ秋山［**博愛の人**］①～⑤巻

最新刊⑧巻

歴史を記すことに一身を賭けた司馬遷の「史記」、中国第一の歴史書の完璧なコミック化。
横山光輝［**史記**］①～⑧巻

どんな状況でも対応できる鍛え抜かれた兵士たちが、極限状態で見たものは!?
松本零士［**ケースハード**］①～④巻

謎の怪人等々。強烈な個性が入り乱れて綴る「幸福」をめぐるユーモラスな連作。
水木しげる［**妖怪博士の朝食**］①～③巻

迷いようもない整然としたニュータウンの町、真っすぐ伸びた道路の果ては!!
齋藤なずな 作品集①［**迷路のない町**］

ビッグゴールド BGC コミックス

心の底から暖かくなる

晶子、漱石、山頭火など、文学者の愛と死のドラマを見つめ、作品と作家の秘密に迫る力編。

齋藤なずな 作品集②「恋愛烈伝」(上)

中国大陸でたくましく生きた日本人の芸妓たち!!日中近代史を女性の側から見直す…!!

竹宮惠子「紅(くれなゐ)にほふ」①〜②巻

世の流れに翻弄されながらも、己れの信じた道を突き進む人間たち。〝男〟の心意気!!

青柳裕介 作品集①「男の船出」②「男達の航海」

公園の明るい日差しの中で老人の心に芽ばえる殺意のゆくえ!?日常生活のリズムが…。

青柳裕介「ゼンマイ仕掛けの犯罪白書」①巻

夢と現実の狭間に建つ幻想のミュージアムへようこそ!!奇才の怪作群!!

岡崎二郎 作品集①「トワイライト・ミュージアム」

花のように華やかに、自分の作りたい家を自分で作る!!〝建築〟の本義に迫るコミック。

畑中 純「理想宮」①巻

開国か攘夷か!?で揺れる幕末に、激動の波を超え、未来へと時代を動かした名旅籠が!!

石ノ森章太郎「HATAGO―〈旅籠〉―」①巻

血湧き肉躍る面白さの極地!!真田十勇士、猿飛佐助の大活躍!!

石ノ森章太郎「石ノ森版 立川文庫①猿飛佐助」

BIG OF BIG COMICS

愛蔵版コミック 小学館叢書

ゆっくり過ぎる四季の息づかい。江戸の生活感あふれる捕物帖。成人コミックに新世界を拓いた傑作シリーズ!!

石ノ森章太郎「佐武と市捕物控」1～4巻

江戸のあかりの中、明治の曙光の中そして近代の闇の中を女が生きる！愛を、肉体を、力を武器に――。人間のあり様を描破する作品集。

一ノ関圭「一ノ関圭作品集」全2巻

人間の心の奥底にひそむ憎悪、哀しみ。それが表面に行動となって現れたとき人間はどうなる?戦慄を呼ぶ入魂の大作。

楳図かずお「おろち」全3巻

青春の一瞬一瞬のきらめきと、感動を描ききった珠玉短編！1巻「雨の音がきこえる」、2巻「たそがれは逢魔の時間」。

大島弓子「大島弓子短編集」全2巻

激動の昭和時代を美しくもしたたかに生き抜いた芸者・つるの半生――。昭和の絵師・上村一夫が心をこめて描いた昭和女性史!!

上村一夫「凍鶴」全1巻

超A級の狙撃者の必殺の一弾！フィクションの背後に光る恐るべき真実…!!作者自選の傑作、話題作を収録した必読の六冊!!

さいとう・たかを「ゴルゴ13」1～6巻

徹底した封建制の下にあって、宿命と戦い、あくまでも自分の意志のとおりに生きようとする青年群像。不滅の大河史劇!!

白土三平「カムイ伝」全15巻

天下が豊臣から徳川へと傾きつつある時。両陣営の忍者たちが凄絶な死闘をくりひろげるなかに、少年忍者、サスケがいた。

白土三平「サスケ」全8巻

混乱の戦国時代にあって、忍者とは最も人間性を否定された存在であった――。歴史と人間そのものを見すえる白土思想の原点が！

白土三平「忍法秘話」全5巻

群雄割拠する戦国の世、天下統一を目ざす織田信長に公然と反抗する謎の忍者・影丸!!感動の戦国ロマン史劇。

白土三平「忍者武芸帳・影丸伝」全8巻

封建社会の身分制度に疑問を抱き、忍の世界を抜けたカムイ。自由への過酷な旅は続く…。鬼才・白土三平、不滅の名作!!

白土三平「カムイ外伝」全12巻

19世紀後半、フランス――美少年二人の生き方を通して愛と性を大胆に描いた、話題の大長編ドラマ!!

竹宮惠子「風と木の詩」全9巻

両性体の皇子ティオキアは地下に眠る古代王国の謎を解き、魔力を得ていく。だが不思議な世界を巡ったのち彼には…!?

竹宮惠子「イズァローン伝説」全6巻

ひとりの若者が、そのパワーと型破りの生き方で相撲界に波乱を呼ぶ…!!ちばてつや話題の傑作、立志編・風雲編、登場!!

ちばてつや「のたり松太郎」1～8巻

不安、緊張、そして心地よい無力感にひたる。まさしく「夢」の増殖としか呼びようのない名作短編！つげ宇宙へ導く必読のこの一冊!!

つげ義春「ねじ式・紅い花」全1巻

町工場・長屋そして路地が続く戦後の場末。暗がりの不条理の中で爆発する青春のエネルギーを描く、傑作短編!!

つげ義春「ヨシボーの犯罪」全1巻

近代国家への陣痛にうめく動乱の江戸末期、来るべき世界を見すえるエリートの熱血と苦悩！巨匠が自らのルーツに肉迫した巨編!!

手塚治虫「陽だまりの樹」全7巻

謎の奇病モンモウ病に挑む青年医師"小山内桐人"。彼の直面する現実は、自らの病の羅患、そして医学界の権力争い…!!

手塚治虫「きりひと讃歌」全2巻

悪とは何か!?略奪、恐喝、誘拐、詐欺、殺戮…。現代人の心に巣食う様々な悪徳の姿をコミック界の巨匠が鋭く描破!!

手塚治虫「M(ムウ)W」全2巻

永遠の珠玉作!!「ロストワールド」「魔法屋敷」「ファウスト」など、全てはここから始まった。今、巨匠から現代人に…!!

手塚治虫「手塚治虫初期傑作集」1～8巻

小学館

これを読まずにコミックを語るなかれ。感動の名作ずらり!

辺境の地へ左遷された商社マン日本人(ひのもとひとし)は、再起をかけて闘うが…。日本人とは何か!?を問う、巨匠、未完の絶筆!!

手塚治虫[グリンゴ]全2巻

妖しい魅力に包まれた女・ゼフィルス。彼女を見た男達はその美しさに狂い破滅していく…。雄大なスケールで迫る手塚漫画の異色作。

手塚治虫[地球を呑む]全1巻

映画監督・伊万里大作は、変身できる美女I・Lを使って現代社会の演出を試みる。男と女の愛の姿を描く巨匠・手塚の異色短編集!!

手塚治虫[I・L(アイエル)]全1巻

19世紀から20世紀にかけて欧州を舞台に永遠の時間を生き続けるバンパネラ一族を描いた壮大な叙情詩!!愛と苦悩の物語。

萩尾望都[ポーの一族]全3巻

ドイツの男子全寮制高等中学校を舞台に、少年たちの透きとおるような愛と友情を描いた感動の長編!!

萩尾望都[トーマの心臓]全1巻

女のいない地球。男たちは唯一の母(マザ)から子供をもらい社会を営む。しかし、ある日マザが暗殺され…。

萩尾望都[マージナル]全3巻

幸子の幸せは…。裸電球の下、四畳半の下宿の部屋で繰り広げられる原点の愛。七〇年代のラブストーリーが甦る!

林　静一[赤色エレジー]全1巻

仙人との出遭いが一人の男の人生を変えた。男は鬼界支配の術を知り、幽玄なる世界を臨む。世の変革者たり得るのか…!!

小池一夫/平野仁[青春の尻尾]全4巻

痛烈な風刺のなかに、歳月の重さと、人生のすばらしさを、しみじみと謳いあげる短編集。大人のSFショート・ショート。

藤子・F・不二雄[藤子・F・不二雄異色短編集]全3巻

寄席に生きる難行苦行。涙かくして笑ってみせる生涯こそが名人芸。高座にかけた、噺家達の喜怒哀楽、まずは一席!!

古谷三敏[寄席芸人伝]1〜2巻

二十一世紀の終わり、地球からアンドロメダまで宇宙を駆けめぐる謎めく愛、ロマンの旅。一度は乗りたい銀河鉄道!!

松本零士[銀河鉄道999]全10巻

次つぎと消える街並と人々。そんななか、屋台を引いて生計を立てている四畳半の怪人・ワダチ。彼を襲う奇妙な事件!?

松本零士[ワダチ]全1巻

戦争とは?平和とは?そして青春とは何か?過酷な戦場で、男の意地と誇りをかけて戦い、消えていった男たち!!

松本零士[ザ・コクピット]全5巻

1999年9月9日0時9分9秒…。遊星ラーメタルが地球に接近!雨森始が出会った謎の美女の使命とは未来版竹取物語。

松本零士[1000年女王]全3巻

「ヤンの生きた世界」「未完成」など、ういういしい珠玉のファンタジーロマン23編を収録した、愛と感動の傑作短編集!!

松本零士[四次元世界]全1巻

烈風さかまく大岩壁を、空気も凍る極寒の尾根を自らの生命までも犠牲にして、なぜ男たちは山へ。注目の異色連作!!

村上もとか[岳人(クライマー)列伝]全1巻

少年忍者影丸に、甲賀忍者の不気味な罠がしのびよる。宿敵、不死身の男・邪鬼を相手にくりひろげる一大忍者アクション!!

横山光輝[伊賀の影丸]全4巻

大都会の片隅に生きる若者達の心の遍歴…。病めるアメリカで突っぱって生きるヒースとその仲間たち…!!

吉田秋生[カリフォルニア物語]全4巻

謎の少女・叶小夜子が転校してきた日から、学園は変わった。美しさとあやしい魅力で人を引きつける小夜子とは…。

吉田秋生[吉祥天女]上・下巻

※以下続刊

BIG GOLD COMICS
ビッグゴールドコミックス

史記
始皇帝

1995年7月20日　初版第一刷発行

著者
横山光輝
© 1995 MITSUTERU YOKOYAMA
発行者
猪俣光一郎

発行所
株式会社　小学館
振替(00180-1-200)
〒101-01 東京都千代田区一ツ橋2-3-1
[編集]TEL03・3230・5481 [販売]TEL03・3230・5749

印刷所
株式会社美松堂(カバー・表紙)
中央精版印刷株式会社

装幀
海野一雄
＋
Bay Bridge Studio

●本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載・上演・放送等をすることは、
法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。
●造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、「業務部」あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。業務部(TEL0120-336-082)
Ⓡ本書の一部または全部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。
本書から複写を希望される場合は、日本複写権センター(TEL03-3401-2382)にご連絡ください。

検印廃止

ISBN4-09-189048-2

Printed in Japan